

ルモ證書類ハ即チ權利義務ニ關スル書類ニシテ財物中ニ包含スルヤ勿論ナリ故ニ本條ハ證書類ノ文字ヲ删除セリ

騙取トハ欺罔行爲ノ結果トシテ被欺罔者又ハ其他ノ者ガ其所持セル財物ヲ欺罔者ニ讓渡セシムコトヲ決意シタル事實及ビ所持者ガ讓渡セント決意シタル動産ヲ取去スル行爲ヨリ成立スルモノトス換言セバ欺罔ト騙取トノ間ニ原因結果ノ關係アルコトヲ要スト謂フニアリ
本條第二項ハ第一項ズ主旨ヲ擴張セシモノナリ

第二百四十七條 他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者ガ不正ニ自己又ハ第三者ノ利益ヲ圖リ之ガ爲メ本人ニ損害ヲ加ヘタル場合ノ罪ヲ定ム蓋シ他人ノ爲メ事務ヲ處理ス可キ義務アル者ハ忠實ニ其義務ヲ履行セザル可カラザルニ不正ノ行爲ヲ以テ自己又ハ第三者ヲ利シ本人ニ損害ヲ加フル

ガ如キハ嚴罰セザル可カラズ

第二百四十八條 未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シテ其財物ヲ交付セシメ又ハ財産上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ未成年者ノ知慮淺薄又ハ心神耗弱ヲ利用シタル取財罪ヲ規定ス

本條ハ舊刑法第三百九十一條ト同主旨ニシテ畢竟斯ル奸計ヲ運ラスノ徒ハ假令欺罔ヲ手段トセザルニ拘ハラズ罰ス可キモノトセリ又舊刑法ハ財物ヲ交付セシメタル場合ノミヲ規定スルモ本條ハ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル場合ヲモ加ヘ其趣旨ヲ擴張セリ

第二百四十九條 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

本條ハ恐喝取財ヲ規定スルモノニシテ舊刑法第三百九十條ト同一主旨ナリ

本條ノ罪ノ成立ニハ恐喝ノ事實ナカル可カラズ恐喝トハ現在ノ害惡以外ノ害惡ガ到來スベキ旨ノ通知ニ依リ他人ヲ畏怖セシメタル行爲ヲ謂フ例ヘバ舊惡ヲ告訴スベキ旨ノ通知又ハ第三者ガ他人ヲ殺傷スベキ旨ノ通知ノ如キ是レナリ

財物交付ノ行爲ハ詐欺取財ニ付テ説明セル財物騙取ト同一意義ナルヲ以テ之ヲ省略ス尙ホ又本條後段財産上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ得セシメタル者トハ恐喝取財ノ範圍ヲ擴張シタルニ外ナラザルハ詐欺取財ニ付テ述べタル如シ

第二百五十條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百五十一條 本章ノ罪ニハ第二百四十二條、第二百四十四條及ヒ第

二百四十五條ノ規定ヲ準用ス

本條ハ自己ノ物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタル物ナルニ於テハ恐喝シテ之ヲ交付セシメタルトキハ犯罪ヲ構成ス可キ者竝ニ親族間ニ於テ行ハル、恐喝取財及ビ電氣ノ交付ニ付テハ詐欺取財ノ規定ヲ準用スベキモノト規定ス

第三十八章 横領ノ罪

第二百五十二條 自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ

懲役ニ處ス

自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ

本條ハ横領罪ヲ規定スルモノニシテ舊刑法第三百九十三條第三百九十五條ヲ改修シタルモノナリ

法文ニ自己ノ占有スル他人ノ物トアルヲ以テ自己ノ占有セザル他人ノ物ヲ横領スルモ本條ヲ以テ處斷ス可キニアラズ而シテ其他人ノ物ハ動産タルト不動産タルト問ハザルナリ横領トハ不法ニ有體物ニ付キ所有權者ニ類似スル支配ヲ爲ス行爲ヲ云フ例ヘバ他人ノ物ヲ占有スル物ガ其物ヲ自己ノ物ノ如ク賣買シ或ハ質入シ又ハ賃貸スルガ如キ是レ横領ナリ
第二項ハ假令自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者ハ

横領罪ニ依リ處斷ス可キモノトセリ

第二百五十三條 業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ業務上寄托ヲ受ケタル物ヲ横領シタル者ノ罪ヲ規定ス

本條ハ畢竟業務者ト云フ身分アルヲ理由トシテ其罪ヲ重ク罰スルニ過ギズ

第二百五十四條 遺失物、漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

本條ハ遺失物漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ横領シタル者ノ罪ヲ規定スルモノニシテ舊刑法ノ第三百八十五條ニ該當ス

同ジク横領罪ナリト雖モ本條ノ如ク所有者ノ明確ナラザル物ヲ横領スルハ其情ニ於テ恕スベキノ點アルヲ以テ本條ハ之ヲ輕ク罰セリ

第二百五十五條 本章ノ罪ニハ第二百四十四條ノ規定ヲ準用ス

本章横領罪ガ直系血族配偶者及ビ同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テ犯シタル者及ビ其未遂

罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ其他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ俟テ其罪ヲ論ズルモノトセリ又親族又ハ家族ニ非ザル共犯ニ付テハ本法第二百四十四條第一項ノ規定ヲ適用セザルナリ

第三十九章 贓物ニ關スル罪

第二百五十六條 贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ舊刑法第三百九十九條第四百一條ノ規定ヲ修正シタルモノニシテ贓物ニ付テノ規定ナリ

贓物トハ犯罪ニ因リテ所持ヲ取得シタル動産不動産ヲ謂フ例ヘバ強窃盜ニ因リ得タル者又ハ詐欺若クハ恐喝ニ因リ得タル物ノ如キヲ云フ

收受トハ贓物ノ處分權ヲ取得スル行爲ヲ云フ故ニ贓物ノ處分權ヲ得タリト云フ能ハザル行爲

例へハ贓物ヲ他人ト共同飲食スル行爲ノ如キハ之ヲ收受ト云フヲ得ザル可シ
 第二項運搬トハ贓物ノ場所ヲ移轉セシムル行爲ヲ云フ寄藏トハ預カル行爲ニシテ多少藏匿ノ
 意味ヲ含ム故買トハ贓物ノ有償取得ヲ云フ賣買交換ノ如シ
 牙保トハ贓物ト賣買ヲ媒介シテ其賣買ヲ遂ゲシメタルコトヲ云フ

第二百五十七條 直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及ヒ此等ノ者
 ノ配偶者ノ間ニ於テ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除ス
 親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

本條ハ本法第二百四十四條ト同一精神ナルヲ以テ茲ニ再說セズ

第四十章 毀棄及ヒ隱匿ノ罪

第二百五十八條 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七
 年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル罪ヲ規定ス

公務所トハ公務員ガ其職務ヲ行フ場所ヲ謂フモノニシテ官署公署ノ如キ場所ヲ云フ
 毀棄トハ文書ノ效用ヲ失ハシムルモノニシテ全部又ハ一部ノ破棄ハ勿論損壞以外ノ方法ニ依
 リ事實上文書ノ效果ヲ滅却セシムル行爲ヲモ包含ス

第二百五十九條 權利、義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ五年
 以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ他人ノ權利義務ニ關スル文書ヲ毀棄シタル者ノ罪ヲ規定スルモノニシテ舊刑法第
 四百二十四條ニ相當ス

舊刑法ハ他人ノ權利義務ニ關スル證書類ヲ毀棄滅盡シトアルヲ本條ハ權利義務ニ關スル文書
 ヲ毀棄シト改定シタルモノニシテ其趣旨ニ於テハ同一ナリ權利義務ニ關スル文書トハ財産上
 又ハ身分上ノ權利義務ニ關スル文書ヲ謂フニ外ナラズ

第二百六十條 他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役
 ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷
 ス

第二百六十條 本條ハ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタル者ノ罪ヲ規定スルモノニシテ舊刑法第四百十七條ニ該當ス舊刑法ハ人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シトセルモ家屋モ建造物ノ一種ニシテ特ニ掲グルノ必要ナシトノ趣旨ニテ廣ク建造物ノ中ニ包含セシメタリ

艦船トハ大ハ軍艦汽船ヨリ小ハ河川ニ泛ブ和船ノ類マテモ包含ス

第二百六十一條 前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞又ハ傷害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百六十二條 本條ハ前三條以外ノ物ヲ損壞又ハ傷害シタル罪ヲ規定スルモノニシテ舊刑法第四百十八條乃至第四百二十三條ノ規定ヲ網羅セリ即チ舊刑法第四百十八條ノ人ノ家屋ニ屬スル牆壁及ビ園池ノ裝飾又ハ田圃ノ樊園牧場ノ柵欄ヲ毀壞スルガ如キ又舊刑法第四百二十二條ノ人ノ牛馬ヲ殺スガ如キ場合ヲ包含セシメタリ

第二百六十三條 自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シタル場合ニ於テ所有者ガ隨意ニ處分ルモノヲ損壞又ハ傷害シタルトキハ前三條ノ例ニ依ル

本條ハ自己ノ物ト雖モ場合ニ依リテハ損壞罪若クハ傷害罪ノ成立スルコトヲ規定ス

假令自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シタル場合ニ於テ所有者ガ隨意ニ處分シ得ルトセバ他人ノ權利ヲ毀損スルヲ以テ之ヲ罰スルニ外ナラズ假ハ他人ニ抵當ニ供シ若クハ賃貸セル家屋ヲ損壞スルガ如キハ不法ノ行爲ナリ

第二百六十四條 他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百六十五條 本條ハ他人ノ信書ヲ隱匿スル罪ヲ規定ス是レ舊刑法ノ規定セザル所ニシテ本法ノ新ニ設クル所ナリ信書トハ封書ハ勿論葉書マデモ包含ス然レドモ權利義務ニ關スル信書ハ之ヲ包含スルニニアラズト解釋セザル可カラズ何トナラバ權利義務ニ關スル文書ハ第二百五十九條ニ依リ處斷ス可キモノナレバナリ

第二百六十六條 第二百五十九條、第二百六十一條及ヒ前條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二百六十七條 本條列擧ノ犯罪ハ輕微ナルト主トシテ被害者ノ利益ヲ保護スルニアルヲ以テ被害者ニ於

テ處罰ヲ望マザルニ於テハ強テ訴追スルノ必要ナシト認メタルニアリ

新刑法註釋 (丁)

追加

現行刑法
刑事訴訟法

テ處罰ヲ望ムマザルニ於テハ強テ訴追スルノ必要ナシト認メタルニアリ

新刑法註釋 (了)

追加

現行刑法
刑事訴訟法

現行刑法及刑事訴訟

法ヲ參考トシテ記載

ス

松雲堂編輯所編

○刑法

一三年七月布三六號

刑法別冊ノ通改定候條此旨布告候事

(別冊)

刑法目次

第一編 總則

第一章 洪例

第二章 刑例

第一節 刑名

第二節 主刑處分

第三節 附加刑處分

第四節 懲罰處分

第五節 刑期計算

第六節 假出獄

第七節 期滿免除

第八節 復權

第三章 加減例

第四章 不論罪及ヒ減輕

第一節 不論罪及ヒ宥恕輕

第二節 自首減輕

第三節 酌量減輕

第五章 再犯加重

第六章 加減順序

第七章 數罪俱發

第八章 數人共犯

第一節 正犯

第二節 從犯

第九章 未遂犯罪

第十章 親屬例

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

第一章 皇室ニ對スル罪

第二章 國事ニ關スル罪

第一節 内亂ニ關スル罪

第二節 外患ニ關スル罪

第三章 靜謐ヲ害スル罪

第一節 兇徒聚衆ノ罪

第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪
 第四節 附加刑ノ執行ヲ遊ルル罪
 第五節 私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪
 第六節 往來通信ヲ妨害スル罪
 第七節 人ノ住所ヲ侵スル罪
 第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪
 第九節 公務ヲ行フヲ拒ムル罪
 第四章 信用ヲ害スル罪
 第一節 貨幣ヲ偽造スル罪
 第二節 官印ヲ偽造スル罪
 第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪
 第四節 私印私書ヲ偽造スル罪
 第五節 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪
 第六節 偽證ノ罪
 第七節 度量衡ヲ偽造スル罪
 第八節 自分ヲ詐稱スル罪
 第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪
 第五章 健康ヲ害スル罪
 第一節 阿片烟ニ關スル罪
 第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪
 第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪
 第四節 危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪
 第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪

第六節 私ニ醫藥ヲ爲スル罪
 第六章 風俗ヲ害スル罪
 第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪
 第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪
 第九章 官吏濫職ノ罪
 第一節 官吏公益ヲ害スル罪
 第二節 官吏人民ニ對スル罪
 第三節 官吏財産ニ對スル罪
 第三編 身體財産ニ對スル重罪輕罪
 第一章 身體ニ對スル罪
 第一節 謀殺放殺ノ罪
 第二節 毆打創傷ノ罪
 第三節 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪
 第四節 過失殺傷ノ罪
 第五節 自殺ニ關スル罪
 第六節 擲ニ入テ逮捕監禁スル罪
 第七節 脅迫ノ罪
 第八節 墮胎ノ罪
 第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪
 第十節 幼者ヲ略取誘拐スル罪
 第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪
 第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪
 第十三節 祖父母父母ニ對スル罪
 第二章 財産ニ對スル罪
 第一節 竊盜ノ罪
 第二節 強盜ノ罪

第三節 遺失物埋藏物ニ關スル罪
 第四節 家資分散ニ關スル罪
 第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪
 第六節 贓物ニ關スル罪
 第七節 放火失火ノ罪
 第八節 洪水ノ罪
 第九節 船舶ヲ覆没スル罪
 第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪
 第四編 違警罪

刑法

第一編 總則
 第一章 法例
 第一條 凡法律ニ於テ罰ス可キ罪則テ三種ト爲ス
 一 重罪
 二 輕罪
 三 違警罪
 第二條 法律ニ正條ナキ者ハ何等ノ所爲ト雖モ之ヲ罰スルコトヲ得ス
 第三條 法律ハ頒布以上ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得ス若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス
 第四條 此刑法ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論ス可キ者ニ適用スルコトヲ得ス
 第五條 此刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ刑名アル者ハ各其法律規則ニ從フ若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサル者ハ此刑法ノ總則從フ
 第二章 刑例

第一節 刑名
 第六條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス
 主刑ハ之ヲ宣告ス
 附加刑ハ法律ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トナ定ム

第七條 左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス
 一 死刑
 二 無期徒刑
 三 有期徒刑
 四 無期徒刑
 五 有期流刑
 六 重懲役
 七 輕懲役
 八 重禁獄
 九 輕禁獄
 第八條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス
 一 重禁錮
 二 輕禁錮
 三 罰金
 第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ違警罪ノ主刑ト爲ス
 一 拘留
 二 科料
 第十條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス
 一 剝奪公權
 二 停止公權
 三 (明治三十一年六月法律第十一號民法施行法第十四條

ヲ以テ本號ヲ削ル

四 監視

五 罰金

六 沒收

第十一條 刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル方法細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

第二節 主刑處分

第十二條 死刑ハ絞首ス但規則ニ定ムル所ノ官吏臨檢シ獄内ニ於テ之ヲ行フ

第十三條 死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第十四條 大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フコトヲ禁ス

第十五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分娩後一百日ヲ經ルニ非サレハ刑ヲ行ハス

第十六條 死刑ノ遺骸ハ親屬故舊求請フ者アレハ之ヲ下付ス但式ヲ用ヒテ葬ルコトヲ許サス

第十七條 徒刑ハ無期有期ヲ分タス島地ニ發遣シ定役ニ服ス

有期徒刑ハ十二年以上五年以下ト爲ス

第十八條 徒刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セス内地ノ懲役場ニ於テ定役ニ服ス

第十九條 徒刑ノ囚六十歳ニ滿ル者ハ通常ノ定役ヲ免シ其體力相當ノ定役ニ服ス

第二十條 流刑ハ無期有期ヲ分タス島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セス

有期流刑ハ十二以上十五年以下ト爲ス

第二十一條 無期流刑ノ囚五年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限リ居住セシムルコトヲ得

有期流刑ノ囚三年ヲ經過スル者亦同シ

第二十二條 懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服ス但六十歳ニ滿ル者ハ第十九條ノ例ニ從フ

重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十三條 禁獄ハ内地ノ獄ニ入レ定役ニ服セス

重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十四條 禁錮ハ禁錮場ニ留置シ重禁錮ハ定役ニ服シ經禁錮ハ定役ニ服セス

禁錮ハ重輕ヲ分タス十一日以上五年以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第二十五條 定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監獄ノ規則ニ從ヒ其幾分ヲ獄舎ノ費用ニ供シ其幾分ヲ囚人ニ給與ス但現役百日以内ハ給與ノ限ニ在ス

第二十六條 罰金ハ二圓以上ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

第二十七條 罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完ヤシム但シ納完セサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ換フ其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

罰金ヲ禁錮ニ換フル者ハ裁判ヲ用ヒス檢察官ノ求ニ因リ裁判檢察官之ヲ命ス但禁錮ノ期限ハ二年ニ過クルコトヲ得ス

若シ禁錮限内罰金ヲ納メタル時ハ其經過シタル日數ヲ控除シテ禁錮ヲ免ス親屬其他ノ者代テ罰金ヲ納メタル者亦同シ

第二十八條 拘留ハ拘留所ニ留置シ定役ニ服セス其刑期ハ一日以上十日以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第二十九條 科料ハ五錢以上一圓九十五錢以下ト爲シ仍ホ本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

第三十條 科料ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ拘留ニ換フ

第三十一條 尊屬公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス

一 國民ノ特權

二 官吏ト爲ルノ權

三 勳章年金位記賞號恩給ヲ有スル權

四 外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權

五 兵籍ニ入ルノ權

六 裁判所ニ證人ト爲ルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラス

七 後見人ト爲ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルハ此ノ限ニ在ラス

八 分放者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權

九 學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權

第三十二條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪ス

第三十三條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス現任ノ官職ヲ失ヒ及ヒ其刑期間公權ヲ行フコトヲ停止ス

第三十四條 輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス監視ノ期限間公權ヲ行フコトヲ停止ス

第三十五條 (明治三十一年六月法律第十一號民法施行法第十四條ヲ以テ本條ヲ削ル)

第三十六條 (同上)

第三十七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス各本利ノ短期三分ノ一ニ等シキ時間監視ニ付ス

第三十八條 輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ之ヲ宣告ス但各本條ニ記載スルノ外監視ニ付スルコトヲ得ス

第三十九條 死刑及ヒ無期刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス五年間監視ニ付ス

第四十條 監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算ス主刑ノ期滿免除ヲ得タル時ハ其捕ニ就キタル日ヨリ起算ス

若シ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル時ハ其裁判確定ノ日ヨリ起算ス

第四十一條 監視ニ付セラレタル者其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ假ニ監視ヲ免スルコトヲ得

第四十二條 附加ノ罰金ハ之ヲ宣告ス若シ一月内ニ納完セサル時ハ第二十七條ノ例ニ照シ輕禁錮ニ主刑滿限ノ後之ヲ執行ス

第四十三條 左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ

- 一 法律ニ於テ禁制シタル物件
- 二 犯罪ノ用ニ供シタル物件
- 三 犯罪ニ因テ得タル物件
- 第四十四條 法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ナリトハス之ヲ沒收ス犯罪ノ用ニ供シ及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ係リ又所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收スルコトヲ得ス

第四節 徵償處分

第四十五條 刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科ス但其費用ノ額ハ刑ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 犯人刑ニ處セラレ又ハ放免セラレルト雖モ被害者ノ請求ニ對シ贖物ノ還給損害ノ賠償ヲ免ルルコトヲ得ス

第四十七條 數人共犯ニ係ル裁判費用贖物ノ還給損害ノ賠償ハ共犯人ヲシテ之ヲ連帶セシム

第四十八條 裁判費用贖物ノ還給損害ノ賠償ハ被害者ノ請求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得若シ贖物犯人ノ手ニアル時ハ請求ヲシト雖モ直チニ之ヲ被害者ニ還付ス

第五節 刑期計算

第四十九條 刑期ヲ計算スルニ一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放免ノ日ハ刑期ニ算入セス

第五十條 刑ハ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ執行スルコトヲ得ス

ヲ得ス

第五十一條 刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス若シ上訴ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ從フ

- 一 犯人自ラ上訴シテ其上訴正當ナル時ハ前判宣告ノ日ヨリ起算ス若シ其上訴不當ナル時ハ後判宣告ノ日ヨリ起算ス
- 二 檢察官ノ上訴ニ係ル者ハ其上訴正當ナルト否トナ分タス前判宣告ノ日ヨリ起算ス
- 三 上訴申保釋ヲ得又ハ責付セラレタル者ハ其日數ヲ刑期ニ算入スルコトヲ得ス

第五十二條 刑期限内逃走シ再ヒ捕ニ就キタル者ハ其逃走ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ計算ス

第六節 假出獄

第五十三條 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ遵守シ檢收ノ狀アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得

無期徒刑ノ囚ハ十五年ヲ經過スルノ後亦同シ

流刑ノ囚ハ第二十一條ニ照シ幽閉ヲ免スルノ外假出獄ノ例ヲ用ヒス

第五十四條 徒刑ノ囚ハ假出獄ヲ許サルト雖モ仍ホ島地ニ居住セシム

第五十五條 假出獄ヲ許サレタル者ハ本刑期限内特別ニ定メタル監視ニ付ス(明治三十一年六月法律第十一號民法施行法第十一條ヲ以テ本條ヲ改ム)

第五十六條 假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入スルコトヲ得ス

第五十七條 刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ假出獄ヲ許サス

第七節 期滿免除

第五十八條 刑ノ執行ヲ過レタル者法律ニ定メタル期限ヲ經過スルニ因テ期滿免除ヲ得

第五十九條 主刑ハ左ノ年限ニ從テ期滿免除ヲ得

- 一 死刑ハ三十年
- 二 無期徒刑ハ二十五年
- 三 有期徒刑ハ二十年
- 四 重懲役重禁錮ハ十五年
- 五 輕懲役於禁錮ハ十年
- 六 禁錮罰金ハ七年
- 七 拘留科料ハ一年

第六十條 剝奪公權停止公權及ヒ監視ハ期滿免除ヲ得ス附加ノ罰金ハ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得

沒收ハ五年ヲ經テ期滿免除ヲ得但禁制物ハ期滿免除ノ限ニ在ラス

第六十一條 期滿免除ハ刑ノ執行ヲ過レタル日ヨリ起算ス若シ捕ニ就キ再ヒ逃走シタル時ハ其逃走ノ日ヨリ起算シ

第六十二條 刑ノ執行ヲ過レタル者ニ對シ逮捕ヲ命シタル時ハ最終ノ令狀ヲ出シタル日ヨリ期滿免除ヲ起算ス

第八節 復權

第六十三條 公權ヲ剝奪セラレタル者ハ主刑ノ終リタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後其情狀ニ因リ將來ノ公權ヲ復スルコトヲ得

主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ監視ニ付シタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後亦同シ

第六十四條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ直チニ復權ヲ得特赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ赦狀申記載スルニ非サレハ復權ヲ得ス

赦ニ因テ復權ヲ得タル者ハ自ラ監視ヲ免シタル者トス

第六十五條 復權ハ勅裁ニ非サレハ之ヲ得可カラズ

第三章 加減例

第六十六條 法律ニ於テ加重減ス可キ時ハ後ノ數條ニ記載シタル例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルコトヲ得ス

第六十七條 重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

- 一 死刑
 - 二 無期徒刑
 - 三 有期徒刑
 - 四 重懲役
 - 五 輕懲役
- 第六十八條 國事ニ關スル重罪ノ刑ハ在ノ等級ニ照シテ加減ス

- 一 死刑
- 二 無期徒刑
- 三 有期徒刑
- 四 重禁獄
- 五 輕禁獄

第六十九條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁獄ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁

細ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

第七十條 禁錮罰金ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑期金額ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ其加重ス可キ時ハ亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルコトヲ得ス但禁錮ハ加ヘテ七年ニ至ルコトヲ得

第七十一條 禁錮ヲ減盡シタル時ハ拘留ニ處シ罰金ヲ減盡シタル時ハ科料ニ處ス禁錮罰金ヲ減シテ其短期十日以下算數一圓九十五錢以下ニ及フ時ハ亦拘留科料ニ處スルコトヲ得

第七十二條 拘留科料ニ該ル者加減ス可キ時ハ禁錮罰金ノ例ニ照シ其四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス違警罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入ルコトヲ得ス但拘留ハ加ヘテ十二日ニ至ルコトヲ得減シテ一日以下ニ降スコトヲ得

第七十三條 禁錮拘留ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル時ハ之ヲ除棄ス

第七十四條 附加ノ罰金ハ主刑ニ從テ加減シ其金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス若シ減盡シタル時ハ止メ主刑ヲ科ス

第四章 不論罪及ヒ減輕
第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕
第七十五條 抗拒ス可カラサル強制ニ遇ヒ其意ニ非サルノ所爲ハ其罪ヲ論セス

天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可カラサル危難ニ遇ヒ自己若クハ親族ノ身體ヲ防衛スルニ出タル所爲亦同シ

第七十六條 本署長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以テ爲シタル者ハ其罪ヲ論セス

第七十七條 罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ハ其罪ヲ論セス但法律規則ニ於テ別ニ罪ヲ定メタル者ハ此限ニ在ラス罪ト爲ル可キ事實ヲ知ラシテ犯シタル者ハ其罪ヲ論セス

第七十八條 罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因テ是非ヲ辨別セサル者ハ其罪ヲ論セス

第七十九條 罪ヲ犯ス時十二歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ論セス但滿五歳以上ノ者ハ情狀ニ因リ滿十六歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得

第八十條 罪ヲ犯ス時滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其所爲是非ヲ辨別シタルト否トヲ審案シ辨別ナクシテ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ滿二十歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得

第八十一條 罪ヲ犯ス時滿十六歳以上二十歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス

第八十二條 瘡啞者罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ五年ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得

第八十三條 違警罪ハ滿十六歳以上二十歳ニ滿サル者ト雖モ其罪ヲ宥恕スルコトヲ得

第八十四條 此節ニ記載スルノ外特別ノ不論罪宥恕減輕ハ各其本條ニ於テ之ヲ記載ス

第二節 自首減輕

第八十五條 罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減ス但謀殺故殺ニ係ル者ハ自首減輕ノ限ニ在ラス

第八十六條 財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者自首シテ其贖物ヲ還給シ損害ヲ賠償シタル時ハ自首減輕ノ外仍ホ本刑ニ二等ヲ減ス其全部ヲ還償セスト雖モ半數以上ヲ還償シタル時ハ一等ヲ減ス

第八十七條 財産ニ對スル罪ヲ犯シ被害者ニ首服シタル者ハ官ニ自首スルト同ク前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

第三節 酌量減輕

第八十八條 此節ニ記載スルノ外本條別ニ自首ノ例ヲ掲ケタル者ハ各其本條ニ從フ

第八十九條 重罪輕罪違警罪ヲ分タス所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルコトヲ得

法律ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者ト雖モ其酌量ス可キ時ハ仍ホ之ヲ減輕スルコトヲ得

第九十條 酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第五章 再犯加重

第九十一條 先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第九十二條 先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯輕罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第九十三條 先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯違警罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ但一年内再ヒ其違警罪裁判所ノ管轄地内ニ於テ犯シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得

第九十四條 再犯加重ハ初犯ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ論スルコトヲ得

第九十五條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑ヲ宣告シタル時ハ先ニ其定役ニ服ス可キ者ヲ執行シ定役ニ服セサル者ヲ後ニス若シ初犯再犯共ニ定役ニ服スル刑ニ該ル時又ハ共ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時ハ其重キ者ヲ執行ス

第九十六條 陸海軍裁判所ニ於テ判決ヲ經タル者再ヒ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ初犯ノ罪法律ニ從ヒ處斷シタル者ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得

第九十七條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再ヒ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得

第九十八條 三犯以上ノ者ト雖モ其加重ノ法ハ再犯ノ例ニ同シ

第六章 加減順序

第九十九條 犯罪ノ情狀ニ因リ總則ニ照シ同時ニ本則ヲ加

重減輕ス可キ時ハ左ノ順序ニ從テ其刑名ヲ定ム但シ從犯及ヒ未遂犯罪ノ減輕其ノ他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ其ノ加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

- 一 再犯加重
二 宥恕減輕
三 自首減輕
四 酌量減輕

第七章 數罪俱發

第一百條 重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經スニ罪以上俱ニ發シタルキハ一ノ重キニ從テ處斷ス

重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重ト爲シ刑期ノ等シキ者ハ定役アル者ヲ以テ重トス

輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最モ重キ者ニ從テ處斷ス

第一百一條 違警罪ニ罪以上俱ニ發シタル時ハ各其刑ヲ科ス若シ重罪又ハ輕罪ト俱ニ發シタルトキハ一ノ重キニ從テ

第一百二條 一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ若シハ等シキ者ハ之ヲ論セス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金材料ニ該リ已ニ納完シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ折算シテ後發ノ刑期ニ通算ス

若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未タ發セサル罪再犯ノ罪ト俱ニ發シタル者ハ其再犯ト比較シ一ノ重キニ從ヒ前發ノ刑ヲ通算セス

第一百三條 數罪俱ニ發シ一ノ重キニ從テ時ト雖モ其沒收及ヒ徵價ノ處分ハ各本法ニ從テ

第八章 數人共犯

第一節 正犯

第一百四條 二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス

第一百五條 人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ亦正犯ト爲ス

第一百六條 正犯ノ自分ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可キ時ハ他ノ正犯從犯及ヒ教唆者ニ及ホスコトヲ得ス

第一百七條 犯人ノ多數ニ因リ刑ヲ加重ス可キ時ハ教唆者ヲ算入シテ多數ト爲スコトヲ得ス

第一百八條 事ヲ指定シテ犯罪ヲ教唆スルニ當リ犯人教唆ニ乘シ其指定シタル以外ノ罪ヲ犯シ又ハ其現ニ行フ所ノ方法教唆者ノ指示シタル所ト殊ナル時ハ左ノ例ニ照シテ教唆者ヲ處斷ス

一 所犯教唆シタル罪ヨリ重キ時ハ止テ其指定シタル罪ニ從テ刑ヲ科ス

二 所犯教唆シタル罪ヨリ輕キ時ハ現ニ行フ所ノ罪ニ從テ刑ヲ科ス

第二節 從犯

第一百九條 重罪輕罪ヲ犯スコトヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ行爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯ト爲シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス但正犯現ニ行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重キ時ハ止テ其知ル所ノ罪ニ照シ一等ヲ減ス

第一百十條 自分ニ因リ刑ヲ加重ス可キ者從犯ト爲ル時ハ其

重キニ從テ一等ヲ減ス
正犯ノ身分ニ因リ減免ス可キ時ト雖モ從犯ノ刑ハ其輕キニ從テ減免スルコトヲ得ス

第九章 未遂犯罪

第一百一條 罪ヲ犯サンコトヲ謀リ又ハ其豫備ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者ハ本條別ニ刑名ヲ記載スルニ非サレハ其刑ヲ科セス

第一百二條 罪ヲ犯サンコトヲ已ニ其事ヲ行フト雖モ犯人意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因リ未タ遂ケサル時ハ已ニ遂ケタルノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第一百三條 重罪ヲ犯サンコトヲ未タ遂ケサル者ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス

輕罪ヲ犯サンコトヲ未タ遂ケサル者ハ本條例ニ記載スルニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルコトヲ得ス

違警罪ヲ犯サンコトヲ未タ遂ケサル者ハ其罪ヲ論セス

第十章 親屬例

第一百四條 此刑法ニ於テ親屬ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云フ

- 一 祖父母父母夫妻
二 子孫及ヒ其配偶者
三 兄弟姉妹及ヒ其配偶者
四 兄弟姉妹ノ子及ヒ其配偶者
五 父母ノ兄弟姉妹及ヒ其配偶者
六 父母ノ兄弟姉妹ノ子
七 配偶者ノ祖父母父母

八 配偶者ノ兄弟姉妹及ヒ其配偶者

九 配偶者ノ兄弟姉妹ノ子

第十條 配偶者ノ父母ノ兄弟姉妹

第十五條 祖父母ト稱スルハ高曾祖父母外祖父母同シ父母ト稱スルハ繼父母姉妹同シ子孫ト稱スルハ庶子曾玄孫外孫同シ兄弟姉妹ト稱スルハ異父異母ノ兄弟姉妹同シ養子其養家ニ於テ親屬ノ例ハ實子同シ

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪
第一章 皇室ニ對スル罪
第一百六條 天皇三后皇太子ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

第一百七條 天皇三后皇太子ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ三月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

皇陵ニ對シ不敬ノ所爲アル者亦同シ

第一百八條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處ス其危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第一百九條 皇族ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第二章 國事ニ關スル罪
第一節 内亂ニ關スル罪

第二十一條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的ト爲シ内亂ヲ起シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁及七教唆者ハ死刑ニ處ス
二 群集ノ指揮ヲ爲シ其他概要ノ職務ヲ爲シタル者ハ無期流刑ニ處シ其情輕キ者ハ有期流刑ニ處ス
三 兵器金銀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者ハ重禁獄ニ處シ其情輕キ者ハ輕禁獄ニ處ス
四 教唆ニ乘シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁獄ニ處ス
第百二十二條 内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ兵器彈藥船舶金銀其他軍備ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ已ニ内亂ヲ起シタル者ノ刑ニ同シ
第百二十三條 政府ヲ變亂スル目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ擧ルニ至ラスト雖モ内亂ト同ク論シ其教唆者及ヒ下手者ヲ死刑ニ處ス
第百二十四條 前三條ノ罪ハ未遂犯準ノ時ニ於テ乃チ本刑ヲ科ス
第百二十五條 兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金銀ヲ準備シ其他内亂ノ豫備ヲ爲シタル者ハ第百二十一條ノ例ニ照シ各一等ノ刑ニ處ス
内亂ノ陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサルモノハ各二等ヲ減ス
第百二十六條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲スト雖モ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シタルモノハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス
第百二十七條 内亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁獄ニ處ス
第百二十八條 内亂ニ乘リテ人ノ身體財産ニ對シ内亂ノ目

的ニ關セサル重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ通常ノ刑ニ照シ重キニ從テ處斷ス
第二節 外患ニ關スル罪
第百二十九條 外國ニ與シテ本國ニ抗敵シ又ハ外國ト交戦中同盟國ニ抗敵シ其他本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬シタル者ハ死刑ニ處ス
第百三十條 交戦中敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ本國及ヒ同盟國ノ都城要塞又ハ兵器彈藥船舶其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス
第百三十一條 本國及ヒ同盟國ノ軍情機密ヲ敵國ニ漏泄シ若クハ兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知シタル者ハ無期流刑ニ處ス敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ之ヲ藏匿シタル者亦同シ
第百三十二條 陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ及ヒ工作ヲ爲ス者交戦ノ際敵國ニ通謀シ又其賂遺ヲ收受シテ命令ニ違背シ軍備ノ缺乏ヲ致シタル時ハ有期流刑ニ處ス
第百三十三條 外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開キタル者ハ有期流刑ニ處ス其豫備ニ止ル物ハ一等又ハ二等ヲ減ス
第百三十四條 外國交戦ノ際本國ニ於テ局外中止ヲ布告シタル時其布告ニ違背シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁獄ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第百三十五條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス
第三章 靜謐ヲ害スル罪
第一節 兇徒聚衆ノ罪

第百三十六條 兇徒多衆ヲ聚衆シテ暴動ヲ謀リ官吏ノ脫離ヲ受クルト雖モ仍ホ解散セサル者首魁及ヒ教唆者ハ三月以上三年以下ノ重禁獄ニ處ス附和隨行シタル者ハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス
第百三十七條 兇徒多衆ヲ聚衆シテ官廳ニ噴關シ官吏ニ強逼シ又ハ村市ヲ騷擾シ其他暴動ヲ爲シタル者首魁及ヒ教唆者ハ重懲役ニ處ス其情輕キ者ハ一等ヲ減ス附和隨行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第百三十八條 暴動ノ際人ヲ殺死シ若クハ家屋船舶倉庫等ヲ燒燬シタル時ハ現ニ手ヲ下シ及ヒ火ヲ放ツ者ヲ死刑ニ處ス
首魁及ヒ教唆者情ヲ知テ制セサル者亦同シ
第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪
第百三十九條 官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁獄ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
暴行脅迫ヲ以テ其官吏ノ爲ス可カラサル事件ヲ行ハシメタル者亦同シ
第百四十條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ官吏ヲ毆傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス
第百四十一條 官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁獄ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
目前ニ非スト雖モ刊行ノ文書圖畫又ハ公然ノ演説ヲ以

テ侮辱シタル者亦同シ
第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪
第百四十二條 已決ノ囚徒逃走シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁獄ニ處ス
若シ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シテ逃走シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁獄ニ處ス
第百四十三條 已決ノ囚徒逃走ノ罪ヲ犯スト雖モ再刑ヲ以テ論セス其刑期限内再ヒ逃走シタル者ハ再犯ヲ以テ論ス
第百四十四條 未決ノ囚徒入監中逃走シタル者ハ第百四十二條ノ例ニ同シ但原犯ノ罪ヲ判決スル時ニ於テ數罪俱發ノ例ニ照シテ處斷ス
第百四十五條 囚徒三人以上通謀シテ逃走シタル時ハ第百四十二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ
第百四十六條 囚徒ヲ逃走セシムル爲兇器其他ノ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁獄ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス囚徒囚徒ノ逃走ヲ致シタル時ハ一等ヲ加フ
第百四十七條 囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁獄ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ輕懲役ニ處ス
第百四十八條 囚徒ヲ看守シ又ハ護送スル者囚徒ヲ逃走セシメタル時ハ亦前條ノ例ニ同シ
第百四十九條 前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未

タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第百五十條 看守又ハ護送者其懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百五十一條 犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ監視ニ付セラレタル者ナルコトヲ知テ藏匿シ若クハ隱避セシメタル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ一等ヲ加フ

第百五十二條 他人ノ罪ヲ免カレシメシメテ圖リ其罪證ト爲ル可キ物件ヲ隱蔽シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百五十三條 前二條ノ罪ヲ犯シタル者ハ犯人ノ親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セズ

第四節 附加刑ノ執行ヲ遵ルル罪

第百五十四條 公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者私ニ其權ヲ行ヒタル時ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百五十五條 監視ニ付セラレタル者其規則ニ違背シタル時ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

第百五十六條 前二條ノ罪ハ其刑期限内再ヒ犯シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第五節 私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪

第百五十七條 官命ヲ受ケス又ハ官許ヲ得スシテ陸海軍ノ

用ニ供スル銃砲彈藥其他破製質ノ物品ヲ製造シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其之ヲ輸入シタル者亦同シ

前項ノ物品ヲ私ニ販賣シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百五十八條 前條ノ罪ヲ犯スト雖モ職工又ハ雇人ニシテ止メ正犯ノ使令ニ供シタル者ハ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス

第百五十九條 前二條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂罪犯ノ例ニ照シテ處斷ス

第六節 往來通信ヲ妨害スル罪

第百六十條 道路橋梁河溝港埠ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百六十一條 偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨害シ若クハ之ヲ阻止シタル者ハ亦前條ニ同シ

第百六十二條 電信ノ器械注木ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ器械柱木條線ヲ損壞シテ電信ノ妨害ヲ爲スト雖モ不通ニ至ラサル時ハ一等ヲ減ス

第百六十五條 汽車ノ往來ヲ妨害スル爲メ鐵道及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障礙ヲ爲シタル者ハ重懲 役ニ處ス

第百六十六條 船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ燈臺浮標其他航海ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損壞シ又ハ詐僞ニ標識ヲ標示シタル者ハ亦前條ニ同シ

第百六十七條 前數條ニ記載シタル罪其事務ニ關スル吏官及ヒ雇人職工自ラ犯シタル時ハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ

第百六十八條 第百六十二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ殺傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本刑ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第百六十九條 第百六十五條第百六十六條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車ヲ顛覆シ又ハ船舶ヲ覆没シタル時ハ無期徒刑ニ處シ人ヲ死ニ致シタル時ハ死刑ニ處ス

第百七十條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第七節 人ノ住所ヲ侵スル罪

第百七十一條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ左ニ記載シタル所爲アル時ハ一等ヲ加フ

一 門戶牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入りタル時

二 兇器其他犯罪ノ用ニ供ス可キ物品ヲ携帯シテ入りタル時

三 暴行ヲ爲シテ入りタル時

四 二人以上ニテ入りタル時

第百七十二條 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ前條ノ記載シタル加重ス可キ所爲アル時ハ一等ヲ加フ

第百七十三條 故ナク皇居禁苑離宮行在所及ヒ皇陵内ニ入りタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪

第百七十四條 官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印ヲ破棄シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ看守者自ラ犯シタル時ハ一等ヲ加フ

第百七十五條 官ノ封印ヲ破棄シテ其物件ヲ盜取シ又ハ毀壞シタル者ハ盜罪及ヒ毀壞ノ各本刑ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第百七十六條 看守者其懈怠ニ因リ封印ヲ破棄シ又ハ其物件ヲ盜取毀壞スル犯人アルコトヲ覺ラサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九節 公行ヲ務フテ拒ム罪

第百七十七條 陸海軍ノ將校タル者出兵ヲ要求スル權アル官署ヨリ其要求ヲ受ケ故ナクシテ之ヲ背セサル時ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百七十八條 陸海軍ノ徵兵ニ編入セラル可キ者身體ヲ毀傷シテ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ以テ免役ヲ圖リタル時ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十四

以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ他人ニ囑託シ其氏名ヲ詐稱シ代テ徵募ニ應ジシメタル者亦同シ其囑託ヲ受ケテ徵募ニ應ジタル者ハ第二百三十一條ノ例ニ照シテ處斷ス

第七十九條 醫師化學家其他職業ニ依リ官署ヨリ解剖分折又ハ鑑定ヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十條 裁判所ヨリ證人トシテ證據ヲ陳述スルコトヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時亦前條ニ同シ

第八十一條 傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ疑アル船舶入港スルニ當リ醫師其病患ヲ検査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スルコトヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
獸類傳染病流行ノ際獸醫此條ノ罪ヲ犯シタル時ハ一等ヲ減ス

第四章 信用ヲ害スル罪

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

第八十二條 內國通用ノ金銀貨及ヒ紙幣ヲ偽造シテ行使シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

若シ矯造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第八十三條 內國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

若シ矯造シテ行使シタル者ハ二年以上五年以下ノ重懲罰ニ處ス

第八十四條 官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣ヲ偽造シ若

クハ變造シテ行使シタル者ハ內外國ノ區別ニ從ヒ前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

第八十五條 內國通用ノ銅貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ一年以上三年以下ノ重懲罰ニ處ス

第八十六條 前數條ニ記載シタル貨幣ノ偽造變造已ニ成テ未タ行使セサル者ハ各本刑ニ照シ一等ヲ減シ其未タ成ラサル者ハ二等ヲ減ス

若シ偽造ノ器械ヲ豫備シテ未タ著手セサル者ハ各三等ヲ減ス

第八十七條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ雇テ受ケタル職工ハ前數條ニ記載シタル犯人ノ受ク可キ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者ハ職工ノ刑ニ照シ一等又ハ二等ヲ減ス

第八十八條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ハ偽造變造ノ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス

第八十九條 偽造變造ノ貨幣ヲ內國ニ輸入シタル者ハ偽造變造ノ刑ニ同シ

第九十條 偽造變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ收受シ之ヲ行使シタル者ハ偽造變造シテ行使シタル者ノ刑ニ照シ各二等ヲ減ス

其未タ行使セサル者ハ各三等ヲ減ス

第九十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第九十二條 貨幣ヲ偽造變造シ及ヒ輸入收受シタル者未タ行使セサル前ニ於テ官ニ自首シタル時ハ本刑ヲ免シ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

若シ職工雜役及ヒ房屋ヲ給與シタル者未タ行使セサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第九十三條 貨幣ヲ收受スルノ後ニ於テ偽造又ハ變造ナルコトヲ知リ之ヲ行使シタル者ハ其價額ニ倍ノ罰金ニ處ス但其罰金ハ二圓以下ニ降スコトヲ得ス

第二節 官印ヲ偽造スル罪

第九十四條 御璽國璽ヲ偽造シ又ハ其偽璽ヲ僞用シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第九十五條 各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ處ス

第九十六條 產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第九十七條 御璽國璽官印記號印章ノ影贖ヲ盜用シタル者ハ前數條ニ記載シタル偽造ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

第九十八條 官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重懲罰ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十九條 已ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪

第二百二條 詔書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ無期徒刑ニ處ス其詔書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百三條 官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其官ノ文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百四條 公債證書地券其他官吏ノ公證シタル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ無記名ノ公債證書ニ係ル時ハ一等ヲ加フ

第二百五條 官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

其文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百六條 官ノ文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル者ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二百七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上五年以下ノ監視ニ付ス

第四節 私印私書ヲ偽造スル罪

第二百八條 他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ六月以上五年以下ノ重懲罰ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ他人ノ印影ヲ盜用シタル者ハ一等ヲ減ス

第二百九條 爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買スヘキ證書若クハ金額ト交換ス可キ約定手形ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其手形證書ニ詐僞ノ裏書ヲ爲シテ行使シタル者亦同シ
第二百十條 賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其餘ノ私書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百十一條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
第二百十二條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監禁ニ付ス

第五節 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪

第二百十三條 官ノ免狀又ハ鑑札ヲ偽造シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シテ處斷ス
第二百十四條 國籍身分氏名ヲ詐稱シ其他詐僞ノ所爲ヲ以テ免狀鑑札ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
官吏情ヲ知テ其免狀鑑札ヲ下付シタル者ハ一等ヲ加フ
第二百十五條 公務ヲ免カレ可キ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ

三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
醫師囑託ヲ受ケテ其詐欺ノ證書ヲ造リタル者ハ一等ヲ加フ

第二百十六條 陸海軍ノ徵兵ヲ免カレ可キ爲メ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者及ヒ囑託ヲ受ケテ其詐欺ノ證書ヲ造リタル醫師ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ
第二百十七條 免狀鑑札及ヒ疾病ノ證書ヲ増減變換シテ行使シタル者ハ亦偽造ノ刑ニ同シ

第六節 偽證ノ罪

第二百十八條 刑事ニ關スル證人トシテ裁判所ニ呼出サレタル者被告人ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シテ偽證ヲ爲シタル時ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス

一 重罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二 輕罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

三 違警罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ違警罪ノ本條ニ依テ處斷ス

第二百十九條 偽證ノ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免カレタル時ハ偽證者ノ刑前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百二十條 被告人ヲ陷害スル爲メ偽證ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス
一 重罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十五條 賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐僞ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者ハ亦偽證ノ例ニ同シ

第二百二十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第七節 度量衡ヲ偽造スル罪

第二百二十七條 度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シテ販賣シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官ノ記條印章ヲ偽造シ又ハ盜用シタル者ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス
第二百二十八條 偽造變造ノ情ヲ知テ其度量衡ヲ販賣シタル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ減ス
第二百二十九條 商賣農工規定ヲ増減シタル度量衡ヲ所有シタル時ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ其度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス
第二百三十條 人ノ囑託ヲ受ケテ度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ其囑託シタル犯人ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

第八節 身分ヲ詐稱スル罪

第二百三十一條 官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其職身分氏名年齢職業ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第二百三十二條 官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽章若クハ内外國ノ勳章ヲ借用シタル者ハ十五日以上二月以下ノ

加ス
二 輕罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

三 違警罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十一條 偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル後ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ偽證者ヲ其刑ニ反坐ス若シ反坐ノ刑前條ニ記載シタル偽證ノ刑ヨリ輕キ時ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス

其刑期限内ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ現ニ經過シタル日數ニ照シテ反坐ノ刑期ヲ減スルコトヲ得但減シテ前條偽證ノ刑ヨリ降スコトヲ得ス

第二百二十二條 偽證ノ爲メ被告人死刑ニ處セラレタル時ハ反坐ノ刑一等ヲ減ス其未ダ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ二等ヲ減ス

若シ被告人死刑ニ隔ルルノ目的ヲ以テ偽證ヲ爲シタル時ハ死刑ニ反坐ス其未ダ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタルトキハ一等ヲ減ス

第二百二十三條 民事商事又ハ行政裁判ニ關シテ偽證ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十四條 鑑定又ハ通事ノ爲メ裁判所ニ呼出セラレタル者詐僞ノ陳述ヲ爲シタル時ハ前數條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス

輕禁ニ觸ルシニ罰金ヲ附加ス

第九節 公選ノ投票ノ偽造スル罪

第二百三十三條 公選ノ投票ノ偽造シ又ハ其數ヲ増減シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十四條 賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十五條 投票ヲ検査シ及ヒ其數ヲ計算スル者投票ヲ偽造シ又ハ増減シタル時ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十六條 調査ヲ造リ投票ノ結局ヲ報告スル者其數ヲ増減シ事他詐偽ノ所爲アル時ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五章 健康ヲ害スル罪

第一節 阿片烟ニ關スル罪

第二百三十七條 阿片烟ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

第二百三十八條 阿片烟ヲ吸食スルノ器具ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第二百三十九條 稅關官吏情ヲ知テ阿片烟及ヒ其器具ヲ輸入セシメタル者ハ前二條ノ刑ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百四十條 阿片烟ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖ル者ハ輕懲役ニ處ス人ヲ誘引シテ阿片烟ヲ吸食セシメタル者亦同シ

第二百四十一條 阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

下ノ重禁錮ニ處ス

第二百四十二條 阿片烟及ヒ吸食ノ器具ヲ所有シ又ハ受寄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪

第二百四十三條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ十一月以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十四條 人ノ健康ヲ害スヘキ物品ヲ用ヒテ水質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十五條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪

第二百四十六條 傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十七條 船長自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スコトヲ知テ制セサル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ加フ

第二百四十八條 傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨリ他所ニ出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十九條 獸類ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ獸類ヲ他所ニ出シタル者ハ十一月以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十條 危險品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ違背シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

則ニ關スル罪

第二百五十條 官許ヲ得シテ危害ヲ生ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十一條 官許ヲ得テ前條ニ記載シタル製造所ヲ創設スト雖モ危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル規則ニ違背シタル者ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第二百五十二條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪

第二百五十三條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ飲食物ニ混和シテ販賣シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十四條 規則ニ違背シテ毒藥劇藥ヲ販賣シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪

第二百五十六條 官許ヲ得スシテ醫業ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十七條 前條ノ犯人治療ノ方法ヲ誤リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第六章 風俗ヲ害スル罪

第二百五十八條 公然猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十九條 風俗ヲ害スル冊子圖書其他猥褻ノ物品ヲ公然陳列シ又ハ販賣シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百六十條 賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十一條 財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者亦同シ但飲食物ヲ賭スル者ハ此限ニ在ラス

第二百六十二條 財物ヲ賭集シ窩藏ヲ以テ利益ヲ儲得スルノ業ヲ興行シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十三條 神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ所爲アル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ說教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墓墳ヲ發掘スル罪

第二百六十四條 埋葬ス可キ死屍ヲ毀棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十五條 墳墓ヲ掘發シテ棺槨又ハ死屍ヲ見ハシタ

ル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ死屍ヲ毀棄シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第二百六十六條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未ダ送ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪

第二百六十七條 偽計又ハ威力ヲ以テ穀類其他業人ノ需用ニ缺ク可カラサル食用物ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
前項ニ記載シタル以外ノ物品ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一等ヲ減ス

第二百六十八條 偽計又ハ威力ヲ以テ糧食又ハ入札ヲ妨害シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十九條 偽計又ハ威力ヲ以テ農工ノ業ヲ妨害シタル者ハ亦前條ニ同シ

第二百七十條 農工ノ雇人其雇賃ヲ増サシメ又ハ農工業ノ景況ヲ變セシムル爲メ雇主及ヒ他ノ雇人ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十一條 雇主其雇賃ヲ減シ又ハ農工業ノ景況ヲ變スル爲メ雇人及ヒ他ノ雇主ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ亦前條ニ同シ

第二百七十二條 虚偽ノ風説ヲ流布シテ殺類其他業人需用物品ノ價值ヲ最低セシメタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

物品ノ價值ヲ最低セシメタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九章 官吏濫職ノ罪

第二百七十三條 官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ公布施行セズ又ハ他ノ官吏ノ公布ノ施行ヲ妨害シタル者ハ二月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十四條 兵隊ヲ要求シ及ヒ之ヲ使用スル權アル官吏地方ノ騷擾其他兵權ヲ以テ鎮撫スヘキ時ニ當リ其處分ヲ爲ササル者ハ三月以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十五條 官吏規則ニ違背シテ商業ヲ爲シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百七十六條 官吏擅ニ威權ヲ用ヒ人ヲシテ其權利ナキ事ヲ行ハシメ又ハ其爲ス可キ權利ヲ妨害シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十七條 人ノ身體財產ヲ妨害スルノ犯人アルニ當リ豫審判事檢察官警察官吏其報告ヲ受ケテ速ニ保護ノ處分ヲ爲ササル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十八條 逮捕官吏法律ニ定メタル程式規則ヲ遵守セズシテ人ヲ逮捕、又ハ不正ニ人ヲ監禁シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

第二百七十九條 司獄官吏程式規則ヲ遵守セズシテ囚人ヲ監禁シ若クハ囚人ヲ出獄セシム可キノ時ニ至リ之ヲ放免セサル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第二百八十條 前二號ニ記載シタル官吏又ハ護送者囚人ニ對シ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛酷ノ爲ヲ施シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ囚人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

第二百八十一條 水火災災ノ際官吏囚人ノ監禁ヲ解クコトヲ怠リ因テ死傷ニ致シタルモノハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加フ

第二百八十二條 裁判官檢察官及ヒ警察官吏被告人ニ對シ罪狀ヲ陳述セシムル爲メ暴行ヲ加ヘ又ハ凌虐ノ所爲アル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ被告人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

第二百八十三條 裁判官檢察官故ナクシテ刑事ノ訴ヲ受理セズ又ハ遷延シテ審理セサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其民事ノ訴ニ係ル者亦同シ
第二百八十四條 官吏人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ隱匿シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ不正ノ處分ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ

第二百八十五條 裁判官民事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ隱匿シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ不正ノ裁判ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ
第二百八十六條 裁判官檢察官警察官吏刑事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ隱匿シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ被告人ヲ曲庇シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其被告人ヲ陷害シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ輕斷シタル所ノ刑此刑ヨリ重キ時ハ第二百二十一條ニ照シテ反坐ス

第二百八十七條 裁判官檢察官警察官吏賄賂ヲ收受聽許セスト雖モ情ニ殊カヒ又ハ怨ヲ挾サミ被告人ヲ曲庇陷害シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第二百八十八條 前數條ニ記載シタル賄賂已ニ收受シタル者ハ之ヲ沒收シ費用シタル者ハ其價ヲ追徵ス

第三節 官吏財產ニ對スル罪
第二百八十九條 官吏自ラ監守スル所ノ金銀物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處ス

因テ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シ又ハ毀棄シタル時ハ第二百五條ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百九十條 租稅其他諸般ノ入額ヲ徵收スル官吏正數外ノ金銀ヲ徵收シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處

シ五圓 上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第二百九十一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監禁ニ付ス

第三章 身體財產ニ對スル重罪輕罪

第一節 身體ニ對スル罪

第二百九十二條 謀殺故殺ノ罪
シ死刑ニ處ス
第二百九十三條 毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ノ罪ト爲シテ論シ死刑ニ處ス

第二百九十四條 故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ故殺ノ罪ト爲シ無期徒刑ニ處ス

第二百九十五條 支解折割其他慘刻ノ所爲ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百九十六條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カラル爲メハテ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百九十七條 人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ死ニ致シタル者ハ故殺ヲ以テ論シ其ノ豫メ謀ルモノハ謀殺ヲ以テ論ス

第二百九十八條 謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル者ハ仍ホ謀殺ヲ以テ論ス

第二百九十九條 人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ス

第三百條 人ニ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩

股ヲ折り及ヒ舌ヲ斷テ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折り其他身體ヲ殘廢シ殘疾ニ致シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百一一條 人ニ毆打創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

其疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ニ創傷ヲ成シタル者ハ十日以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百二條 豫メ謀テ人ヲ毆打創傷シ休業殘廢疾又ハ死ニ致シタル者ハ前數條ニ記載シタル刑ニ照シ各一等ヲ加フ

第三百三條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カラル爲メ人ヲ毆打創傷シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第三百四條 毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ毆打創傷ノ本刑ヲ科ス

第三百五條 二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ現ニ手ヲ下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス若シ共毆シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルコト能ハサル時ハ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス但教唆者ハ減等ノ限ニ在ラス

第三百六條 二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當リ自ラ人ヲ傷セスト雖モ幫助シテ傷ヲ成サシメタル者ハ現ニ傷ヲ成シタル者ノ刑ニ一等ヲ減ス

第三百七條 健康ヲ害ス可キ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメタル者ハ豫メ謀テ毆打創傷スルノ例ニ照シ處斷ス

第三百八條 之ヲ殺スノ意ニ非スト雖モ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ヲ以テ論ス

第三百九條 自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルニ因リ直チニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス

第三百十條 毆打シテ互ニ創傷シ其手下スノ先後ヲ知ルコト能ハサル者ハ各其罪ヲ宥恕スルコトヲ得

第三百十一條 本夫ハ妻ニ姦淫ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ此限ニ在ラス

第三百十二條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戶牆壁ヲ踰越損壞セントスル者ヲ防止スル爲メ之ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス

第三百十三條 前數條ニ記載シタル宥恕ノ可キ罪ハ各本刑ニ照シ二等又ハ三等ヲ減ス

第三百十四條 身體生命ヲ正當ニ防衛シ已ムコトヲ得サルニ出テ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タス其罪ヲ論セス但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス

第三百十五條 左ノ諸件ニ於テ已ムコトヲ得サルニ出テ人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ論セス

一 財産ニ對シ放火其他暴行ヲ爲ス者ヲ防止スルニ出タル時

二 盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還スルニ出タル時

三 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戶牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止スルニ出タル時

第三百十六條 身體財產ヲ防衛スルニ出ルト雖モ已ムコトヲ得サルニ非スシテ害ヲ暴行人ニ加ヘ又ハ危害已ニ去タル後ニ於テ勢ニ乘シ仍ホ害ヲ暴行人ニ加ヘタル者ハ不論罪ノ限ニ在ラス但情狀ニ因リ第三百十三條ノ例ニ照シ其罪ヲ宥恕スルコトヲ得

第三百十七條 疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セス過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十八條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ殘廢疾ニ致シタル者ハ十圓以上一圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十九條 過失ニ因テ創傷シ疾病休業ニ至ラシメタル者ハ二十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百二十條 人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ受ケテ自殺人ノ爲メニ手ヲ下シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其他自殺ノ補助ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

第三百二十一條 自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ自殺セシメタル者ハ重懲役ニ處ス

第三百二十二條 擅ニ人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百二十三條 第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

第三百三條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カラル爲メ人ヲ毆打創傷シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第三百四條 毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ毆打創傷ノ本刑ヲ科ス

第三百五條 二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ現ニ手ヲ下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス若シ共毆シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルコト能ハサル時ハ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス但教唆者ハ減等ノ限ニ在ラス

第三百六條 二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當リ自ラ人ヲ傷セスト雖モ幫助シテ傷ヲ成サシメタル者ハ現ニ傷ヲ成シタル者ノ刑ニ一等ヲ減ス

第三百七條 健康ヲ害ス可キ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメタル者ハ豫メ謀テ毆打創傷スルノ例ニ照シ處斷ス

第三百八條 之ヲ殺スノ意ニ非スト雖モ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ヲ以テ論ス

第三百九條 自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルニ因リ直チニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス

第三百十條 毆打シテ互ニ創傷シ其手下スノ先後ヲ知ルコト能ハサル者ハ各其罪ヲ宥恕スルコトヲ得

第三百十一條 本夫ハ妻ニ姦淫ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ此限ニ在ラス

第三百十二條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戶牆壁ヲ踰越損壞セントスル者ヲ防止スル爲メ之ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス

第三百十三條 前數條ニ記載シタル宥恕ノ可キ罪ハ各本刑ニ照シ二等又ハ三等ヲ減ス

第三百十四條 身體生命ヲ正當ニ防衛シ已ムコトヲ得サルニ出テ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タス其罪ヲ論セス但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス

第三百十五條 左ノ諸件ニ於テ已ムコトヲ得サルニ出テ人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ論セス

一 財産ニ對シ放火其他暴行ヲ爲ス者ヲ防止スルニ出タル時

二 盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還スルニ出タル時

三 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戶牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止スルニ出タル時

第三百十六條 身體財產ヲ防衛スルニ出ルト雖モ已ムコトヲ得サルニ非スシテ害ヲ暴行人ニ加ヘ又ハ危害已ニ去タル後ニ於テ勢ニ乘シ仍ホ害ヲ暴行人ニ加ヘタル者ハ不論罪ノ限ニ在ラス但情狀ニ因リ第三百十三條ノ例ニ照シ其罪ヲ宥恕スルコトヲ得

第三百十七條 疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セス過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十八條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ殘廢疾ニ致シタル者ハ十圓以上一圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十九條 過失ニ因テ創傷シ疾病休業ニ至ラシメタル者ハ二十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百二十條 人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ受ケテ自殺人ノ爲メニ手ヲ下シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其他自殺ノ補助ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

第三百二十一條 自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ自殺セシメタル者ハ重懲役ニ處ス

第三百二十二條 擅ニ人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百二十三條 第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過クニ毎ニ一等ヲ加フ

第三百二十三條 擅ニ人ヲ監禁制縛シテ毆打拷責シ又ハ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所以ヲ施シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百二十四條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス
第三百二十五條 擅ニ人ヲ監禁シ水火震災ノ際其監禁ヲ解クコトヲ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第三百二十六條 人ヲ殺サント脅迫シ又ハ人ノ住居シタル家屋ニ放火セント脅迫シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第三百二十七條 他暴行ヲ加ヘント脅迫シ又ハ財産ニ放火シ及ヒ毀壞劫掠セント脅迫シタル者ハ十一月以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ一圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百二十八條 兇器ヲ持シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ
第三百二十九條 親屬ニ害ヲ加フ可キ事ヲ以テ脅迫シタル者ハ亦前二條ノ例ニ同シ

第三百三十條 此節ニ記載シタル罪ハ脅迫ヲ受ケタル者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
第三百三十一條 懷胎ノ婦女藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十二條 醫師穩婆又ハ藥商前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ
第三百三十三條 懷胎ノ婦女ニ威逼シ又ハ誑騙シテ墮胎セシメタル者ハ一年以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス
第三百三十四條 懷胎ノ婦女ナルコトヲ知テ毆打其他暴行ヲ加ヘ因テ墮胎ニ至ラシメタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス其墮胎セシムルノ意ニ出タル者ハ輕懲役ニ處ス

第三百三十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ癡篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス
第三百三十六條 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪
第三百三十七條 八歳ニ滿タサル幼者又ハ老疾者ヲ寮閣無人ノ地ニ遺棄シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス
第三百三十八條 給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケ保養ス可キ者前二條ノ罪ヲ爲シタル時ハ各一等ヲ加フ
第三百三十九條 幼者老疾者ヲ遺棄シ因テ癡疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ重懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

第三百四十條 自己ノ所有地又ハ看守ス可キ地内ニ遺棄セラレタル幼者老疾者アルコトヲ知テ之ヲ扶助セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス若シ疾病ニ罹リ昏倒スル者アルコトヲ知テ扶助セス又ハ申告セサル者亦同シ

第十節 幼者ヲ略取誘拐スル罪
第三百四十一條 十二歳ニ滿タサル幼者ヲ略取シ又ハ誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十二條 十二歳以上二十歳ニ滿タサル幼者ヲ略取シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十三條 略取誘拐シタル幼者ナルコトヲ知テ自己ノ寮閣僕婢ト爲シ又ハ其他ノ名稱ヲ以テ之ヲ收受シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第三百四十四條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但略取誘拐セラレタル幼者式ニ從テ婚姻ヲ爲シタルトキハ告訴ノ效ナシ

第三百四十五條 二十歳ニ滿タサル幼者ヲ略取誘拐シテ外國人ニ交付シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪
第三百四十六條 十二歳ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ所行

第三百四十七條 十二歳ニ滿タサル男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十八條 十二歳以上ノ婦女ヲ強姦シタル者ハ輕懲役ニ處ス藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシメテ姦淫シタル者ハ強姦ヲ以テ論ス

第三百四十九條 十二歳ニ滿タサル幼者ヲ姦淫シタル者ハ輕懲役ニ處ス若シ強姦シタル者ハ重懲役ニ處ス

第三百五十條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三百五十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス但強姦ニ因テ癡篤疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第三百五十二條 十六歳ニ滿サル男女ノ淫行ヲ勸誘シテ媒合シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百五十三條 有夫ノ婦姦通シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其相姦スル者亦同シ

第三百五十四條 配偶者アル者重子ヲ婚姻ヲ爲シタル時ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以下五十圓以下ノ

第三百五十五條 配偶者アル者重子ヲ婚姻ヲ爲シタル時ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以下五十圓以下ノ

第三百五十六條 配偶者アル者重子ヲ婚姻ヲ爲シタル時ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以下五十圓以下ノ

第三百五十七條 配偶者アル者重子ヲ婚姻ヲ爲シタル時ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以下五十圓以下ノ

第三百五十八條 配偶者アル者重子ヲ婚姻ヲ爲シタル時ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以下五十圓以下ノ

第三百五十九條 配偶者アル者重子ヲ婚姻ヲ爲シタル時ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以下五十圓以下ノ

第三百六十條 配偶者アル者重子ヲ婚姻ヲ爲シタル時ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以下五十圓以下ノ

第三百六十一條 配偶者アル者重子ヲ婚姻ヲ爲シタル時ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以下五十圓以下ノ

罰金ヲ附加ス

第十二節 誣告及ヒ誣毀ノ罪

第三百五十五條 不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シタル者ハ第二
百二十條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス
第三百五十六條 誣告ヲ爲スト雖モ被告人ノ推問ヲ始メサ
ル前ニ於テ誣告者自首シタルトキハ本刑ヲ免ス
第三百五十七條 誣告ニ因テ被告人刑ニ處セラレタルトキ
ハ第二百二十一條第二百二十二條ニ記載シタル例ニ照シ
テ處斷ス
第三百五十八條 惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誣毀シタル者ハ
事實ノ有無ヲ問ハス左ノ例ニ照シテ處斷ス

一 公然ノ演說ヲ以テ人ヲ誣毀シタル者ハ十一日以上三
月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ
附加ス
二 書類畫圖ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作爲シテ人ヲ誣毀
シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓
以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百五十九條 死者ヲ誣毀シタル者ハ誣問ニ出タルニ非
サレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルコトヲ得ス
第三百六十條 醫師藥商穩婆又ハ代言人辯護人代書人若ク
ハ神官僧侶其身分職業ニ於テ委託ヲ受ケタル事ニ因テ知
得タル陰私ヲ漏告シタル者ハ毀テ以テ論シ十一月以上
三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附
加ス但裁判所ノ呼出ヲ受ケテ事實ヲ陳述スル者ハ此限ニ
在ラス

第三百六十一條 此節ニ記載シタル誣毀ノ罪ハ被害者又ハ
死者ノ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第十三節 祖父母父母ニ對スル罪

第三百六十二條 子孫其祖父母父母ヲ謀殺故殺シタル者ハ
死刑ニ處ス
其自殺ニ關スル罪ハ凡人ノ刑ニ照シテ加フ
第三百六十三條 子孫其祖父母父母ニ對シ毆打創傷ノ罪其
他監禁脅迫遺棄誣告誣毀ノ罪ヲ犯シタル者ハ各本條ニ記
載シタル凡人ノ刑ニ照シテ加フ但癡疾ニ致シタル者
ハ有期徒刑ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死
ニ致シタルモノハ死刑ニ處ス

第三百六十四條 子孫其祖父母父母ニ對シ衣食ヲ供給セズ
其他必要ナル奉養ヲ缺キタル者ハ十五日以上六月以下ノ
重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
因テ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ
第三百六十五條 祖父母父母ニ對シタル殺傷ノ罪ハ特別ノ
宥恕及ヒ不論罪ノ例ヲ用フルコトヲ得ス但其犯ストキ知
ラサル者ハ此限ニ在ラス

第二章 財産ニ對スル罪

第三百六十六條 人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト
爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス
第三百六十七條 水火震災其他ノ變ニ乘シテ竊盜ヲ犯シタ
ル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス
第三百六十八條 門戶牆壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開キ
耶宅倉庫ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ亦前條ニ同シ

第三百六十九條 二人以上共ニ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ
各一等ヲ加フ

第三百七十條 兇器ヲ携帯シテ人ノ住居シタル邸宅ニ入り
竊盜ヲ犯シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第三百七十一條 自己ノ所有物ト雖モ典物トシテ他人ニ交
付シ又ハ官署ノ命令ニ因リ他人ノ看守シタルトキ之ヲ竊
取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス

第三百七十二條 田野ニ於テ穀類菜葉其他ノ產物ヲ竊盜シ
タル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七十三條 山林ニ於テ竹木礦物其他ノ產物ヲ竊盜シ
又ハ川澤池沼湖海ニ於テ人ノ生養シ若クハ營業ニ關スル
產物ヲ竊盜シタル者ハ亦前條ニ同シ

第三百七十四條 牧場ニ於テ牧畜ノ獸類ヲ竊取シタル者ハ
二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七十五條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未
タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百七十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處
スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三百七十七條 祖父母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同
居ノ兄弟姉妹互ニ其財産ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論
スルノ限ニ在ラス若シ他人共ニ犯シテ財物ヲ分チタル者
ハ竊盜ヲ以テ論ス

第二節 強盜ノ罪

第三百七十八條 人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ強取
シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ輕懲役ニ處ス

第三百七十九條 強盜左ニ記載シタル情狀アル者ハ一個毎

ニ一等ヲ加フ 二人以上共ニ犯シタルトキ 一 兇器ヲ
携帯シテ犯シタルトキ

第三百八十條 強盜人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ
致シタル者ハ死刑ニ處ス

第三百八十一條 強盜婦女ヲ強姦シタル者ハ無期徒刑ニ處
ス

第三百八十二條 竊盜財ヲ得テ其取還ヲ拒ク爲メ隨時暴行
脅迫ヲ爲シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

第三百八十三條 藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏迷セシメ其財物ヲ盜
取シタル者ハ強盜ヲ以テ論シ輕懲役ニ處ス

第三百八十四條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減輕ニ因テ輕
罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三百八十五條 遺失及ヒ漂流ノ物品ヲ拾得テ隱匿シ所有
主ニ還付セズ又ハ官署ニ申告セサル者ハ十一月以上三月
以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處
ス

第三百八十六條 他人ノ所有地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得
テ隱匿シタル者ハ亦前條ニ同シ

第三百八十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百
七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ルトキハ其罪ヲ論セズ
第四節 家資分散ニ關スル罪
第三百八十八條 家資分散ノ際其財産ヲ隱匿脫漏シ又ハ虛
偽ノ負債ヲ増加シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ
處ス
情ヲ知テ虛偽ノ契約ヲ承諾シ若クハ媒介ヲ爲シタル者

ハ等 減ス

第三百八十九條 家資分散ノ際帳簿ノ類ヲ藏匿毀棄シ若クハ分散決定ノ後債主中ノ一人又ハ數人ニ其負債ヲ私債シテ他ノ債主ヲ害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五節

詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪

第三百九十條 人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シ 月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス因テ官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第三百九十一條 幼者ノ知慮薄弱又ハ人ノ精神錯亂シタルニ乘シテ其財物若クハ證書類ヲ授與セシメタル時ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百九十二條 物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽テ人ニ交付シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百九十三條 他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當典物ト爲シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス 自己ノ不動産ト雖モ已ニ抵當典物ト爲シタルヲ欺隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重子ヲ抵當典物ト爲シタル者亦同シ

第三百九十四條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三百九十五條 受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ費消シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ騙取拐帶其他詐欺ノ所爲アル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百九十六條 自己ノ所有ニ係ルト雖モ官署ヨリ差押ヘタル物件ヲ藏匿脱漏シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス但家資分散ノ際此罪ヲ犯シタル者ハ第三百八十八條ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百九十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百九十八條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第六節 贖物ニ關スル罪

第三百九十九條 強竊盜ノ贖物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第四百一條 詐偽取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ十一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七節 放火失火ノ罪

第四百二條 火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

第四百三條 火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋其他ノ建造物ヲ燒燬シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第四百四條 火ヲ放テ廢屋及ヒ柴草肥料等ヲ貯フル屋舎ヲ

燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四百五條 火ヲ放テ人ヲ乘載シタル船舶汽車ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

其人ヲ乘載セサル船舶汽車ニ係ル時ハ重懲役ニ處ス

第四百六條 火ヲ放テ山林ノ竹木田野ノ穀麥又ハ露積シタル柴草竹木其他ノ物件ヲ燒燬シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四百七條 火ヲ放テ自己ノ家屋ヲ燒燬シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第四百八條 放火ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第四百九條 火ヲ失シテ人ノ家屋財產ヲ燒燬シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十條 火藥其他激發ス可キ物品又ハ煤氣并蒸氣罐ヲ破裂セシメテ人ノ家屋財產ヲ毀壞シタル者ハ其故意ニ出ルト過失トナ分チ放火失火ノ例ニ照シテ處斷ス

第八節 決水ノ罪

第四百十一條 堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ人ノ住居シタル家屋ヲ漂失シタル者ハ無期徒刑ニ處ス若シ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ漂失シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四百十二條 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シテ田圃墳坑牧場等ヲ荒廢シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四百十三條 他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ルヲメ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ其他水利ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百十四條 過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ハ失火ノ例ニ照シテ處斷ス

第九節 船舶ヲ覆没スル罪

第四百十五條 衝突其他ノ所爲ヲ以テ人ヲ乘載シタル船舶ヲ覆没シタル者ハ死刑ニ處ス但船中死亡ナキ時ハ無期徒刑ニ處ス

第四百十六條 前條ノ所爲ヲ以テ人ヲ乘載セサル船舶ヲ覆没シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第四百十七條 人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重ニ從テ處斷ス

第四百十八條 人ノ家屋ニ屬スル牆壁及ヒ圍地ノ裝容又ハ田圃ノ樊圍牧場ノ柵欄ヲ毀壞シタル者ハ十一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十九條 人ノ稼穡竹木其他需用ノ植物ヲ毀損シタル者ハ十一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十條 土地ノ經界ヲ表シタル物件ヲ毀壞シ又ハ移轉シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百二十一條 人ノ器物ヲ毀壞シタル者ハ十一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ

處ス

第四百二十二條 人ノ牛馬ヲ殺シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第四百二十三條 前條ニ記載シタル以外ノ家畜ヲ殺シタル者ハ一圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
但被害者ノ告訴ヲ得テ其罪ヲ論ス
第四百二十四條 人ノ權利義務ニ關スル證書類ヲ毀滅滅盡シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四編 違警罪

第四百二十五條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
一 規則ヲ遵守セズシテ火藥其他破裂ス可キ物品ヲ市街ニ運搬シタル者
二 規則ヲ遵守セズシテ火藥其他破裂ス可キ物品又ハ自ラ火ヲ發ス可キ物品ヲ貯藏シタル者
三 官許ヲ得ズシテ烟火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者
四 人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ烟火其他火器ヲ玩ヒタル者
五 蒸氣器械其他烟火筒ヲ建造修理シ及ヒ掃除スル規則ニ違背シタル者
六 官署ノ督促ヲ受ケテ崩壊セントスル家屋牆壁ノ修理ヲ爲ササル者
七 官許ヲ得ズシテ死屍ヲ解剖シタル者
八 自己ノ所有地内ニ死屍アルコトヲ知テ官署ニ申告セ

ス又ハ他所ニ移シタル者
九 人ノ毆打シテ創傷疾病ニ至ラシムル者
十 密ニ寄淫ヲ爲シ又ハ其媒合容止ヲ爲シタル者
十一 人ノ住居セサル家屋内ニ潜伏シタル者
十二 定リタル住居ナク平常營生ノ產業ナクシテ諸方ニ徘徊ヘル者
十三 官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者
十四 違警罪ノ犯人ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者但被告ノ人偽證ノ爲メ刑ヲ免カレタル者ハ第二百十九條ノ例ニ從フ

第四百二十六條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス
一 人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於テ濫リニ火ヲ焚ク者
二 水火其他ノ變ニ際シ官吏ヨリ防禦ス可キノ求メテ受ケ傍觀シテ之ヲ背セサル者
三 不熟ノ藥物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル者
四 健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則又ハ傳染病豫防規則ニ違背シタル者
五 人ノ通行ス可キ場所ニアル危險ノ井溝其他凹所ニ蓋又ハ防圍ヲ爲ササル者
六 路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ吠シ又ハ驚逸セシメタル者
七 發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタル者
八 狂犬猛獸等ノ毀損ヲ怠リ路上ニ放チタル者
九 變死人ノ檢視ヲ受ケズシテ埋葬シタル者

十 墓碑及ヒ路上ノ神佛ヲ毀損シ又ハ汚漬シタル者
十一 神祠佛堂其他公ノ建造物ヲ汚漬シタル者
十二 公然人ヲ罵詈嘲弄シタル者但訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第四百二十七條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス
一 濫リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
二 制止ヲ背セズシテ人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ牽キタル者

三 夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者
四 木石等ヲ道路ニ堆積シテ防圍ヲ設ケズ又ハ標識ノ點燈ヲ怠リタル者
五 瓦礫ヲ道路家屋圍圍ニ投擲シタル者
六 禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又ハ取除カサル者
七 汚穢物ヲ道路家屋圍圍ニ投擲シタル者
八 警察ノ規則ニ違背シテ工務ノ業ヲ爲シタル者
九 醫師產婆事故ナクシテ急病人ノ招キニ應セサル者
十 死亡ノ申告ヲ爲サズシテ埋葬シタル者
十一 流言浮説ヲ爲シテ人ヲ誑惑シタル者
十二 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符咒等ヲ爲シ人ヲ惑ハシテ利ヲ圖ル者
十三 私有地外ヘ濫リニ家屋牆壁ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出シタル者
十四 官許ヲ得ズシテ路傍又ハ河岸ニ床店等ヲ開キタル者
十五 路上ノ植木市街ノ常燈及ヒ岡場等ヲ毀損シタル者

十六 道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及ヒ指道標ノ類ヲ毀棄汚損シタル者

第四百二十八條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス
一 官署ヨリ價額ヲ定メタル物品ヲ定價以上ニ販賣シタル者
二 渡船橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取リ又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者
三 渡船橋梁其他通行錢ヲ拂フヘキ場所ニ於テ其定價ヲ出サズシテ通行シタル者
四 路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者
五 官許ヲ得ズシテ劇場其他觀物場ヲ開キ及ヒ其規則ニ違背シタル者
六 溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚ハサル者
七 制止ヲ背セズシテ路傍ニ食物其他ノ商品ヲ羅列シタル者
八 官許ヲ得ズシテ獸類ヲ官有地ニ放チ又ハ牧畜シタル者
九 身體ニ刺文ヲ爲シ及ヒ之ヲ業トスル者
十 他人ノ繫キタル牛馬其他ノ獸類ヲ解放シタル者
十一 他人ノ繫キタル舟筏ヲ解放シタル者
第四百二十九條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス
一 橋梁又ハ堤防ノ害ト爲ル可キ場所ニ舟筏ヲ繫キタル者

二 牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横タヘ又ハ木石薪炭等ヲ堆積シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

三 車馬ヲ竝ヘ牽テ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

四 水路ニ於テ舟ナ竝ヘ通船ノ妨害ヲ爲シタル者

五 氷雪塵芥等ヲ路上ニ投棄シタル者

六 官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ爲ササル者

七 制止ヲ肯セシテ路上ニ遊戯ヲ爲シ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

八 牛馬ヲ牽キ又ハ繫クコトヲ忽カセニシテ妨害ヲ爲シタル者

九 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫リニ出入シタル者

十 通行禁止ノ榜示ヲ犯シテ通行シタル者

十一 道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シテ制止ヲ肯セサル者

十二 酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥シタル者

十三 路上ノ常燈ヲ消シタル者

十四 人家ノ牆壁ニ貼紙及ヒ喫書シタル者

十五 邸宅ノ番號標札招牌又ハ貸家賣家ノ貼紙其他報告ノ榜標等ヲ毀損シタル者

十六 他人ノ田野園圃ニ於テ菜菓ヲ菜食シ又ハ花卉ヲ採折シタル者

十七 公園ノ規則ヲ犯シタル者

十八 通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入レタル者

第四百三十條 前數條ニ記載スルノ外各地方ノ便宜ニヨリ定ムル所ノ違警罪ヲ犯シタル者ハ其規則ニ從テ處斷ス

○刑法附則

一四年一二月布一七號
 刑法附則別冊之通相定メ明治十五年一月一日ヨリ施行ス

第一章 主刑執行

第一條 死刑ハ其執行ヲ處ス裁判所ノ檢察官書記及ヒ獄司刑場ニ立會ヒ獄司ヨリ囚人ニ死刑ヲ執行スヘキコトヲ告示シタル後獄丁ヲシテ之ヲ執行セシム但其期限ハ午前十時前トス

第二條 死刑ヲ行フ時ハ刑場ノ警戒ヲ嚴ニシ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルコトヲ許サズ但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此ノ限りニアラス

第三條 死刑ノ執行畢リタルトキハ書記其始末書ヲ作り立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印シ之ヲ裁判所ノ檢事局ニ納ムヘシ

第四條 左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フコトヲ禁ム

元始祭
 孝順天皇祭
 紀元節
 春季皇靈祭
 仁德天皇祭
 神武天皇祭
 六月大祓
 秋季皇靈祭
 神宮神嘗祭
 天長節
 後桃園天皇祭
 新嘗祭

光格天皇祭
 十二月大祓

第五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ト申立ル者ハ醫師及ヒ穩婆ヲシテ検査セシメ果シテ懷胎ナル時ハ檢察官ヨリ司法卿ニ上申シテ其執行ヲ停メ産後一百日ヲ經テ更ニ司法卿ノ命令ヲ受ケ執行スヘシ

第六條 死刑ノ遺骸ハ一定ノ場所ニ埋ム若シ親屬故舊請フ者アル時ハ獄司之ヲ許可シ下付スルコトヲ得

第七條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者執行ニ至ルマテ何時ニテモ獄司ノ許可ヲ得テ其親屬故舊ニ接見スルコトヲ得

第八條 死刑ヲ執行シタル時ハ犯人ノ屬籍氏名年齢職業住所及ヒ其罪狀刑名ヲ記載シテ左ノ各所ニ榜示公告ス可シ刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前

犯罪ノ地

犯人ノ住居ノ地

第九條 徒流ノ囚ヲ發遣スルハ裁判ヲ爲シタル地ノ獄司ヨリ内務卿ニ上申シ其命令ヲ待テ發船ノ地ニ護送ス可シ

第十條 徒刑ノ囚ハ島地ニ於テ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルコトヲ得

第十一條 流刑ノ囚幽閉中獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ獄司之ヲ許ス可シ

第十二條 流刑ノ囚幽閉ヲ免ス可キ者アル時ハ獄司ヨリ内務卿ニ上申シ其許可ヲ受クヘシ

第十三條 徒刑ノ囚出獄ヲ許サレタル者又ハ流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者家屬ヲ招キ同居スルヲ請フ時ハ之ヲ許スコトヲ得但其路費ハ自ラ之ヲ辨ス可シ

第十四條 流刑ノ囚幽閉ヲ免シ地ヲ限リ居住セシムル者ハ監獄近傍ノ地ヲ限リ獄司ノ監督ヲ受ケシム若シ已ムコトヲ得サル事故アル時ハ獄司ニ請フテ限外ニ出ルコトヲ得

第十五條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者再ヒ罪ヲ犯シタル時ハ本刑期限内ト雖モ島地ニ於テ直チニ其刑ヲ執行ス可シ

第十六條 懲役重禁錮ノ囚ハ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルコトヲ得

第十七條 禁錮輕禁錮ノ囚獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ獄司之ヲ許ス可シ

第十八條 服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後犯ノ刑期百日以内ハ工錢ヲ給與セム

第十九條 囚人ニ給與スル工錢ノ額ヲ定メ之ヲ交付シ及ヒ領置スル方法ハ監獄ノ規則ニ從フ

第二十條 罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ之ヲ徵收セス附加ノ罰金ニ於ケル亦同シ

第二章 監視

第二十一條 監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束スル爲メ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムル者トス

第二十二條 監視ニ付ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ主刑ノ終リタル時典獄ヨリ最近ノ警察所ニ護送シ其警察所ヨリ住所ノ地ノ警察所ニ送致シ監視ヲ執行セシム但主刑ノ期滿免除ヲ得タル者又ハ主刑ヲ免シ止タ監視ニ付スル者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ護送スヘシ(十五年第四十二號布告ヲ以テ全條改正)

第二十三條 犯人ヲ警察所ニ送送スル時ハ其監視ノ起算満期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ附本ヲ附ス可シ

第二十四條 (同上布告ヲ以テ本條ヲ削除ス)
第二十五條 警察所ヨリ犯人ヲ住居ノ地ノ警察所ニ送致スル時ハ其里程ヲ計リ日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與シ犯人到著ノ日直チニ之ヲ其地ノ警察所ニ差出サシム且途中事故アリテ流滞シタル時ハ第三十一條ノ例ニ從フ可シ
犯人ヲ送致スル時ハ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ他ノ警察所ニ送送ス可シ

第二十六條 犯人住居ノ地ノ警察所ニ於テハ監視ノ期限間遵守ス可キ條件ヲ設ケテ監視ノ票ヲ下付ス可シ
第二十七條 監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守ス可シ

- 一 毎月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルコトヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ已ムコトヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルコト能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ
- 二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許サス
- 三 事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ
- 四 擅ニ他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許サス若シ已ムコトヲ得サル事故アル時ハ其事故ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受ク可シ

第二十八條 監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ隨檢スルコトアル可シ

第二十九條 警察所ニ於テ住居ヲ轉スルコトヲ許可シタル時ハ其ノ事由ヲ轉住ノ地ノ警察所ニ通知シ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ送送ス可シ

第三十條 他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許可シタル時ハ其里程ヲ計リ先方ノ地ニ滞留スル時日ヲ算シ往復日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與ス可シ
犯人先方ノ地ニ到レハ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ認印ヲ受ケ限定ノ日數内ニ歸來リ直チニ旅券ヲ警察所ニ還納ス可シ

第三十一條 旅行中天然又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滞シタル時ハ事由ヲ其地ノ警察所ニ具申シ官吏ノ證書ヲ受ケ歸著ノ日旅券ニ添ヘ警察所ニ差出ス可シ
第三十二條 監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限間懲治場ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ在テ歸著スル資力ナキ者亦同シ

- 第三十三條 懲治場ニ留置シタル者限内引取人ヲ得又ハ住居ノ地ニ歸著スル資力ヲ得タル時ハ其地ニ送致シテ後期ノ監視ヲ執行セシム可シ
- 第三十四條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共ニ監視ニ付スヘキ時又ハ監視ノ期限間再ヒ罪ヲ犯シ監視ニ付スヘキ時ハ竝ニ主刑滿限ノ後前後ノ期限ヲ通算シテ監視ヲ執行ス可シ
- 第三十五條 罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ス可キ時ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入ス可シ
- 第三十六條 監視ニ付セラレタル者其規則ヲ遵守シ改悛ノ狀アル時ハ警察官ヨリ其事實ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命

ヲ受ケテ假ニ監視ヲ免スルコトヲ得

第三十七條 假ニ監視ヲ免セラレタル者住居ヲ轉移スル時ハ第二十七條第三及ヒ第二十九條ノ例ニ從フ可シ

第三章 假出獄及特別監視
第三十八條 假出獄ヲ許ス可キ者アル時ハ獄司ヨリ其犯人ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出獄ヲ許サレンコトヲ内務司法兩卿ニ上申シテ許可ヲ受ク可シ

第三十九條 假出獄ヲ許シタル時ハ獄司ヨリ其證票ヲ犯人ニ下付ス可シ

第四十條 假出獄證票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ
一 本人ノ屬籍氏名年齢住所罪名及ヒ處刑ノ年月日
二 殘期何年何月何日假出獄ヲ許ス事
三 假出獄中ハ特別監視ニ付ス可キ事
四 假出獄中更ニ重罪ヲ犯シタル時ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セサル事

第四十一條 (明治三十一年六月法律第十一號民法施行法第四十四條ヲ以テ本條ヲ削ル)

第四十二條 假出獄ヲ許ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ出獄ノ日典獄ヨリ其證票ノ附本ヲ添ヘ第二十二條ノ例ニ依リ犯人ヲ護送シ特別監視ヲ執行セシム可シ(明治十五年第四十二號布告ヲ以テ改正)

第四十三條 特別監視ニ付スル者ハ第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十九條第三十一條ノ例ヲ適用ス

第四十四條 特別監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守ス可シ

一 毎週間一度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルコトヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ已ムコトヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルコト能ハサル時ハ其事故ヲ届出ツ可シ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許サス

三 事故アリテ住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ但シ他ノ府縣ニ轉移スルコトヲ許サス

四 往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルコトヲ許サス

第四十五條 特別監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ隨檢スルコトアル可シ

第四十六條 假出獄ヲ許サレタル者刑期間滿限ノ日ニ至レハ假出獄證票ヲ警察所ニ還納シ警察所ヨリ證票ヲ出シタル獄司ニ還送ス可シ

主刑滿限ノ後監視ニ付ス可キ犯人ナル時ハ警察所ニ於テ第二章ノ例ニ從テ處分ス可シ

第四十七條 假出獄ヲ許ス可キ者住所ナク及ヒ引取人ナキ時ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ懲治場ニ留置ス可シ

第四章 刑事裁判費用
第四十八條 豫審公判ニ付キ呼出シタル証人醫師鑑定人通辯人翻譯人ニ給與ス可キ日當旅費止宿料及ヒ第五十一條第五十二條ニ記載シタル者ヲ以テ刑事ノ裁判費用ト爲ス

第四十九條 證人ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金二十錢乃至金五十錢ノ範圍内ニ於テ豫審判事又ハ裁判所之ヲ定ム但止

宿料ヲ給與スル場合ニ於テハ日當テ給與セス(二十八年法律第三號本條改正)

第四十九條乙 醫師、鑑定人、通辯人、翻譯人ノ日當ハ出頭一度ニ付金三十錢乃至金五圓ノ範圍内ニ於テ豫審判事又ハ裁判所之ヲ定ム(同上)

第四十九條丙 證人、醫師、鑑定人、通辯人、翻譯人ノ旅費ハ海陸路滿一里ニ付キ金五錢乃至金五十錢ノ範圍内ニ於テ豫審判事又ハ裁判所之ヲ定ム但道路兩線以上アル時ハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス(同上)

第四十九條丁 證人、醫師、鑑定人、通辯人、翻譯人ノ止宿料ハ一日ニ付キ金二十錢乃至五十錢ノ範圍内ニ於テ豫審判事又ハ裁判所之ヲ定ム但滿八里以上ノ地ヨリ來リ滞在スル時ニ非サレハ之ヲ給與セス(同上)

第五十條 證人、醫師、鑑定人、通辯人、翻譯人ノ日當旅費及止宿料ハ豫審ニ於テハ其終結前、公判ニ於テハ其判決前ニ本人ヨリ請求スルニ非サレハ之ヲ給與セス(同上)

第五十一條 證人日稼ヲ以テ生業トスル者治罪法第百九十九條ニ從ヒ償金ヲ要求スル時ハ旅費日當ノ外若干ノ償金ヲ給ハルコトアル可シ

第五十二條 解剖會密等ノ費用及ヒ數多ノ時間ヲ要スル翻譯料ノ額ハ日當ノ外別ニ之ヲ給與ス可シ

第五十三條 裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納メサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ其相續人ヨリ之ヲ徵收ス

第五章 賠償處分

第五十四條(明治三十一年六月法律第十一號民法施行法第六十一條ノ規定ヲ以テ本條ヲ削ル)

第五十五條 (同上)

第五十六條 (同上)

第五十七條 (同上)

第五十八條 (同上)

第五十九條 (同上)

第六十條 (同上)

第六十一條 刑事裁判所ニ於テ贖物ノ還給損害ノ賠償ヲ請求スル者ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得其民事裁判所ニ請求スル者民事訴訟ノ程式ニ從フ可シ

第六十二條 贖物ノ還給損害ノ賠償ハ本人死スル時ハ其相續人ニ對シ之ヲ要求スルコトヲ得

第六十三條 贖物ノ還給損害ノ賠償ノ宣告ヲ受ケタル者還給賠償セサル時ハ被害者ヨリ更ニ民事裁判所ニ身代限ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

○爆發物取締罰則

一七年一二月布三二號

爆發物取締罰則別冊ノ通制定ス

第一條 治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體財產ヲ害セントスルノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者及ヒ人ヲシテ之ヲ使用セシメタル者ハ死刑ニ處ス

第二條 前條ノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用セントスルノ際發覺シタル者ハ無期徒刑又ハ有期徒刑ニ處ス

第三條 第一條ノ目的ヲ以テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四條 第一條ノ罪ヲ犯サントシテ脅迫教唆煽動ニ止ル者

及ヒ共謀ニル者ハ重懲役ニ處ス

第五條 第一條ニ記載シタル犯罪者ノ爲メ情ヲ知テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入販賣譲與寄藏シ及ヒ其約束ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第六條 爆發物ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者第一條ニ記載シタル犯罪ノ目的ニアラサルコトヲ證明スルコト能ハサル時ハ二年以上五年以下ノ重懲役ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條 爆發物ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ告知ス可シ違フ者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 本則ニ記載シタル重罪犯アルコトヲ認知シタル時ハ直ニ警察官吏若クハ危害ヲ被ムラントスル人ニ告知ス可シ違フ者ハ六月以上五年以下ノ重懲役ニ處ス

第九條 本則ニ記載シタル重罪ノ犯人ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメ又ハ其罪證ヲ湮滅シタル者ハ正犯ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第十條 本則ニ記載シタル重罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第八十條及ヒ第八十一條ノ例ヲ用ヒス但十六歳未満ニシテ是非ノ辨別ナキ者ハ刑法ニ從フ

第十一條 第一條ニ記載シタル犯罪ノ豫備隠謀ヲ爲シタル者ト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シ因テ危害ヲ爲スニ至ラサル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス第五條ニ記載シタル犯罪者モ亦同シ

○決闘罪

第十二條 本則ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ仍ホ重キ者ハ重キニ從テ處斷ス

二二年一二月法三四號

決闘罪ニ關スル事件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 決闘ヲ挑ミタル者又ハ其挑ニ應シタル者ハ六月以上二年以下ノ重懲役ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 決闘ヲ行ヒタル者ハ二年以上五年以下ノ重懲役ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 決闘ニ依テ人ヲ殺傷シタル者ハ刑法ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第四條 決闘ノ立會ヲ爲シ又ハ立會ヲ爲スコトヲ約シタル者ハ證人介添人等何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス一月以上一年以下ノ重懲役ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五條 決闘ノ場所ヲ貸與シ又ハ供用セシメタル者ハ罰前條ニ同シ

第六條 決闘ノ挑ニ應セサルノ故ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ刑法ニ照シ誹毀ノ罪ヲ以テ論ス

第七條 前數條ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ其重キモノハ重キニ從テ處斷ス

○屋外竊盜罪處罰方

二三年一〇月法九九條

屋外竊盜ノ罪ニ關スル事件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

第一條 家屋其他ノ建物外ニ於テ犯シタル竊盜ニシテ未タ遂ケサル者又ハ已ニ遂ケタルモ其金額五圓ニ滿タサル者ハ十一日以上二月以下ノ重懲役ニ處ス

第二條 田野、山林、川澤、池沼、湖海ニ於テ其產物ヲ窃取セ
ントシ又ハ牧場ニ於テ其獸類ヲ窃取セントシテ未ダ遂ケ
サル者又ハ已ニ窃取シタルモ其贖額五圓ニ滿タサル者亦
前條ニ同シ
第三條 前二條ニ記載シタル贖額ハ犯罪ノ地及ヒ其時ニ於
ケル物價ニ據リ裁判所之ヲ定ム但贖物現存セザルトキハ
其中等ノ價額ニ據ル可シ

○富興行ヲ禁ス

元年一二月布

富興行ノ儀ハ兼テ御禁制ニ有之處近年諸國ニ於テ金錢融通
ヲ名トシ或ハ社寺再建等ニ託シ興行致候向モ有之趣元來澆
季ノ弊風僥倖ノ利ヲ以テ民心ヲ誘惑スルヨリ自然農工商共
其職業ヲ惰リ往來是力家産ヲ破散モ不少哉ニ相聞以テノ外
ノ事ニ候斯御一新ノ折柄右様ノ所業殊ニ御趣意ニ相戻リ候
儀ニ付更ニ嚴禁被仰出候事

○富鐵賣買者等處分

一五年五月二五布

明治元年十二月二十三日ノ布告ニ原ツキ富鐵賣買ノ牙保幫
助ヲ爲シ及富鐵ヲ購買シタル者處分方左ノ通制定ス
第一條 凡富鐵賣買ノ牙保若クハ幫助ヲ爲シタル者ハ一月
以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金
ヲ附加ス
第二條 凡富鐵ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタルト未ダ拂
ハサルトナ間ハス二十日以上四月以下ノ重禁錮ニ處シ四
圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借りテ購買

シタル者及他人ヨリ譲リ受ケタル者亦同シ
第三條 第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタ
ル刑期金額ノ二倍ニ處ス但初犯ニ科シタル刑期金額ニ下
ルコトヲ得ス
第四條 富鐵ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徵スル所
ノ罰金ノ半額ヲ給與ス
第五條 富鐵ニ關スル罪ヲ犯シ事未ダ發覺セザル前ニ於テ
官ニ自首シタル者ハ其罪ヲ許ス
再犯ニ係ル者ハ自首スト雖モ其罪ヲ免セス
第六條 富鐵ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス
自首ニ因テ罪ヲ免シタル者ト雖モ財物沒收ハ仍ホ前項ニ
依ル

○刑事訴訟法

二三年一〇月法九六號

除刑事訴訟法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
刑事訴訟法目次

- 第一編 總則
- 第二章 裁判所
- 第一章 裁判所ノ管轄
- 第二章 裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避、回避
- 第三編 犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審
- 第一章 捜査
- 第一節 告訴及ヒ告發
- 第二節 現行犯罪
- 第二章 起訴

第三章 豫審

- 第一節 令狀
- 第二節 密室監禁
- 第三節 證據
- 第四節 被告人ノ訊問及ヒ對質
- 第五節 檢認、搜索及ヒ物件差押
- 第六節 證人訊問
- 第七節 鑑定
- 第八節 現行犯ノ豫審
- 第九節 保釋
- 第十節 豫審終結
- 第四編 公判
- 第一章 通則
- 第二章 區裁判所公判
- 第三章 地方裁判所公判
- 第五編 上訴
- 第一章 通則
- 第二章 控訴
- 第三章 上告
- 第四章 抗告
- 第六編 再審
- 第七編 大審院ノ特別權限ニ關スル訴訟手續
- 第八編 裁判執行、復権及ヒ特赦
- 第一章 裁判執行
- 第二章 復権
- 第三章 特赦

附則

刑事訴訟法

- 第一編 總則
- 第一條 公訴ハ犯罪ヲ證明シ刑ヲ適用スルコトヲ目的トスルモノニシテ法律ニ定メタル區別ニ從ヒ檢事之ヲ行フ
- 第二條 私訴ハ犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償贖物ノ返還ヲ目的トスルモノニシテ民法ニ從ヒ被害者ニ屬ス
- 第三條 公訴ハ被害者ノ告訴ヲ待テ起ルモノニ非ス又告訴私訴ノ拋棄ニ因テ消滅スルモノニ非ス但法律ニ於テ特ニ定メタル場合ハ此限ニ在ラス
- 第四條 私訴ハ其金額ノ多寡ニ拘ハラズ公訴ニ付キ第二審ノ判決アルマテ何時ニテモ其公訴ニ附滯シテ之ヲ爲スコトヲ得
- 第三者ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ公訴附帶ノ私訴ニ參加スルコトヲ得
- 第五條 被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ民法ニ從ヒ被害者ヨリ賠償、返還ヲ要ムル妨礙ト爲ルコトナカル可シ
- 第六條 公訴ヲ爲ス權ハ左ノ事項ニ因テ消滅ス
- 第一 被告人ノ死去
- 第二 告訴ヲ待テ受理ス可キ事件ニ付テハ告訴ノ拋棄
- 第三 確定判決
- 第四 犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢止
- 第五 大赦
- 第六 時效
- 第七條 私訴ヲ爲ス權ハ左ノ事項ニ因テ消滅ス

第一 拋棄又ハ和解
第二 確定判決
第三 時效

第八條 公訴ノ時效ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ成就ス
第一 違警罪ハ六月
第二 輕罪ハ三年
第三 重罪ハ十年

第九條 私訴ノ時效ハ被害者無能力ナルトキ又ハ公訴ニ附
帶セシテ其訴ヲ爲シタルトキト雖モ公訴ノ時效ト其期
間ヲ同クス

第十條 公訴、私訴ノ時效ハ犯罪ノ日ヨリ其期間ヲ起算ス
但繼續犯罪ニ付テハ其最終ノ日ヨリ起算ス

第十一條 時效ハ起訴、豫審又ハ公判ノ手續アリタルニ因
リ其期間ノ經過ヲ中斷ス其未タ發覺セサル正犯從犯及ヒ
民事擔當人ニ付テモ亦同シ

第十二條 起訴、豫審又ハ公判ノ手續其規定ニ背キタルニ
因リ無効ニ屬スルトキハ時效ノ經過ヲ中斷スル效ナカル
可シ但裁判所ノ管轄違ナルニ因リ其手續ノ無効ニ屬スル
トキハ此限ニ在ラス

第十三條 被告人免許又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於
テ其訴訟ノ原由告訴人告發人、又ハ民事原告人ノ惡意若
クハ重過失ニ出テタルトキハ是等ノ者ニ對シ損害ヲ要ム

ルコトヲ得

被告人刑ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ告訴人、告發人又ハ民
事原告人ヨリ惡意若クハ重過失ニ因リ其犯罪ニ付キ過實
ノ申立ヲ爲シタルトキ亦同シ

民事原告人上訴ヲ爲シ收訴シタルトキハ被告人其上訴ニ
因リ生シタル損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得

要償ノ訴ハ本案ノ判決アルマテ何時ニテモ其裁判所ニ之
ヲ爲スコトヲ得

第十四條 被告人無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ判事、檢事、
裁判所書記、執達吏、司法警察官又ハ巡查、憲兵卒ニ對シ
要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス但是等ノ官吏被告人ニ對シ故
意ヲ以テ損害ヲ加ヘ又ハ刑法ニ定メタル罪ヲ犯シタル場
合ハ此限ニ在ラス

第十五條 此法律ニ於テ期間ヲ計算スルニ時ヲ以テスルモ
ノハ即時ヨリ起算シ日ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セス
若シ最終ノ日休暇ニ當ルトキハ期間ニ算入ス可カラズ但
時效ノ期間ハ此限ニ在ラス

一日ト稱スルハ二十四時間ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十
日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

第十六條 此法律ニ定メタル期間ニハ海陸路八里毎二日
ノ猶豫ヲ加フ八里ニ滿タサルモノト雖モ三里以上ナルト
キ亦同シ

島嶼又ハ外國ニ付テハ裁判所ニ於テ特ニ附加期間ヲ定ム
ルコトヲ得

第十七條 此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付キ定メタル期間ヲ
經過シタルトキハ特別ノ場合ヲ除ク外其訴訟ヲ爲スルヲ

失フ可シ

第十八條 訴訟關係人ハ裁判所所在ノ地ニ住セサルトキハ
其地ニ假住所ヲ定メ裁判所ニ届出ツ可シ否ラサルトキハ
書類ノ送達ナシト雖モ異議ヲ申立ルコトヲ得ス

第十九條 書類ノ送達ハ此法律ニ於テ別ニ規定アラサルト
キハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

第二十條 官吏、公吏ノ作ル可キ書類ハ其所屬官署、公署ノ
印ヲ用ヒ年月日及ヒ場所ヲ記載シテ署名捺印シ毎葉ニ契
印ス可シ若シ官署、公署ノ印ヲ用井ルコト能ハサル場合
ニ於テハ其事由ヲ記載ス可シ此規定ニ背キタルトキハ其
書類ノ效ナカル可シ

第二十一條 官吏、公吏ニ非サル者ノ署名捺印ス可キ
場合ニ於テ捺印スルコト能ハサルトキハ署名ノミヲ爲シ
署名スルコト能ハサルトキハ立會人ヲシテ代署セシメ捺
印ノミヲ爲シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ立會
人ヲシテ代署セシム可シ(同上法令ヲ以テ本條ヲ追加ス)

立會人ハ其代署ノ事由ヲ記載シテ署名シ又ハ署名捺印ス
項ヲ收ム)

第二十二條 官吏、公吏ノ作ル可キ書類ハ其所屬官署、公署ノ
印ヲ用ヒ年月日及ヒ場所ヲ記載シテ署名捺印シ毎葉ニ契
印ス可シ若シ官署、公署ノ印ヲ用井ルコト能ハサル場合
ニ於テハ其事由ヲ記載ス可シ此規定ニ背キタルトキハ其
書類ノ效ナカル可シ

第二十三條 官吏、公吏ニ非サル者ノ署名捺印ス可キ
場合ニ於テ捺印スルコト能ハサルトキハ署名ノミヲ爲シ
署名スルコト能ハサルトキハ立會人ヲシテ代署セシメ捺
印ノミヲ爲シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ立會
人ヲシテ代署セシム可シ(同上法令ヲ以テ本條ヲ追加ス)

立會人ハ其代署ノ事由ヲ記載シテ署名シ又ハ署名捺印ス
項ヲ收ム)

第二十四條 官吏、公吏ノ作ル可キ書類ハ其所屬官署、公署ノ
印ヲ用ヒ年月日及ヒ場所ヲ記載シテ署名捺印シ毎葉ニ契
印ス可シ若シ官署、公署ノ印ヲ用井ルコト能ハサル場合
ニ於テハ其事由ヲ記載ス可シ此規定ニ背キタルトキハ其
書類ノ效ナカル可シ

第二十五條 官吏、公吏ニ非サル者ノ署名捺印ス可キ
場合ニ於テ捺印スルコト能ハサルトキハ署名ノミヲ爲シ
署名スルコト能ハサルトキハ立會人ヲシテ代署セシメ捺
印ノミヲ爲シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ立會
人ヲシテ代署セシム可シ(同上法令ヲ以テ本條ヲ追加ス)

立會人ハ其代署ノ事由ヲ記載シテ署名シ又ハ署名捺印ス
項ヲ收ム)

可シ

官吏、公吏ノ面前ニ於テハ本人署名スルコト能ハサル場
合ト雖モ立會人ヲ要セス官吏公吏代署シテ其事由ヲ附記
ス可シ

第二十二條 此法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニモ亦之ヲ適用
ス

頒布以前ニ爲シタル訴訟手續當時ノ法律ニ背カサルトキ
ハ其效アリトス

第二十三條 此法律ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ處分ス可
キ者ニ適用スルコトヲ得ス

第二十四條 此法律ニ於テ親屬ト稱スルハ刑法第百十四條
第百十五條ノ規定ニ從フ

第二編 裁判所

第一章 裁判所ノ管轄

第二十五條 犯罪ノ種類ニ關スル裁判所ノ管轄ハ裁判所轄
成法ノ規定ニ從フ

管轄ヲ異ニスル數箇ノ犯罪ニ付キ同時ニ同一ノ被告人ニ
對シ訴アリタルトキハ上級ノ裁判所併セテ之ヲ管轄ス

第二十六條 同等ノ裁判所ニ於テハ犯罪ノ地又ハ被告人所
在ノ地ノ裁判所ヲ以テ豫審及ヒ公判ノ管轄ナリトス

第二十七條 數箇ノ裁判所ノ管轄ナル場合ニ於テハ其中ニ
テ最初豫審又ハ公判ニ著手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナ
リトス

第二十八條 從犯ハ正犯ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ其管轄ナ
リトス

數箇ノ裁判所ノ管轄ニ屬スル正犯數名アルトキハ其中ニ

テ最初豫審又ハ公判ニ著手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナ
リトス

裁判所構成法第五十條第二號ニ記載シタル皇族ノ犯罪ニ
付テハ其正犯、從犯ハ身分ノ如何ヲ問ハス大審院ニ於テ
管轄ス

第二十九條 外國ニ在テ犯シタル罪本邦ノ法律ニ依リ處斷
ス可キモノニシテ内地ニ於テ被告人ヲ逮捕シタルトキハ
逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス又外國ヨリ送致
シタルトキハ送致ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス
兩席判決ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ被告人最後ノ住所ノ地
ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

第三十條 海船内ノ犯罪ニ付テハ定繫港又ハ犯罪後最初ニ
著船シタル地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

第三十一條 管轄裁判所ノ指定ニ付キ申請ヲ爲ス場合及ヒ
其決定ヲ爲ス裁判所ハ裁判所構成法第十條ノ規定ニ從フ

第三十二條 管轄裁判所ノ指定ニ付テノ申請ハ檢察其他訴
訟關係人ヨリ之ヲ爲スコトヲ得

大審院ニ於テ管轄裁判所ヲ指定ス可キ場合ニ於テハ檢察
總長ハ司法大臣ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其申請ヲ爲ス
コトヲ得

第三十三條 管轄裁判所ノ指定ニ付キ申請ヲ爲サントスル
者ハ申請ニ付キ管轄權ヲ有スル裁判所ニ其趣意書ヲ差出
スヘシ

裁判所ハ書類ニ依リ其申請ヲ決定ス可シ
第三十四條 犯罪ノ性質、被告人ノ身分、員數、地方ノ民
心其他重大ナル事情ニ由リ裁判所ニ對シ紛擾又ハ危險ナ

生スル恐アルトキハ公安ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁
判所ニ移スコトヲ得

第三十五條 公安ノ爲メ裁判所管轄ヲ移ス申請ハ司法大臣
ノ命ニ因リ大審院檢察總長ヨリ其院ニ之ヲ爲ス可シ
大審院ニ於テハ訴訟關係人ノ申立テ聽クコトナク其申請
ヲ決定スヘシ

第三十六條 被告人ノ身分、地方ノ民心又ハ訴訟ノ模様ニ
因リ裁判ノ公平ヲ維持スルコト能ハサル恐アルトキハ嫌
疑ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スコトヲ得

第三十七條 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ハ管轄裁判所
ノ檢察其他訴訟關係人ヨリ上級裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ
得

民事原告人嫌疑アル裁判所ニ私訴ヲ爲シ又被告人其裁判
所ニ於テ異議ノ申立ナクシテ本案ニ付キ辯論ヲ爲シタル
トキハ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得ス

第三十八條 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ヲ爲スニハ其
趣意書ニ通テ原裁判所ニ差出ス可シ裁判書記ハ速ニ一通
ヲ相手方ニ送達シ相手方ハ其送達アリタルヨリ三日内ニ
答辯書ヲ差出スコトヲ得

裁判所ニ於テ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ其訴訟手續ヲ
停止スヘシ

第三十九條 前條ノ申請ニ付キ管轄權ヲ有スル裁判所ニ於
テハ書類ニ依リ其申請ヲ決定ス可シ

第二章 裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避、回避
第四十條 判事ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ依リ其職務ノ執行
ヨリ除斥セラレ可シ

第一 判事被害者ナルトキ

第二 判事又ハ其配偶者ト被告人、被害者又ハ是等ノ者
ノ配偶者ト親屬ナルトキ但婚姻ニ付テハ婚姻ノ解除シ
タルトキト雖モ亦同シ

第三 判事其事件ニ付キ證人、鑑定人ト爲リタルトキ又
ハ被告人若クハ被害者ノ法律上代理人ナルトキ

第四 判事其事件ノ豫審終結ニ干與シ又ハ不服ヲ申立テ
ラレタル裁判ノ前審ニ干與シタルトキ

第四十一條 判事法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタ
ル場合及ヒ偏頗ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足ル可キ情
況アル場合ニ於テハ檢察其他訴訟關係人ヨリ之ヲ忌避ス
ルコトヲ得

第四十二條 忌避ノ申請及ヒ其裁判ニ付テハ民事訴訟法第
三十四條乃至第三十八條ノ規定ニ從フ

第四十三條 忌避ノ申請アリタルトキハ公判ニ付テハ其辯
論ヲ中止ス可シ豫審ニ付テハ仍ホ其處分ヲ繼續ス可シ但
急速ヲ要セサル事件ニ付テハ豫審手續ヲ中止スルコトヲ
得

第四十四條 判事自ラ第四十條ニ定メタル理由アルコトヲ
認メ又ハ回避ス可キモノト思料シタルトキハ忌避申請ノ
管轄裁判所ニ回避ノ申立ヲ爲スコトヲ得

其裁判所ニ於テハ回避ノ申立テ裁判ス可シ

第四十五條 本章ノ規程ハ裁判所書記ニ之ヲ準用ス但
其裁判ハ書記所屬ノ裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

第三編 犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審
第一章 捜査

第四十六條 檢察ハ後ニ記載シタル告訴、告發、現行犯其他
ノ理由ニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料
シタルトキハ其證據及ヒ犯人ヲ捜査ス可シ

第四十七條 警視總監及ヒ地方長官ハ各其管轄地内ニ於テ
司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査スルニ付キ地方裁判所檢察
ト同一ノ權ヲ有ス但東京府知事ハ此限ニ在ラズ

左ニ記載シタル官吏ハ檢察ノ補佐トシテ其指揮ヲ受
ケ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査スヘシ

第一 警視總監、警部、警部補
第二 憲兵將校、下士
第三 島司
第四 郡長
第五 林務官
第六 市町村長

第四十八條 海船内ノ犯罪ニ付テハ船長ニ於テ司法警察ノ
職務ヲ行フ可シ

第四十九條 何人ニ限ラス犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ
犯罪ノ地若クハ被告人所在ノ地ノ檢察又ハ司法警察官ニ
告訴スルコトヲ得

司法警察官告訴ヲ受ケタルトキハ違警罪ニ付キ即決ヲ爲
ス場合ヲ除ク外速ニ其書類ヲ管轄裁判所ノ檢察ニ送致ス
可シ

第五十條 告訴人ハ成ル可ク其證據及ヒ事實參考ト爲ル可
キコトヲ申立ツ可シ

第五十一條 告訴ハ告訴人ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之

ヲ爲ス可シ

又告訴ハ口述ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得其告訴ニ受ケタル
官吏ハ調書ヲ作り告訴人ニ之ヲ讀聞カセ共ニ署名捺印ス
可シ若シ告訴人署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ
附記ス可シ

第五十二條 官吏、公吏其職務ヲ行フニ因リ犯罪アルコト
ヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ速カニ其職務
ヲ行フ地ノ檢察ニ告發ス可シ

第五十三條 何人ニ限ラス犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪
アリト思料シタルトキハ第五十條第五十一條ノ規定ニ從
ヒ其所在ノ地若クハ犯罪ノ地ノ檢察又ハ司法警察官ニ告
發スルコトヲ得

第五十四條 告訴、告發ハ代人ニ委任シテ之ヲ爲スコトナ
得但第五十二條ノ場合ハ此限ニ在ラス無能力者ノ告訴ハ
法律上代理人之ヲ爲スモ其效アリトス

第五十五條 告訴、告發ハ其取下ヲ爲シ又ハ其申立ヲ變更
スルコトヲ得此場合ト雖モ第十三條ノ規定ニ從ヒ被告人
ヨリ要償ノ訴ヲ受クルコトアル可シ

第二節 現行犯罪

第五十六條 現行犯罪トハ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル
際ニ發覺シタル罪ヲ謂フ

第五十七條 重罪、輕罪ニ付キ左ノ場合ハ現行犯ニ準ス

第一 犯人トシテ一人又ハ數人ニ追呼セラルルトキ

第二 兇器贓物其他ノ物件ヲ携帯シ又ハ身體、被服ニ顯
著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料ス可キトキ

第三 家宅内ニ於テ犯罪シタル……ヲ檢證スル爲メ又ハ其犯
人ト思料ス可キ者ヲ逮捕スル爲メ戶主ヨリ官吏ニ其處
分ヲ求メタルトキ

第五十八條 司法警察官及ヒ巡查、憲兵卒其職務ヲ行フニ
當リ重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ現行犯アルコト
ヲ知リタルトキハ令狀ヲ待タズシテ被告人ヲ逮捕ス可
シ

罰金ノ刑ニ該ル可キ輕罪又ハ違警罪ノ現行犯アルコトヲ
知リタルトキハ被告人ノ氏名、住所ヲ問ヒ輕罪ニ付テハ
檢察、違警罪ニ付テハ即決ヲ爲ス可キ官署ニ告發ス可シ
其氏名、住所分明ナラス又ハ逃亡ノ恐アル者ハ檢察若ク
ハ官署ニ引致スルコトヲ得

第五十九條 巡查、憲兵卒被告人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ
之ヲ司法警察官ニ引致ス可シ

第六十條 何人ニ限ラス重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪
ノ現行犯アル場合ニ於テハ直チニ被告人ヲ逮捕スルコト
ヲ得

第六十一條 前條ノ場合ニ於テ被告人ニ逮捕シタル者ハ之
ヲ司法警察官ニ引致ス可シ若シ引致スルコトヲ得サルト
キハ自己ノ氏名、職業、住所及ヒ其ノ逮捕ノ事由ヲ陳述シ
假ニ之ヲ巡查、憲兵卒ニ引渡スコトヲ得

被告人ヲ巡查、憲兵卒ニ引渡シタルトキハ速ニ告訴又ハ
告發ヲ爲ス可シ

被告人又ハ巡查、憲兵卒ハ逮捕ヲ爲シタル者ニ對シ共ニ
官署ニ至ルコトヲ求ムルヲ得但逮捕ヲ爲シタル者ハ正當
ノ事由アルニ非サレハ其求ヲ拒ムコトヲ得ス

第二章 起訴

第六十二條 地方裁判所檢察犯罪ノ搜查ヲ終リタルトキハ
左ノ手續ヲ爲ス可シ

第一 重罪ト思料シタル事件ニ付テハ豫審判事ニ豫審ヲ
求ム可シ

第二 輕罪ト思料シタル事件ニ付テハ其輕罪難易ニ從ヒ
豫審ヲ求メ又ハ直チニ其裁判所ニ訴ヲ爲ス可シ

第三 裁判所構成法第十六條第二號第三號ニ記載シタル
輕罪又ハ違警罪ト思料シタル事件ニ付テハ證據書類ニ
意見書ヲ添ヘ之ヲ區裁判所檢察ニ送致ス可シ

第六十三條 區裁判所檢察犯罪ノ搜查ヲ終リタル上裁判所
構成法第十六條第一號第二號ニ記載シタル事件ト思料シ
タルトキハ其裁判所ニ訴ヲ爲ス可シ

第六十四條 檢察ハ被告事件其裁判所ノ管轄ニ關セサルモ
ノト思料シタルトキハ之ヲ管轄裁判所ノ檢察ニ送致スヘ
シ

被告事件罪ト爲ラス又ハ公訴受理ス可カラサルモノト思
料シタルトキハ起訴ノ手續ヲ爲ス可カラズ

第六十五條 前數條ノ場合ニ於テ被告事件告訴ニ係ルトキ
ハ檢察ヨリ其處分ヲ被害者ニ通知ス可シ

第六十六條 檢察豫審ヲ求ムルトキハ證據及ヒ事實參考ト

爲ル可キ事物ヲ送致シ且臨檢ス可キ場所逮捕ス可キ人名
及ヒ證人ト爲ル可キ者ヲ指示ス可シ

第三章 豫審

第六十七條 現行ノ重罪、輕罪ヲ除ク外豫審判事ハ檢察ノ
請求アルニ非サレハ豫審ニ取掛ルコトヲ得ス此規定ニ背
キタルトキハ其請求ヨリ以前ニ係ル手續ノ效ナカル可シ

第六十八條 檢察ハ豫審中何時ニテモ豫審判事ニ請求シテ
訴訟記録ヲ檢閱スルコトヲ得但二十四時内ニ之ヲ還付ス
可シ

又必用ナリトスル處分ニ付キ臨時其請求ヲ爲スコトヲ得

第一節 令狀

第六十九條 豫審判事ハ檢察ノ起訴ニ因リ重罪、輕罪ノ事
件ヲ受理シタルトキハ被告人ニ對シ先ツ召喚狀ヲ發ス可
シ但召喚狀ノ送達ト被告人出頭トノ間少クとも二十四時
ノ餘豫アル可シ

第七十條 因リ出頭シタル被告人ハ即時ニ之ヲ訊問ス可シ
又遅クとも出頭ノ日ヲ過クルコトヲ得ス

第七十一條 豫審判事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其管轄地内
ニ住セサルトキハ訊問ス可キ條件ヲ明示シテ被告人所在
ノ地ノ豫審判事又ハ區裁判所判事ニ其處分ヲ囑託スルコ
トヲ得

第七十二條 豫審判事又ハ受託判事ハ左ノ場合ニ於テ直チ
ニ拘引狀ヲ發スルコトヲ得

第一 被告人定リタル住所アラサルトキ

第二 被告人罪證ニ湮滅シ又ハ逃亡スル恐アルトキ
第三 被告人未遂罪又ハ脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ遂ケ
ントスル恐アルトキ

第七十三條 拘引狀執行ノ命ヲ受ケタル者ハ其令狀ヲ發シ
タル判事ニ被告人ヲ引致ス可シ
拘引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時内ニ之ヲ訊問
ス可シ若シ其時間ヲ經過スルトキハ拘留狀ヲ發スルニ非
サレハ當然之ヲ釋放ス可シ

第七十四條 豫審判事又ハ受託判事ハ召喚狀又ハ拘引狀ヲ
受ケタル被告人疾病其他正當ノ事由アリテ令狀ニ應スル
能ハサルコトヲ証明シタルトキハ被告人ノ所在ニ就テ之
ヲ訊問スルコトヲ得

第七十五條 拘留狀ハ被告人ヲ訊問シタル後禁錮以上ノ刑
ニ該ル可キモノト思料スルニ非サレハ之ヲ發スルコトヲ
得ス但被告人逃亡シタル場合ニ於テハ其訊問ヲ爲サス
テ之ヲ發スルコトヲ得

第七十六條 總テ令狀ニハ被告事件及ヒ被告人ノ氏名、職
業、住所ヲ記載ス可シ但召喚狀ヲ除ク外其氏名分明ナラ
サルトキハ容貌、體格等ヲ明示ス可シ
又令狀ニハ之ヲ發スル年月日時ヲ記載シ判事及ヒ裁判所
書記署名捺印ス可シ

第七十七條 憲兵卒ヲシテ被告人ニ送達セシメ拘引狀、拘留
狀ハ巡查、憲兵卒ヲシテ之ヲ執行セシム

第七十七條 拘留狀ハ時宜ニ因リ正本數通ヲ作り
巡查、憲兵卒數人ニ分與ルコトアル可シ
拘留狀、拘留狀ヲ執行スルニハ其正本ヲ携帶シ被告人ノ

請求アルトキハ之ヲ示ス可シ (明治三十二年三月法律第
七十三號ヲ以テ本項ヲ改ム)

拘引狀、拘留狀ヲ執行シタルトキハ其正本ニ執行ノ場所
及ヒ日時ヲ記載シ若シ執行スルコト能ハサルトキハ其ノ
事由ヲ記載シテ署名捺印ス可シ (同上法令ヲ以テ本項及
次項ヲ追加ス)

巡查、憲兵卒ハ令狀ニ關スル檢事ニ差出ス可シ

第七十八條 令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡查、憲兵卒ハ被告
人其家宅若クハ他人ノ家宅ニ潛匿シタルトキ思料シタルト
キハ其地ノ市町村長其差支アルトキ隣佑二名以上ノ立會
ヲ求メ之ヲ搜索ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ被告人ヲ發見シタルト否トニ拘ハラ
ス搜索調書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印ス可シ

家宅搜索ハ日出前日没後之ヲ爲スコトヲ得ス但旅店、割
烹其他夜間ト雖モ衆人ノ出入スル場所ニ付テハ其公開時
間内ニ限り何時ニテモ搜索ヲ爲スコトヲ得

第七十九條 豫審判事ハ被告人他ノ管轄地内ニ潛匿シタル
コトヲ知り又ハ潛匿シタルトキ思料スル場合ニ於テ被告事
件急速ヲ要スルトキハ巡查、憲兵卒ニ令狀ヲ帶行セシム
ルコトヲ得

巡查、憲兵卒ハ被告人所在ノ地ノ豫審判事檢事又ハ司法
警察官ニ令狀ヲ示シテ即時ニ執行ヲ求ム可シ

第八十條 豫審判事ハ被告人所在ノ地ヲ覺知スルコト能ハ
サルトキハ各檢事長ニ被告人ノ人相書ヲ送致シ搜查及ヒ
逮捕ヲ爲スコトヲ請求スルコトヲ得
請求ヲ受ケタル檢事長ハ其管轄地内ノ檢事ヲシテ搜索及

第八十七條 (同上法令ヲ以テ本條ヲ削ル)

第八十七條 (同上)

第八十九條 (同上)

第三節 證據

第九十條 被告人ノ自白、官吏ノ檢證調書、證據物件、證
人及ヒ鑑定人ノ供述其他諸般ノ證據ハ判事ノ判斷ニ任ス
第九十一條 豫審判事ハ檢事若クハ被告人ノ請求ニ因リ又
ハ職權ヲ以テ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル證據徴憑ヲ
集取ス可シ

第九十二條 豫審判事臨檢、搜索、物件差押又ハ被告人、
證人ノ訊問ヲ爲スニハ裁判所書記ノ立會ヲ必要トス書記
ハ調書ヲ作り豫審判事ト共ニ署名捺印ス可シ

裁判所外ニ於テ急速ノ際書記ノ立會ヲ得ルコト能ハサル
トキハ立會人二名アルヲ要ス但監獄署ニ就テ被告人ヲ訊
問スルトキハ其監獄署ノ官吏一名ヲシテ立會ハシム可
シ

前項ノ場合ニ於テハ豫審判事自ら調書ヲ作り之ヲ讀聞カ
セ立會人ト共ニ署名捺印ス可シ

第四節 被告人ノ訊問及ヒ對質

第九十三條 豫審判事ハ先ツ被告人ヲ訊問ス可シ但檢證ヲ
爲シ又ハ證人ヲ訊問スルニ付キ急速ヲ要スルトキハ此限
ニ在ラス

第九十四條 豫審判事ハ被告人ヲシテ其罪ヲ自白セシムル
爲メ恐嚇又ハ詐言ヲ用ユ可カテス

第九十五條 裁判所書記ハ訊問及ヒ供述ヲ錄取シ被告人ニ

七 逮捕ノ處分ヲ爲サシム可シ此場合ニ於テ檢事ノ發シタ
ル逮捕狀ハ拘留狀ト同一ノ效ヲ有ス

第八十一條 豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル下士以下ノ軍人軍
屬ニ對シ令狀ヲ發シタルトキハ其所屬ノ長官又ハ隊長ニ
令狀ヲ示ス可シ其長官又ハ隊長ニ已ムコトヲ得サレ差支
アルニ非サレハ本人ヲシテ速ニ令狀ニ應セシム可シ

第八十二條 拘留狀ヲ受ケタル被告人ハ速ニ其令狀ニ記載
シタル監獄署ニ引致ス可シ若シ其監獄署ニ引致スルコト
能ハサルトキハ假ニ最近ノ監獄署ニ引致スルコトヲ得
何レノ場合ニ於テモ監獄署長ハ令狀ヲ檢閱シテ被告人ヲ
受取り其證書ヲ渡ス可シ

第八十三條 (同上法令ヲ以テ本條ヲ削ル)

第八十四條 在監中ノ被告人ニ對シ發シタル拘留狀ハ司獄
官吏ヲシテ之ヲ執行セシム (同上法令ヲ以テ本條改正)

拘留狀執行ニ關シテハ第七十七條ノ規定ヲ適用ス
第八十五條 拘留ヲ受ケタル被告人ハ官吏ノ立會ニ依リ他
人ト接見スルコトヲ得 (同上)

書類ハ豫審判事又ハ檢事ノ檢閱ヲ經タル後他人ト之ヲ授
受スルコトヲ得

豫審判事ハ必要ナリト思料シタルトキハ被告人ノ監房ヲ
別異シ、他人トノ接見、書類物件ノ授受ヲ禁シ又ハ其書
類物件ヲ差押アルコトヲ得

第八十六條 豫審判事ハ被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ
モノニ非スト思料シタルトキハ豫審中何時ニテモ拘留狀
ヲ取消ス可シ

第二節 密室監禁

之ヲ讀聞カス可シ

豫審判事ハ被告人ニ其供述ノ相違ナキヤ否ヲ問ヒ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

第九十六條 被告人其供述ニ付キ變更増減ス可キコトヲ申立タルトキハ更ニ訊問ヲ爲シ其訊問及ヒ供述ヲ録取シ之ヲ讀聞カス可シ

第九十七條 被告人ハ供述書ノ謄本ヲ求ムルコトヲ得

第九十八條 豫審判事ハ被告人ノ共犯ナルコト、人選ナキコト其他事實ヲ發見ス可キ一切ノ模倣ヲ證スル爲メ必要ナリトスルトキハ被告人ト他ノ被告人、證人又ハ其他ノ者ト對質セシムルコトヲ得

第九十九條 書記ハ對質人ノ供述及ヒ對質ニ因リ生スル一切ノ事件ヲ録取シ對質人ニ其對質ニ關スル部分ヲ讀聞カス可シ

第九十五條 第九十六條ノ規定ハ對質ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第一百條 被告人又ハ對質人豫ナルトキハ書面ヲ以テ問ヒ啞ナルトキハ書面ヲ以テ答ヘシム若シ啞者、啞者文字ヲ知ラサルトキハ通事ヲ命ズ可シ

被告人又ハ對質人國語ニ通セサルトキ亦同シ

第一百一條 通事ハ正實ニ通譯ス可キ宣誓ヲ爲ス可シ
書記ハ通事ニ調書ヲ讀聞カス之ニ署名捺印セシム可シ
第一百三十六條 第三十七條 第四百四十一條ノ規定ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス

第五節 檢證、搜索及ヒ物件差押

第一百二條 豫審判事ハ事實發見ノ爲メ必爲ナリトスルトキハ犯所又ハ其他ノ場所ニ臨ミ檢證ヲ爲ス可シ

第一百三條 豫審判事ハ犯罪ノ性質、方法、日時、場所及ヒ被告人ノ人選ナキコトヲ證明ス可キ模倣ニ付キ調書ヲ作ル可シ

又被告人ノ利益ト爲ル可キ模倣ヲモ記載ス可シ

第一百四條 豫審判事ハ被告人ノ住居又ハ事實ヲ證明ス可キ物件ヲ藏匿スル疑アル者ノ住居ニ臨檢シ搜索ヲ爲スコトヲ得

被告人又ハ物件ヲ藏匿スル者其住居ニ在ラサルトキハ同居ノ親屬若シ其在ラサルトキハ市村長ノ立會アルヲ要ス

第七十八條 第三項ノ規定ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス

第一百五條 豫審判事ハ被告人又ハ事實ヲ證明ス可キ物件ヲ藏匿スル疑アル者ノ身體及ヒ之ニ關スル物件ニ就キ搜索ヲ爲スコトヲ得

第一百六條 豫審判事ハ臨檢、搜索、因リ發見シタル物件其實ヲ證明スルニ足ル可シト思料シタルトキハ之ヲ差押ヘテ認印ヲ爲シ目錄ヲ作ル可シ但其物件ヲ監護シ又ハ遞送スルハ裁判所書記之ヲ擔任ス可シ

第一百七條 豫審判事ハ臨檢、搜索、物件差押ニ付キ其日ニ處分ヲ終ラサルトキハ場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クコトヲ得

第一百八條 被告人ハ臨檢搜索、物件差押ノ處分ニ立會ヒ又ハ代人ヲ立會ハシムルコトヲ得
若シ被告人拘留ヲ受ケタルトキハ自ラ立會フコトヲ得

但豫審判事本人ノ立會ヲ必要ナリトスルトキハ此限ニ在ラス

第九十九條 豫審判事ハ被告人物件差押ノ處分ニ立會ヒタルト否トヲ問ハス其物件ヲ被告人ニ示シ辯解ヲ爲サシム可シ

其訊問及ヒ供述ハ之ヲ調書ニ記載ス可シ

第一百十條 豫審判事ハ臨檢、搜索ノ場所ニ於テ證人ノ供述ヲ聽クコトヲ必要ナリトスルトキハ第一百十五條以下ノ規定ニ從ヒ之ヲ訊問ス可シ

第一百十一條 豫審判事ハ前數條ニ記載シタル處分中何人ニ限ラス允許ヲ得シテ其場所ニ出入スルコトヲ禁スルヲ得

若シ其禁ヲ犯ス者アルトキハ之ヲ逐斥シ又ハ處分ヲ終ルマテ之ヲ留置スルコトヲ得

第一百十二條 豫審判事ハ其管轄地内ト雖モ時宜ニ因リ臨檢搜索、物件差押ノ事ヲ區裁判所判事ニ囑託スルコトヲ得

第一百十三條 豫審判事ハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスルトキハ驛遞、電信、鐵道ノ官署、諸會社ニ其事由ヲ通知シ被告人又ハ豫審事件ニ關係アル者ヨリ發シ若クハ此等ノ者ニ託シ發シタル書類、電報又ハ物件ヲ受取開披スルコトヲ得但受取證書ヲ渡スコトヲ得

第一百十四條 證書ヲ拒ムコトヲ得ル者ノ所持スル物件ニシテ其秘密ス可キ義務アル事情ニ關スルモノハ其承諾アルニ非サレハ之ヲ差押及ヒ開披スルコトヲ得

第六節 證人訊問

第一百五條 證人ノ呼出狀ニハ其氏名、住所及ヒ職業ヲ記

載ス可シ

又出頭ノ日時、場所及ヒ呼出ニ應セサルトキハ罰金ヲ言渡シ且拘引スルコトアル可キ旨ヲ記載ス可シ

呼出狀ノ送達ト出頭トノ間少クモ二十四時ノ猶豫アル可シ

第一百十六條 證人疾病其他正當ノ事故ニ因リ呼出ニ應スル能ハサルコトヲ疏明シタルトキハ豫審判事其所在ニ就テ之ヲ訊問ス可シ

第一百七條 證人ト爲ル可キ者豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ナルトキハ其所屬ノ長官又ハ隊長ヲ經由シテ呼出狀ヲ送達ス其長官又ハ隊長ハ即時ニ出頭セシム可キコトヲ認可シ又ハ職務上已ムコトヲ得サル差支アルトキハ其事由ヲ付シテ出頭ノ延期ヲ豫審判事ニ請求ス可シ

第一百十八條 豫審判事ハ前二條ニ定メタル差支ノ場合ヲ除ク外證人呼出ニ應セサルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ其不參ニ因リ生シタル費用ノ賠償及ヒ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ言渡ス可シ但其決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス

豫審判事ハ其證人ニ對シ罰金ノ言渡書ト共ニ再度ノ呼出狀ヲ送達シ又ハ直チニ拘引狀ヲ發スルコトヲ得

若シ證人再度ノ呼出ニ應セサルトキハ費用賠償ノ外二倍ノ罰金ヲ言渡ス可シ又拘引狀ヲ發スルコトヲ得

豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對スル罰金ノ言渡及ヒ執行ハ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑託シテ之ヲ爲スコトヲ得其拘引ニ付テモ亦同シ

第百十九條 豫審判事ハ證人罰金言渡ノ送達アリタルヨリ三日内ニ其出頭セザリシコトヲ正當ノ理由ヲ以テ辯解シタルトキハ檢察ノ意見ヲ聽キ其罰金及ヒ賠償ノ決定ヲ取消ス可シ

第百二十條 證人呼出狀ニ因リ出頭シタルトキハ其呼出狀ヲ差出ス可シ若シ之ヲ遺失シタルトキハ其人違ナキコトヲ説明ス可シ

第百二十一條 豫審判事ハ證人トシテ呼出シタル者ニ對シ其姓名、年齢、職業、住所及ヒ第百二十三條ニ記載シタル者ナリヤ否ヤヲ問フ可シ

第百二十二條 豫審判事ハ證人ヲシテ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ黙秘セス又何事ヲモ附加セザル旨ヲ宣誓セシム可シ

裁判所書記ハ證人ニ宣誓書ヲ讀聞カセ之ニ署名捺印セシム若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

第百二十三條 左ニ記載シタル者ハ證人ト爲ルコトヲ許サズ但宣誓ヲ爲サシメシテ事實參考ノ爲メ其供述ヲ聽クコトヲ得

第一 民事原告人
第二 民事原告人及ヒ被告人ノ親屬但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シ

第三 民事原告人及ヒ被告人ノ後見人又ハ此等ノ者ノ後見ヲ受クル者
第四 民事原告人及ヒ被告人ノ雇人又ハ同居人

第百二十四條 左ニ記載シタル者亦前條ニ同シ

第一 十六歳未満ノ幼者
第二 知覺精神ノ不十分ナル者
第三 瘖啞者

第四 公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者
第五 重罪事件又ハ重禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪事件ニ付キ公判ニ付セラレタル者

第六 現ニ供述ヲ爲ス可キ事件ニ付キ曾テ訴テ受ケ其證憑十分ナラサルニ因リ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者

第百二十五條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ證書ヲ拒ムコトヲ得

第一 官吏、公吏又ハ官吏、公吏タリシ者其職務上黙秘ス可キ義務アル事情ニ關スルトキ
第二 醫師、藥商、總湊、辯護士、辯護人、公證人、神職、僧侶、其身分、職業ノ爲メ委託ヲ受ケタルニ因テ知リタル事實ニシテ黙秘ス可キモノニ關スルトキ

證書ヲ拒ム者ハ拒絕ノ原因タル事實ヲ開示シ且之ヲ説明ス可シ

第百二十六條 證人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ供述ヲ肯セサルトキハ豫審判事檢察ノ意見ヲ聽キ刑法第百八十條ニ從ヒ罰金ヲ言渡ス可シ但其決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス

豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對スル罰金ノ言渡及ヒ執行ハ軍事裁判ニ囑託シテ之ヲ爲ス可シ

第百二十七條 證人ハ他ノ證人及ヒ被告人ト各別ニ之ヲ訊問ス可シ但事實發見ノ爲メ必要ナリトスルトキハ證人ト他ノ證人又ハ被告人ト對質セシムルコトヲ得

第百二十八條 豫審判事ハ證人ノ供述ヲ確實ナラシムル爲メ必要ナリトスルトキハ犯所又ハ其他ノ場所ニ同行スルコトヲ得

若シ證人同行スルコトヲ肯セザルトキハ第百十八條ノ規定ニ從フ

第百二十九條 第百條第百一條ノ規定ハ證人ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第百三十條 皇族證人トナルトキハ豫審判事其所在ニ就キ訊問ヲ爲ス可シ

各大臣ニ付テハ其官廳ノ所在地ニ於テ之ヲ訊問ス若シ其所在地外ニ滞在スルトキハ其現在地ニ於テ之ヲ訊問ス可シ

帝國議會ノ議員ニ付テハ開會期間其議會ノ所在地ニ滞在中ハ其所在地ニ於テ之ヲ訊問ス可シ

第百三十一條 豫審判事ハ證人ニ其供述ノ相違ナキヤ否ヤヲ知ラシムル爲メ裁判所書記ヲシテ調書ヲ讀聞カセシム可シ

證人ハ其供述ヲ變更増減センコトヲ請求ヘルヲ得書記ハ其請求アリタルコト及ヒ變更増減ノ條件ヲ調書ニ記載ス可シ

調書ニハ豫審判事、書記及ヒ證人共ニ署名捺印ス可シ若シ證人署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

第七節 鑑定

第百三十二條 豫審判事ハ證人裁判所所在ノ地ニ住セザルトキハ其住居ノ地ノ區裁判所判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルコトヲ得

若シ證人管轄地外ニ在ルトキハ其所在ノ地ノ豫審判事又ハ區裁判所判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルコトヲ得

第百三十三條 第百十八條第百十九條及ヒ第百二十六條ニ掲ケタル證人ニ對スル豫審判事ノ權ハ受託判事ニモ屬ス

第百三十四條 證人ハ出頭ニ付テノ旅費、日當ヲ要ムルコトヲ得

第百三十五條 豫審判事ハ犯罪ノ性質、方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定ヲ必要ナリトスルトキハ學術、職業ニ因リ鑑定スルコトヲ得ヘキ者一名又ハ數名ヲシテ鑑定ヲ爲サシム可シ

鑑定ノ爲メ必要ナリトスルトキハ死體ノ解剖ヲ命シ又既ニ埋葬シタル死體ヲ解剖シ若クハ檢視スル爲メ墳墓ノ發掘ヲ命スルコトヲ得

第百三十六條 鑑定ニ付テハ第百十五條第百十八條乃至第百二十一條第百二十三條乃至第百二十五條及ヒ第百二十八條ノ規定ヲ準用ス但鑑定人ニ對シテハ拘引狀ヲ發スルコトヲ得ス

第百三十七條 鑑定人ハ公平且正實ニ鑑定ス可キ宣誓ヲ爲シ明治三十二年三月法律第七十三號ヲ以テ本項ヲ追加ス

ス可シ其宣誓ハ第二百二十二條ノ式ニ從フ
第三百二十八條 鑑定人宣誓ヲ肯セヌ又ハ宣誓シテ鑑定ナ
肯セサルトキハ豫審判事檢察ノ意見ヲ聽キ刑法第七十
九條ニ從ヒ罰金ヲ言渡ス可シ但其決定ニ對シテハ抗告ヲ
爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス

第三百二十九條 豫審判事ハ鑑定人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ
以テ鑑定人ヲ増加シ又ハ別人ヲシテ鑑定セシムルコトヲ
得

第四百十條 鑑定人ハ鑑定書ヲ作り其手續、結果及ヒ鑑定
ヲ爲シタル時間ヲ詳記ス可シ

若シ結果ヲ得サルトキハ其推測スル所ヲ記載ス可シ
鑑定人意見ヲ異ニスルトキハ各自鑑定書ヲ作り又ハ各自
ノ意見ヲ一箇ノ鑑定書ニ記載ス可シ

第四百十一條 鑑定人ハ旅費、日當及ヒ立替金ノ辨濟ヲ要
スルコトヲ得

第八節 現行犯ノ豫審

第四百十二條 豫審判事ハ檢察ヨリ先ニ重罪又ハ地方裁判
所ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯アルコトヲ知りタル場合
ニ於テ其事件急遽ヲ要スルトキハ檢察ノ請求ヲ待タズ直
チニ其ノ旨ヲ通知シ豫審ニ取掛ルコトヲ得

豫審判事ハ犯所ニ臨檢シ令狀ヲ發シ其他此章ノ規定ニ從
ヒ豫審ノ處分ヲ爲スコトヲ得

豫審判事ハ速ニ書類ヲ檢事ニ送致ス可シ但檢事ヨリ其豫
審手續ヲ繼續ス可キモノニ非サル意見アリト雖モ通常ノ
規定ニ從ヒ之ヲ終結ス可シ

第四百十四條 地方裁判所檢察及ヒ區裁判所檢察ハ豫審判
事ヨリ先ニ重罪又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現
行犯アルコトヲ知りタル場合ニ於テ其事件急遽ヲ要スル
トキハ豫審判事ヲ待ツコトヲナク其旨ヲ通知シテ犯所ニ臨
檢シ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得但罰金及ヒ費
用賠償ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス

第四百十五條 前條ノ場合ニ於テ地方裁判所檢察ハ證據書
類ニ意見書ヲ添ヘ速ニ之ヲ豫審判事ニ送致シ區裁判所檢
事ハ之ヲ地方裁判所檢察ニ送致ス可シ

第四百十六條 區裁判所檢察其裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪
ノ現行犯アルコトヲ知りタル場合ニ於テ其事件急遽ヲ要
スルトキハ第四百十四條ニ規定シタル處分ヲ爲スコトヲ
得

若シ被告人ニ對シ拘留狀ヲ發シタルトキハ三日内ニ起訴
ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第四百十七條 第四百十四條第四百十六條ニ於テ檢事ニ許
シタル職務ハ司法警察官モ亦假ニ之ヲ行フコトヲ得但拘
留狀ヲ發スルコトヲ得ス

第四百十八條 地方裁判所檢察ハ區裁判所檢察又ハ司法警
察官ヨリ事件ノ送致ヲ受ケタルトキハ一切ノ書類ニ請求
書ヲ添ヘ豫審判事ニ送致ス可シ

若シ同時ニ被告人ヲ受取りタルトキハ二十四時内ニ之ヲ
訊問シ拘留狀ヲ發シ又ハ發セシメテ前項ノ手續ヲ爲スコ
トヲ得

第四百十九條 地方裁判所檢察ハ何レノ場合ニ於テモ輕罪
ノ現行犯ニ係リ豫審ヲ求ムルニ及ハスト思料シタルトキ
ハ拘留狀ヲ發シタルトキハ拘ハラス直チニ其裁判所ニ
訴テ爲スコトヲ得

被告事件罪ト爲ラス人ハ公訴受理ス可カラサルモノト思
料シタルトキハ起訴ノ手續ヲ爲スコカラス

第九節 保釋

第四百十條 豫審判事ハ豫審申拘留狀ヲ受ケタル被告人ノ
請求ニ因リ檢事ノ意見ヲ聽キ何時ニテモ呼出ニ應ジ出頭
ス可キ證據書ヲ差出シ且保證ヲ立テシメ保釋ヲ許スコトヲ
得

被告人無能力ナルトキハ法律上代理人ヨリ保釋ヲ求ムル
コトヲ得

第四百十一條 保證ノ金額ハ豫審判事之ヲ定メ保釋ヲ許ス
言渡書ニ記載ス可シ

第四百十二條 保證ヲ爲スニハ被告人又ハ法律上代理人ヨ
リ金錢若クハ有價證券ヲ差出スコトヲ得

其裁判所ノ管轄地内ニ住シ且十分ナル資力アル者ヨリ金
額ニ充ツ可キ保證書ヲ差出スコトヲ得

第四百十三條 保釋人被告人ヲ呼出ストキハ出頭ヨリ二十

四時前ニ其報告ヲ爲スコトヲ得

第四百十四條 保釋中被告人呼出ヲ受ケ正當ノ事由ナクシ
テ出頭セサルトキハ保證金ノ全部又ハ一分ヲ徵收ス可シ

第四百十五條 保證金ヲ沒收スルニハ檢察ノ意見ヲ聽キ豫
審判事其言渡ヲ爲スコトヲ得

第四百十六條 豫審判事保證金ヲ沒收シタルトキハ保釋ノ
言渡ヲ取消ス可シ

又豫審中保釋ノ言渡ヲ取消スコトヲ必要ナリトスル時ハ
檢察ノ意見ヲ聽キ其言渡ヲ取消スコトヲ得

第四百十七條 豫審判事保證金ヲ沒收シタル後免訴ノ言渡
違背罪又ハ罰金ニ該ル可キ輕罪ニ付キ公判ニ付スル言渡
ヲ爲シタルトキハ檢察ノ意見ヲ聽キ前ニ沒收シタル金額
ヲ還付スコトヲ得

第四百十八條 豫審判事免訴ノ言渡、違背罪又ハ罰金ニ該
ル可キ輕罪ニ付キ公判ニ付スル言渡ヲ爲シ若クハ保釋ノ
言渡ヲ取消シタルトキハ保證金ヲ付スコトヲ得

第四百十九條 保釋ヲ許サル言渡ニ對シテハ其裁判
所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ檢察ノ意見ヲ聽キ其許否ヲ決定ス可シ(明治三
十二年三月法律第七十三號ヲ以テ本條ヲ追加ス)

第四百十九條 豫審判事ハ保釋ノ請求アルトキ否トナ問ハス
檢事ノ意見ヲ聽キ被告人ヲ其親屬又ハ故舊ニ責付スルコ
トヲ得

責付ヲ爲スニハ親屬又ハ故舊ヨリ何時ニテモ呼出ニ應ジ
被告人ヲ出頭セシム可キ證據書ヲ差出サシムヘシ

第四百二十條 責付中被告人ヲ呼出ストキハ出頭ヨリ二十四

時前ニ其報知ヲ爲ス可シ
被告人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ檢事ノ意見
ヲ聽キ貴付ノ言渡ヲ取消ス可シ

第十節 豫審終結

第六百六十一條 豫審判事ハ被告事件其管轄ニ非ストシ又ハ
他ニ取調ヲ要スルコトナシト思料シタルトキハ豫審終結
ノ處分ニ付キ檢事ノ意見ヲ求ムル爲メ訴訟記録ヲ送致ス
可シ

第六百六十二條 檢事ハ豫審十分ナラスト思料シタルトキハ
其條件ニ付キ更ニ取調ヲ請求スルコトヲ得若シ豫審判事
其請求ヲ肯セサルトキハ檢事ハ訴訟記録ニ意見ヲ付シ二
十四時内ニ之ヲ還付ス可シ

第六百六十三條 豫審判事ハ檢事ノ意見如何ナルヲ問ハス後
數條ニ記載シタル決定ヲ以テ豫審ヲ終結ス可シ
第六百六十四條 豫審判事ハ被告事件其管轄ニ非サルコトヲ
認メタルトキハ其旨ヲ言渡ス可シ若シ拘留ヲ要スルモノ
ト認メタルトキハ前ニ發シタル令狀ヲ存シ又ハ新ニ令狀
ヲ發シ其事件ヲ檢事ニ交付ス可シ

第六百六十五條 豫審判事ハ左ノ場合ニ於テ免訴ノ言渡ヲ爲
シ且被告人拘留ヲ受ケタルトキハ放免ノ言渡ヲ爲ス可シ
第一 犯罪ノ證據十分ナラサルトキ
第二 被告事件罪ト爲ラサルトキ
第三 公訴ノ時効ニ罹リタルトキ
第四 確定判決ヲ經タルトキ
第五 大赦アリタルトキ

第六 法律ニ於テ其罪ヲ全免スルトキ
第六百六十六條 被告事件違警罪ナリト思料シタルトキハ區
裁判所ニ移ス言渡ヲ爲シ且被告人拘留ヲ受ケタルトキハ
釋放ノ言渡ヲ爲ス可シ

第六百六十七條 被告事件裁判所構成法第十六條第二號ニ記
載シタル輕罪ナリト思料シタルトキハ區裁判所ニ移ス言
渡ヲ爲シ其他ノ輕罪ナリト思料シタルトキハ其裁判所ノ
輕罪公判ニ付スル言渡ヲ爲ス可シ

被告人拘留ヲ受ケタル場合ニ於テ罰金ノ刑ニ該ルモノト
思料シタルトキハ釋放ノ言渡ヲ爲ス可シ
禁錮ノ刑ニ該ル可キモノト思料シタルトキハ保釋ヲ許シ
又ハ貴付ヲ爲スコトヲ得若シ被告人未ダ拘留ヲ受ケサル
トキハ令狀ヲ發スルコトヲ得

第六百六十八條 被告事件重罪ナリト思料シタルトキハ其裁
判所ノ重罪公判ニ付スル言渡ヲ爲ス可シ若シ保釋ヲ許シ
又ハ貴付ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ取消シ被告人未ダ拘
留ヲ受ケサルトキハ令狀ヲ發ス可シ

第六百六十九條 豫審終結ノ決定ニハ事實及ヒ法律ニ依リ其
理由ヲ付ス可シ
管轄違ノ言渡ヲ爲スニハ其理由ヲ明示シ若シ被告人ヲ拘
留ス可キトキハ其理由ヲ明示ス可シ
免訴ノ言渡ヲ爲スニハ被告事件罪ト爲ラサルコト公訴受
理ス可カラサルコト及ヒ其理由又犯罪ノ證據十分ナラサ
ルトキハ其旨ヲ明示ス可シ

區裁判所ニ移ス言渡又ハ公判ニ付スル言渡ヲ爲スニハ犯
罪ノ性質、模樣、證據ノ十分ナルコト及ヒ其罪ヲ罰ス可
キ法律ノ正條ヲ明示ス可シ

第七十條 前條ノ決定ニハ第七十六條ノ規定ニ從ヒ被告
人ノ氏名等ヲ明示ス可シ

第七十一條 豫審終結ノ決定ノ正本ハ速ニ檢事及ヒ被告
人ニ送達ス可シ

第七十二條 檢事ハ重罪公判ニ付スル決定又ハ免訴若ク
ハ管轄違ノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得
被告人ハ重罪公判ニ付スル決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ
得

第七十三條 重罪公判ニ付スル場合ニ於テ被告人ニ送達
ス可キ決定ニハ其決定ニ對シ抗告ヲ爲スヲ得ヘキコト及
ヒ其期間ヲ記載ス可シ其記載ナキトキハ更ニ通常ノ規定
ニ從ヒ決定ノ送達アルマテ抗告期間ノ經過ヲ停止ス

第七十四條 豫審終結ノ決定ハ抗告ノ期間又抗告アリタ
ルトキハ其決定アルマテ執行ヲ停止ス但保釋貴付ノ言渡
ヲ取消ス決定ハ其執行ヲ停止セズ

第七十五條 豫審ニ於テ被告人免訴ノ言渡ヲ受ケ其決定
確定シタルトキハ罪名ノ變更アルモ同一ノ事件ニ付キ再
ヒ訴ヲ受クルコトナカレ可シ但新ナル證據アルトキハ此
限ニ在ラス

新ナル證據ノルトキハ檢事ヨリ之ヲ其裁判所ニ差出シ裁
判所ニ於テハ其起訴ヲ許ス可キヤ否ヤ決定ス可シ

第四編 公判

第一章 通則

第七十六條 公判ハ判事、檢事、裁判所書記出廷シテ之
ヲ爲スモノトス

第七十七條 被告人ハ公廷ニ於テ身體ノ拘束ヲ受クルコ
トナシ但守卒ヲ置クコトアル可シ

第七十八條 裁判長ハ何時ニテモ禁錮以上ノ刑ニ該ル可
キ被告人ニ對シ勾引狀ヲ發スルコトヲ得(明治三十二年
三月法律第七十八號ヲ以テ本條ヲ改ム)

裁判所ハ被告人ヲ訊問シタル後何時ニテモ禁錮以上ノ刑
ニ該ル可キ被告人ニ對シ拘留狀ヲ發スルコトヲ得
第七十九條 被告人ハ辯論ノ爲メ辯護人ヲ用ユルコトヲ
得

辯護人ハ裁判所所屬ノ辯護士中ヨリ之ヲ選任ス可シ但裁
判所ノ允許ヲ得タルトキハ辯護士ニ非サル者ト雖モ辯護
人ト爲スコトヲ得

第七十九條ノ二 左ノ場合ニ於テ被告人自ラ辯護人ヲ選
任セサルトキハ裁判所ハ檢事ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以
テ辯護人ヲ付スルコトヲ得
(同上法令ヲ以テ本條ヲ追加ス)

第一 被告人十五歳未滿ナルトキ
第二 被告人婦女ナルトキ
第三 被告人弱者又ハ啞者ナルトキ
第四 被告人精神病ニ罹リ又ハ意識不十分ナルノ疑アル
トキ

第五 被告事件ノ模様ニ因リ裁判所ニ於テ辯護人ヲ必要
ナリトスルトキ

前項ノ辯護人ハ裁判長ノ職權ヲ以テ其裁判所所屬ノ辯護
士中ヨリ選任ス可シ但辯護士一名ヲシテ被告人數名ノ辯
護ヲ爲サシムルコトヲ得
第八十條 辯護人ハ裁判所ニ於テ訴訟記録ヲ閱讀シ且之

ヲ抄寫スルコトヲ

第百八十一條 被告人ノ法律上代理人ハ其補佐人ト爲リ辯論ニ與カレコトヲ得

第百八十二條 被告人出頭シテ辯論スルコトヲ肯セザルトキハ對席トシテ裁判ヲ爲ス可シ

被告人審問ヲ妨ケ又ハ不當ノ行狀ヲ爲シ裁判長ヨリ退廷又ハ拘留ヲ命ゼラレタルトキ亦同シ若シ辯論ニ日ニ涉ルトキハ更ニ被告人ヲ出頭セシム可シ

第百八十三條 被告人精神錯亂又ハ疾病ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキハ痊癒ニ至ルマテ辯論ヲ停止ス但罰金以下ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付キ被告人代人ヲ差出シタルトキハ此限ニ在ラス

辯論ニ取掛リタル後被告人精神錯亂シタルトキハ其痊癒ノ後新ニ辯論ヲ爲ス可シ其他ノ疾病ニ罹ルトキハ痊癒ノ後新ニ停止シタルヨリ以後ノ手續ヲ爲ス可シ但五日間辯論ヲ停止シ又ハ檢察其他訴訟關係人ノ請求アリタルトキハ新ニ辯論ヲ爲ス可シ

若シ被告事件及ヒ法律ノ適用ニ付キ既ニ辯論ヲ終リタルトキハ其痊癒ノ後更ニ取調ヲ爲スコトナク裁判ヲ爲ス可シ

第百八十四條 裁判所ニ於テハ訴ヲ受ケザル事件ニ付キ裁判ヲ爲ス可カラズ但辯論ニ因リ發見シタル附帶ノ犯罪ニ付テハ此限ニ在ラス

若シ附帶ノ犯罪ニ付キ豫審ヲ必要ナリトスルトキハ本案ノ辯論ヲ停止スルコトヲ得

第百八十五條 左ノ場合ニ於テハ附帶ノ犯罪ナリトス

第一 同一ノ場所ニ於テ同時ニ一人又ハ數人ニテ數罪ヲ犯シタルトキ

第二 數人通謀シテ日時又ハ場所ヲ異ニシ數罪ヲ犯シタルトキ

第三 自己又ハ他人ノ犯罪ヲ容易ニスル爲メ又ハ其罪ヲ免カレル爲メ他ノ罪ヲ犯シタルトキ

第百八十六條 檢察及ヒ被告人ハ第一審第二審ヲ問ハス本案ノ判決アルマテ何時ニテモ管轄遷又ハ公訴受理ス可カラサル申立ヲ爲スコトヲ得

裁判所ニ於テハ職權ヲ以テ管轄遷又ハ公訴受理ス可カラサル言渡ヲ爲スコトヲ得

第百八十七條 裁判所ニ於テ前條ノ申立ヲ却下シタルトキハ本案ノ判決ヲ待タズ直チニ控訴又ハ上告ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ本案ノ辯論ヲ停止ス

第百八十八條 調書ヲ作リタル司法警察官ハ檢察其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ裁判所ノ職權ヲ以テ證人トシテ之ヲ呼出スコトヲ得

第百八十九條 豫審ニ於テ訊問シタル證人又ハ鑑定ヲ爲シタル鑑定人ハ更ニ之ヲ呼出スコトヲ得豫審ニ於ケル證人ノ供述書又ハ鑑定人ノ鑑定書ハ更ニ其證人鑑定人ヲ呼出ササルトキ、證人、鑑定人呼出テ受ケ出頭セザルトキ又ハ豫審及ヒ公判ニ於ケル供述、鑑定ヲ比較ス可キトキハ檢察其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ裁判長ノ職權ヲ以テ之ヲ朗讀セシムルコトヲ得

第百九十條 第百十五條以下ノ規定ハ公判ノ證人ニ第百三十五條以下ノ規定ハ公判ノ鑑定人ニモ亦之ヲ準用ス

第百九十一條 證人疾病其他正當ノ事故ニ因リ出頭スル能ハサルコトヲ疎明シタルトキハ裁判所ハ其部員一名ニ命シ又ハ區裁判所判事ニ囑託シ其所在ニ就テ之ヲ訊問セシムルコトヲ得

第百九十二條 檢察、被告人及ヒ民事原告人ノ請求ニ因リ呼出ス證人ノ氏名目錄ハ開廷ヨリ一日前之ヲ各相手方ニ送達ス可シ

第百九十三條 證人ハ互ニ言語ヲ接ス可カラズ又供述前辯論ニ立會フ可カラズ既ニ供述ヲ爲シタル後ハ公廷ニ留ル可シ但裁判長ヨリ退去ノ允許ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第百九十四條 證人及ヒ被告人ノ訊問ハ裁判長之ヲ爲スモノトス

陪席判事及ヒ檢察ハ裁判長ニ告ケ證人及ヒ被告人ヲ訊問スルコトヲ得

訴訟關係人ハ辯論ニ必要ナリトスル事項ヲ分明ナラシムル爲メ證人ヲ訊問ス可キコトヲ裁判長ニ求ムルヲ得

第百九十五條 證人又ハ鑑定人ノ供述不實ニシテ故意ニ出テ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト思料シタルトキハ裁判所ニ於テ檢察其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ取押ヘ拘留狀ヲ發シ豫審判事ニ送達ス可シ

其證人又ハ鑑定人ノ供述ハ裁判所書記之ヲ錄取シ豫審判事ニ送致ス可シ

本條ノ場合ニ於テハ裁判所ニテ檢察其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ本案ノ辯論ヲ停止スルコトヲ得

第百九十六條 被告人、陪席及ヒ國語ニ通セザル者ナ

ルトキハ第百條第百一條ノ規定ニ從フ

第百九十七條 裁判所ニ於テハ證人被告人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サレシト思料シタルトキハ其證人ノ供述中被告人ヲ退廷セシムルコトヲ得但裁判長ハ證人供述ヲ終リタル後被告人ヲ入廷セシメ其供述シタル事項ヲ告知ス可シ

本條ノ規定ハ共同被告人ニモ亦之ヲ適用ス

第百九十八條 裁判長ハ各證人ノ取調終リタル毎ニ被告人ニ意見アリヤ否ヤヲ問ヒ且其利益ト爲ル可キ證人差出ステ得ヘキコトヲ告知ス可シ

又證人物件ハ被告人ニ示シテ辯論ヲ爲サシム可シ

第百九十九條 辯論中公判ノ手續ニ付キ異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ニ於テ檢察ノ意見ヲ聽キ直チニ之ヲ裁判ス可シ

第二百條 裁判所ニ於テハ公判ノ判決ト同時ニ私訴ノ判決ヲ爲ス可シ私訴ニ付キ取調未タ十分ナラザルトキハ公訴ノ判決アリタル後其判決ヲ爲スコトヲ得

第二百一條 被告人有罪ト爲リタルトキハ裁判所ノ職權ヲ以テ公訴ニ關スル訴訟費用ノ全部又ハ一分ヲ負擔ス可キ言渡ヲ爲ス可シ免許又ハ無罪ノ言渡アリタル場合ニ於テ公訴ニ關スル訴訟費用ハ國庫之ヲ負擔ス

私訴ニ關スル訴訟費用ノ負擔ハ民事訴訟法ノ規定ニ從フ

第二百二條 被告人有罪ト爲リタルトキハ公判ハ私訴ニ係ラサル差押物ハ所有者ノ請求ナシト雖モ之ヲ還付スル言渡ヲ爲ス可シ

第二百三條 刑ノ言渡ヲ爲スニハ罪トナルヘキ事實及ヒ證

據ニ依リテ之ヲ認メタル理由ヲ明示シ且法律ヲ適用シ其理由ヲ付ス可シ(明治三十二年三月法律第七十三號ヲ以テ本條ヲ改ム)

無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ爲スニ付テモ亦其理由ヲ明示スヘシ

第二百四條 判決ノ言渡ハ辯論ヲ終リタル後即日又ハ次ノ開廷日ニ之ヲ爲ス可シ
判決ノ言渡ハ判決主文ノ朗讀ニ因リ之ヲ爲ス其判決ノ理由ハ判決ノ言渡ト同時ニ之ヲ朗讀シ又ハ口頭ニテ其要領ヲ告ケ可シ

第二百五條 判決ノ原本ニハ其裁判ヲ爲シタル裁判所、年月日、其事件ニ干與シタル檢察ノ官氏名ヲ記載シ判事裁判所書記共ニ署名捺印ス可シ

第二百六條 訴訟關係人ハ其費用ヲ以テ判決ノ正本、謄本又ハ抄本ヲ求ムルコトヲ得但上訴ノ爲メ其求ヲ爲シタルトキハ書記ヨリ二十四時内ニ之ヲ下付ス可シ

第二百七條 對席判決ニ因リ刑ノ言渡アリタルトキハ裁判長ヨリ其言渡ヲ受ケタル者ニ前條ノ請求及ヒ其判決ニ對シ上訴ヲ爲スヲ得ヘキコト及ヒ其期間ヲ告知シ又開席判決ニ因リ刑ノ言渡アリタルトキハ其判決ニ對シ故障ヲ爲スヲ得ヘキコト及ヒ其期間ヲ記載ス可シ

若シ其告知又ハ記載ナキトキハ更ニ其通知アルマテ上訴及ヒ故障期間ノ經過ヲ停止ス

第二百八條 裁判所書記ハ公判始末書ヲ作り左ノ事項其他一切ノ訴訟手續ヲ記載ス可シ
第一 公ニ辯論ヲ爲シタルコト又ハ公開ヲ禁シタルコト

及ヒ其事由

第二 被告人ノ訊問及ヒ其供述
第三 證人、鑑定人ノ供述及ヒ宣誓ヲ爲シタルコト若シ宣誓ヲ爲ササルトキハ其事由

第四 證據物件
第五 辯論中異議ノ申立アリタルコト、其申立ニ付キ檢察其他訴訟關係人ノ意見及ヒ裁判所ノ裁判

第六 辯論ノ順序及ヒ被告人ヲシテ最終ニ供述セシメタルコト

第一百九條 公判始末書ニハ前條ニ記載シタル事項ノ外裁判所書記ヨリ年月日、裁判長、陪席判事、檢察及ヒ辯論日ヲ涉ルトキハ其旨及ヒ同一ノ判事出席シタルコトヲ記載ス可シ

第二百十條 公判始末書ハ判決言渡ヨリ三日内ニ之ヲ整理シ裁判長及ヒ裁判所書記署名捺印ス可シ
裁判長ハ署名捺印セサル以前ニ公判始末書ヲ檢閲シ若シ意見アルトキハ其紙尾ニ記載ス可シ

第二百十一條 判決及ヒ公判始末書ノ原本ハ訴訟記録ニ添付シ其裁判所ニ保存ス可シ若シ上訴アリタルトキハ之ヲ上訴裁判所ニ送付ス可シ

第二章 區裁判所公判
第二百十二條 區裁判所ハ左ノ場合ニ於テ其管轄ニ屬スル違警罪及ヒ輕罪ノ公訴ヲ受理ス

第一 檢察ノ起訴アリタルトキ
第二 豫審判事又ハ上級裁判所ヨリ事件ヲ移ス裁判アリタルトキ

第二百十三條 檢察ハ何レノ場合ニ於テモ被告人ニ對シ呼出狀ヲ發ス可キコトヲ裁判所ニ請求ス可シ
裁判所ハ裁判所書記ヲシテ被告人ニ對シ呼出狀ヲ發セシム可シ

第二百十四條 呼出狀ニハ呼出ヲ受ケ可キ者ノ氏名、職業住所、出頭ノ日時、場所及ヒ被告事件ヲ記載シ且被告事件違警罪又ハ罰金ニ該ル可キ輕罪ナルトキハ代人ヲシテ他頭セシムルコトヲ得ヘキ旨ヲ記載ス可シ

若シ被告事件ノ記載ナキ場合ニ於テ被告人未タ其事件ニ付キ取調ヲ受ケサリシトキハ辯論準備ノ爲メ二日ノ猶豫ヲ求ムルコトヲ得

第二百十五條 呼出狀ノ送達ト出頭トノ間少クとも二日ノ猶豫アル可シ

第二百十六條 判事ハ豫審ヲ經サル被告事件急遽ヲ要スルトキハ公判ニ取掛ル前檢證處分ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ檢察其他訴訟關係人ノ立會ヲ要セズ

第二百十七條 證人ハ呼出狀ノ送達ト出頭トノ間少クとも二十四時ノ猶豫ヲ以テ之ヲ呼出ス可シ又呼出ヲ受ケスシテ出頭シタル者ト雖モ異議ノ申立ナキトキハ裁判所ニ於テ證人トシテ其供述ヲ聽クコトヲ得

第二百十八條 判事ハ先ツ被告人ノ氏名、年齢、身分、職業、住所出生ノ地ヲ問フ可シ
檢察ハ被告事件ヲ陳述ス可シ

第二百十九條 判事ハ被告事件ニ付キ被告人ヲ訊問ス可シ必要ナル調書其他證據書類ハ書記ヲシテ朗讀セシメ又證人ノ供述ヲ聽キ其他證據ノ取調ヲ爲ス可シ

若シ被告人ノ自白アリタル場合ニ於テ檢察、民事原告人ノ異議ナキトキハ他ノ證據ヲ取調フルニ及ハス

第二百二十條 證據調濟ノ後檢察ハ事實及ヒ法律適用ニ付キ意見ヲ陳述ス可シ
被告人及ヒ其辯護人ハ答辯ヲ處スコトヲ得
檢察、被告人及ヒ辯護人ハ送ヒニ辯論ヲ爲スコトヲ得但辯論ノ最終ニハ被告人又ハ辯護人ヲシテ供述セシム可シ

第二百二十一條 公訴ニ付キ辯論終リタル後民事原告人ハ被害ノ事實ヲ證明シ且私訴ニ付キ其請求スル所ヲ陳述ス可シ
被告人、辯護人及ヒ民事擔當人ハ答辯ヲ爲スコトヲ得

第二百二十二條 被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬セザルトキハ判決ヲ以テ管轄違ノ言渡ヲ爲スコシ若シ被告人拘留ヲ受ケタルトキハ放免ノ言渡ヲ爲スコシ
本條ノ場合ニ於テ拘留ヲ要スルモノト認メタルトキハ前拘留狀ヲ保シ又ハ新ニ拘留狀ヲ發シ其事件ヲ檢事ニ交付ス可シ

第二百二十三條 被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬シ且犯罪ノ證據十分ナルトキハ判決ヲ以テ法律ニ從ヒ刑ノ言渡ヲ爲スコシ

第二百二十四條 犯罪ノ證據十分ナラス又ハ被告事件罪ト爲ラザルトキハ判決ヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲シ又第百六十

五條第三號以下ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スコシ

第二百二十五條 前二條ノ場合ニ於テハ私訴ニ付キ其請求價額ノ多寡ニ拘ハラズ判決ヲ爲スコシ

第二百二十六條 呼出テ受ケタル被告人又ハ罰金以下ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付キ其代人公判ノ期日ニ出頭セサルトキハ檢事ノ請求スル所ヲ聽キ關席判決ヲ爲スコシ
私訴關係人出頭セサルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ關席判決ヲ爲スコシ

第二百二十七條 禁錮ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付キ被告人出頭セスト雖モ豫審終結ノ言渡書又ハ公判ノ呼出狀ヲ本人ニ送達シタル證アルニ非サレハ關席判決ヲ爲スコシ

豫審終結ノ言渡書又ハ公判ノ呼出狀ヲ本人ニ送達スルコト能ハサル場合ニ於テハ裁判所ニテ猶豫ノ期間ヲ定メ其期間ニ被告人出頭セサルトキハ關席判決ヲ爲スコシ
被告其親覺又ハ其本籍若クハ最後ノ住所ノ地ノ市町村長ニ送達ス可シ若シ其本籍若クハ最後ノ住所ノ地分明ナラサルトキハ同上ノ告知書ヲ少クトモ一月間裁判所ノ揭示板ニ貼付シテ公示ス可シ

第二百二十八條 關席判決ハ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ關席者ニ送達ス可シ
關席判決ヲ受ケタル者ハ其判決ニ對シ故障ヲ申立ルコトヲ得

第二百二十九條 故障申立ノ期間ハ三日トス此期間ハ罰金以下ノ刑ヲ言渡シタル判決及ヒ私訴ノ判決ニ付テハ關席

判決ノ送達ヲ以テ始マリ禁錮ノ刑ヲ言渡シタル判決ニ付テハ被告人自ラ其送達ヲ受ケ又ハ判決執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知リタル日ヲ以テ始マル

第二百三十條 故障ヲ申立テントスル者ハ關席判決ヲ爲シタル裁判所ニ其中立書ヲ差出スコシ

第二百三十一條 裁判所ニ於テハ故障ノ申立アリタルコトヲ相手方ニ通知シ且其事件ヲ公判ニ付スコキ期日ヲ定メ訴訟關係人ヲ呼出スコシ

第二百三十二條 裁判所ニ於テハ職權ヲ以テ故障ヲ許スコキヤ否又故障ノ期間ニ於テ申立チ爲シタルヤ否ヲ調査シ此要件ノ一ヲ缺クトキハ判決ヲ以テ故障ヲ棄却ス可シ

第二百三十三條 故障ノ申立チ受理シタル場合ニ於テハ更ニ通常ノ規定ニ從ヒ裁判ヲ爲スコシ
前項ノ場合ニ於テ故障申立人關席シタルトキハ更ニ故障ヲ申立ルコトヲ得ス

第二百三十四條 第二百四十七條第二百四十八條ノ規定ハ關席判決ニ對スル故障ニモ亦之ヲ準用ス

第三章 地方裁判所公判
第二百三十五條 地方裁判所ニ於テハ豫審判事又ハ上級裁判所ヨリ事件ヲ移ス裁判ニ因リ其管轄ニ屬スル輕罪及ヒ重罪ノ公訴ヲ受理ス

又輕罪ニ付テハ檢事ノ起訴ニ因リ其公訴ヲ受理ス
第二百三十六條 前章ノ規定ハ此章ニ別段ノ定メナキモノニ限り地方裁判所ノ輕罪重罪ノ公判ニ準用ス
第二百三十七條 重罪事件ニ付テハ開廷前裁判長又ハ受命

判事ハ裁判所書記ノ立會ニ依リ一應被告人ヲ訊問シ且辯護人ヲ選任シタルヤ否ヤヲ問フ可シ

若シ辯護人ヲ選任セサルトキハ裁判長ノ職權ヲ以テ其裁判所所屬ノ辯護士中ヨリ之ヲ選任ス可シ被告人及ヒ辯護士ニ異議ナキトキハ辯護士一名ヲシテ被告人數名ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ得

書記ハ本條ノ訊問ニ付キ特ニ調書ヲ作ル可シ
第二百三十八條 裁判所ニ於テ事實發見ノ爲メ必要ナリトスルトキハ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ受命判事ヲシテ臨檢ノ處分ヲ爲シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百三十九條 裁判所ニ於テハ被告人其罪ヲ自白シタルトキト雖モ仍ホ證據ヲ取調ヘサル可カラズ

第二百四十條 裁判所ニ於テハ被告事件區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト認メタルトキト雖モ第一審ノ判決ヲ爲スコシ
私訴ニ付キ其請求ノ價額通常民事上區裁判所ノ管轄ニ屬スルトキ亦同シ

第二百四十一條 裁判所ニ於テ輕罪トシテ受理シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキ又ハ檢事ヨリ更ニ其事件ヲ重罪トシテ訴追スルコトヲ申立タルトキハ豫審判事ニ送付スル決定ヲ爲スコシ但被告人拘留ヲ受ケサルトキハ拘留狀ヲ發スコシ

其被告事件豫審ヲ經タルトキハ公判ヲ止メ更ニ重罪事件トシテ裁判ス可キ旨ノ決定ヲ爲シ受命判事ヲシテ其事件ノ準備ヲ爲シ報告ヲ爲サシム可シ

受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

第五編 上訴

第一章 通則

第二百四十二條 檢事其他訴訟關係人ハ法律ニ許シタル上訴ヲ爲スコトヲ得
檢事ハ被告人ノ利益ノ爲メニモ亦上訴ヲ爲スコトヲ得

第二百四十三條 辯護人ハ被告人ニ代リ上訴ヲ爲スコトヲ得但被告人ノ明言シタル意思ニ反スルコトヲ得ス
第二百四十四條 被告人ノ法律上代理人ハ獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ得

第二百四十五條 拘留ヲ受ケタル被告人上訴ヲ爲スニハ其申立書ヲ監獄署長ニ差出シ署長ハ之ヲ其裁判所ニ送致ス可シ

第二百四十六條 檢事ヲ除ク外上訴ヲ爲シタル者ハ其判決アルマテ何時ニテモ之ヲ取下クルコトヲ得
第二百四十七條 訴訟關係人天災其他避ク可カラサル事變ノ爲メ上訴期間ヲ經過シタル場合ニ於テ其旨ヲ疏明シタルトキハ期間ヲ經過シタルニ因リ失ヒタル權利ヲ回復スルコトヲ得但障礙ノ止ミタル日ヨリ通常ノ期間内ニ其疏明方法ヲ申立書ニ記載シ上訴ヲ爲スコシ

第二百四十八條 前條ノ申立アリタルトキハ裁判所書記速ニ其申立書ヲ相手方ニ送達ス可シ相手方ハ三日内ニ答辯書ヲ差出スコトヲ得

上訴ヲ裁判ス可キ裁判所ニ於テハ檢事ノ意見ヲ聽キ先ツ其申立チ許スコキヤ否ヤヲ決定ス可シ
第二百四十九條 上訴完結ノ後其訴訟記録ハ上訴審ニ於テ

爲シタル裁判ノ附本ト共ニ第一審裁判所ニ之ヲ返還ス可シ

第二章 控訴

第二百五十條 控訴ノ區裁判所又ハ地方裁判所ノ第一審ニ於テ爲シタル本案ノ判決及ヒ第八十七條ニ規定シタル本案前ノ判決ニ對シ之ヲ爲スコトヲ得

第二百五十一條 控訴ハ判決ノ一分ニ限り之ヲ爲スコトヲ得若シ之ヲ限ラサルトキハ判決ノ全部ニ對シ控訴ヲ爲シタルモノト看做ス可シ

第二百五十二條 控訴ノ期間ハ判決言渡アリタル日ヨリ五日トス

開席判決ヲ受ケタル者ハ故障ノ期間内故障ヲ爲サスシテ直チニ控訴ヲ爲スコトヲ得

第二百五十三條 本案ノ判決ニ對スル控訴ノ期間内及ヒ控訴アリタルトキハ判決ノ執行ヲ停止ス

第二百五十四條 控訴ヲ爲スニハ其申立書ヲ原裁判所ニ差出ス可シ

裁判所ハ控訴ノ中立アリタルコトヲ速ニ相手方ニ通知ス可シ

第二百五十五條 原裁判所ニ於テハ期間ヲ經過シタル控訴ノ申立ハ決定ヲ以テ之ヲ棄却ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百五十六條 訴訟記録ハ檢事ヨリ控訴裁判所ノ檢事ニ送致シ其檢事ハ之ヲ裁判所ニ差出ス可シ

公訴ノ判決ニ對シ控訴アリタル場合ニ於テ被告人拘留ヲ受ケタルトキハ檢事ヨリ之ヲ控訴裁判所ノ監獄ニ移ス可シ

第二百五十七條 控訴裁判所ニ於テハ訴訟關係人ニ對シ呼出狀ヲ發シタル後其裁判ヲ取掛ル可シ

第二百五十八條 控訴ノ裁判ニ付テハ地方裁判所ノ第一審ニ關スル規定ヲ適用ス

第一審ニ於テ訊問シタル證人又ハ鑑定ヲ爲シタル鑑定人ハ控訴裁判所ニ於テ其再度ノ訊問鑑定ヲ必要ナリトセサルトキハ之ヲ呼出ササルコトヲ得

第二百五十九條 控訴ノ相手方ハ其判決アルマテ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得

控訴裁判所ノ檢事モ亦附帶控訴ヲ爲スコトヲ得

第二百六十條 控訴裁判所ニ於テハ控訴ノ期間内ニ於テ申立ヲ爲シタルヤ否ヤヲ調査シ期限ノ經過後ニ係ルモノト認ムルトキハ判決ヲ以テ控訴ヲ棄却ス可シ

第二百六十一條 控訴裁判所ニ於テハ控訴ノ理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ控訴ヲ棄却ス可シ

控訴ノ理由アリトスルトキハ原判決ヲ取消シ更ニ判決ヲ爲スコトヲ得

第二百六十二條 控訴裁判所ニ於テハ原裁判所ノ管轄違ナルコトヲ認メタルトキハ原判決ヲ取消ス可シ

此場合ニ於テ拘留ヲ要スルモノト認メタルトキハ前拘留狀ヲ存シ又ハ新ニ拘留狀ヲ發シ其事件ヲ檢事ニ交付ス可シ

原裁判所ニ於テ不當ニ管轄違ヲ言渡シタルトキハ其判決ヲ取消シ事件ハ其裁判所ニ差戻ス可シ

第二百六十三條

前條第一項ノ場合ニ於テ控訴ヲ受ケタル地方裁判所自ラ其事項ニ付キ第一審トシテ裁判權ヲ有スルトキハ更ニ其事件ニ付キ判決ヲ爲スコトヲ得但事件重罪ナルトキハ第二百四十一條ノ規定ニ從ヒ處分ス可シ

第二百六十四條 控訴院ニ於テ地方裁判所力輕罪ナリト判決シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキ又ハ其事件ヲ重罪ナリトシテ主タル控訴又ハ附帶控訴アリタルトキハ其公判ヲ止メ更ニ重罪事件トシテ裁判ス可キ旨ノ決定ヲ爲シ受命判事ヲシテ其ノ事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシム可シ

受命判事ハ豫審判事ニ關スル處分ヲ爲スコトヲ得

本條ノ場合ニ於テ被告人辯護人ヲ選任セサルトキハ第二百三十七號第二項ノ規定ニ從ヒ裁判長ノ職權ヲ以テ辯護人ヲ選任ス可シ

第二百六十五條 被告人、辯護人又ハ法律上代理人ノミ控訴ヲ爲シタルトキハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サス

被告人ノ利益ノ爲メ檢事ヨリ控訴ヲ爲シタルトキ亦同シ

第二百六十六條 控訴申立人出頭セサルトキハ開席判決ヲ以テ控訴ヲ棄却シ相手方出頭セサルトキハ申立人ノ意見ヲ聽キ開席判決ヲ爲スコトヲ得

第三章 上告

第二百六十七條 上告ハ地方裁判所又ハ控訴院ノ第二審ニ於テ爲シタル本案ノ判決及ヒ第八十七條ニ規定シタル本案前ノ判決ニ對シ之ヲ爲スコトヲ得

第二百六十八條 上告ハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

法則ヲ適用セス又ハ不當ニ適用シタルトキハ法律ニ違背シタルモノトス

第二百六十九條 裁判ハ左ノ場合ニ於テ常ニ法律ニ違背シタルモノトス

第一 規定ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セザリシトキ

第二 法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除外セラレタル判事裁判ニ參與シタルトキ但思慮ノ申請又ハ上訴ヲ以テ除外ノ理由ヲ主張シタルモ其效ナカリシトキハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第三 判事思慮セラレ其思慮ノ申請理由アリト認メタルニ拘ハラス裁判ニ參與シタルトキ

第四 裁判所ニ於テ其管轄又ハ管轄違ヲ不當ニ認メタルトキ

第五 法律ニ背キ公訴ヲ受理シ又ハ受理セサルトキ

第六 法律ニ定メタル場合ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽カサルトキ

第七 裁判所ニ於テ請求ヲ受ケタル事件ニ付キ判決ヲ爲サス又ハ職權ヲ以テ判決スルコトヲ得ヘキ場合ヲ除クノ外請求ヲ受ケサル事件ニ付キ判決ヲ爲シタルトキ

第八 判決ヲ公行セス又ハ公開ヲ禁スル言渡ナクシテ辯論ヲ公ニセサルトキ

第九 裁判ニ理由ヲ付セス又ハ其理由ノ組織アルトキ

第十 擬律ノ錯誤アルトキ

第二百七十條 免許又ハ無罪ノ言渡アリタル場合ニ於テハ被告人ノ利益ノ爲メ設ケタル規定ニ背キタルコト又ハ上

地ノ管轄違アリト雖モ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス
第二百七十一條 上告申立ノ期間ハ判決言渡アリタル日ヨ
リ三日トス

第二百七十二條 本案ノ判決ニ對スル上告ノ期間内及ヒ上
告ノ申立アリタルトキハ拘留及ヒ放免ノ言渡ヲ除ク外判
決ノ執行ヲ停止ス

第二百七十三條 上告ヲ爲スニハ其申立書ヲ原裁判所ニ差
出シ且其申立ヲ爲シタル日ヨリ五日内ニ趣意書ヲ差出ス
可シ

裁判所ハ上告申立書及ヒ趣意書ヲ受取りタルヨリ二十四
時間内ニ之ヲ相手方ニ送達ス可シ

第二百七十四條 相手方ハ上告申立書及ヒ趣意書ヲ受取り
タル日ヨリ五日内ニ答辯書ヲ原裁判所ニ差出スコトヲ得
裁判所ハ其答辯書ヲ受取りタルヨリ二十四時間内ニ之ヲ
上告申立人ニ送達ス可シ

第二百七十五條 檢事ヨリ差出スコキ上告申立書及ヒ趣意
書又ハ答辯書ハ一通ヲ作リ一通ヲ上告裁判所ニ差出シ一
通ヲ相手方ニ送達ス可シ

私訴ノ判決ニ對シ訴訟關係人ヨリ差出スコキ上告申立書
及ヒ趣意書又ハ答辯書ニ付テモ亦同シ

第二百七十六條 原裁判所ニ於テハ期間ヲ經過シタル上告
ハ決定ヲ以テ之ヲ棄却ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲
スコトヲ得

第二百七十七條 訴訟記録ハ檢事ヨリ上告裁判所ノ檢事ニ
送致シ其檢事ハ之ヲ裁判所ニ差出スコシ

第二百七十八條 上告ノ相手方ハ其判決アルマテ附帶上告
ヲ爲スコトヲ得

上告裁判所ノ檢事モ亦附帶上告ヲ爲スコトヲ得
第二百七十九條 上告申立人及ヒ相手方ハ辯護士ヲ差出ス
コトヲ得

重罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者上告ヲ爲シ又ハ檢事ヨリ重
罪ノ刑ニ該ル可キモノトシテ上告ヲ爲シタル場合ニ於テ
刑ノ言渡ヲ受ケタル者自ラ辯護士ヲ選任セサルトキハ上
告裁判所長ノ職權ヲ以テ其裁判所所屬ノ辯護士中ヨリ之
ヲ選任ス可シ

第二百八十條 裁判所長ハ受命判事ヲ定ム可シ受命判事ハ訴
訟記録ヲ檢閲シ其報告書ヲ作ル可シ但自己ノ意見ヲ付ス
可カラズ

第二百八十一條 上告申立人及ヒ相手方ハ受命判事ノ報告
書ヲ差出スマテハ其趣意ヲ擴張ス可キ辯明書ヲ上告裁判
所ニ差出スコトヲ得

受命判事報告書ヲ差出シタル後辯明書ヲ差出シタルトキ
ハ之ヲ其報告書ニ添フ可シ

第二百八十二條 裁判所書記ハ開廷ヨリ三日前ニ開廷ノ期
日ヲ上告申立人及ヒ相手方ノ辯護士ニ報知ス可シ

第二百八十三條 開廷ノ日ニハ受命判事先ツ其報告書ヲ朗
讀ス可シ

檢事及ヒ辯護士ハ各其趣意ヲ辯明ス可シ
私訴ノ上告ニ付テハ檢事最終ニ其意見ヲ陳述ス可シ

第二百八十四條 上告申立人又ハ相手方ヨリ辯護士ヲ差出
ササルトキハ其儘ニテ判決ヲ爲スコシ

第二百八十五條 上告裁判所ニ於テハ上告ノ理由ナキトキ
タル權アル裁判所ノ檢事ハ司法大臣ノ命ニ因リ又ハ職權
ヲ以テ何時ニテモ其裁判所ニ非常上告ヲ爲スコトヲ得
非常上告ノ理由アリトスルトキハ原判決ヲ破毀シ直チニ
其事件ニ付キ判決ヲ爲スコシ

第四章 抗告
第二百九十三條 抗告ハ法律ニ於テ特ニ許シタル場合ニ限
リ之ヲ爲スコトヲ得

第二百九十四條 抗告ニ付テハ直近ノ上級裁判所其裁判ヲ
爲スコシ

抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ抗告申立人ヨリ更ニ抗告ヲ
爲スコトヲ得

第二百九十五條 抗告ノ期間ハ裁判ノ送達アリタル日ヨリ
三日トス

第二百九十六條 抗告ヲ爲スニハ其申立書ヲ原裁判ニ爲シ
タル裁判所又ハ豫審判事ニ差出スコシ

其裁判所又ハ豫審判事ニ於テ抗告ノ理由アリトスルトキ
ハ不服ノ點ヲ更正シ又理由ナシトスルトキハ意見ヲ付シ
テ三日内ニ抗告申立書ヲ抗告裁判所ニ送致シ且豫審終結
ノ決定ニ對スル抗告ニ付テハ訴訟記録ヲモ送致ス可シ

第二百九十七條 抗告裁判所ニ於テハ檢事ノ意見ヲ書キ書
類ニ依リ抗告ノ裁判ヲ爲スコシ

第二百九十八條 豫審終結ノ決定ニ對スル抗告ニ付キ抗告
裁判所ニ於テ必要ナリトスルトキハ受命判事ヲシテ事件
ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

受命判事ハ豫審判事ニ關スル處分ヲ爲スコトヲ得
第二百九十九條 抗告裁判所ニ於テハ抗告ヲ許スコキヤ否

又ハ法律上ノ方式及ヒ期間内ニ於テ起リサルトキハ判決
ヲ以テ之ヲ棄却ス可シ

第二百八十六條 上告ノ理由アリトスルトキハ其上告ニ係
ル判決ノ部分ヲ破毀シ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移ス言渡ヲ
爲スコシ但後二條ニ記載シタル場合ハ此限ニ在ラス

第二百八十七條 擬律ノ錯誤又ハ法律ニ背キ公訴ヲ受理シ
タルニ因リ判決ヲ破毀シタルトキハ其事件ヲ他ノ裁判所
ニ移スコトナク上告裁判所ニ於テ直チニ判決ヲ爲スコシ

第二百八十八條 公判ノ手續規定ニ背キタルコトアリト雖
モ其後ノ手續ニ利害ヲ及ボササルトキハ其事件ヲ他ノ裁
判所ニ移スコトナク止メ其手續ヲ破毀ス可シ

第二百八十九條 判決ノ一分ニ對シテ上告アリタル場合ニ於
テ他ノ部分ニ關係アルトキハ其部分ヲモ破毀ス可シ

擬律ノ錯誤又ハ法律ニ背キ公訴ヲ受理シタルニ因リ被告
人ノ利益ノ爲メニ判決ヲ破毀シタルトキハ其利益ハ上告
ヲ爲ササル共同被告人ニモ及ボスコシ

第二百九十條 上告裁判所ニ於テ破毀シタル事件ヲ他ノ裁
判所ニ移ス言渡ヲ爲スコキトキハ其原裁判所ニ接近シタル
同等ノ裁判所ヲ指定ス可シ其單ニ私訴ニ係ル事件ハ之ヲ
其裁判所ノ民事部ニ移スコシ

第二百九十一條 第二百六十五條ノ規定ハ上告ニモ亦之ヲ
準用ス

第二百九十二條 第一審裁判所ト第二審裁判所トナ間ハス
法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シ又ハ相當ノ刑
ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル場合ニ於テ期間内ニ上訴スル者
ナクシテ其判決確定シタルトキハ其事件ニ付キ上告ヲ受

ヤ又抗告ノ期間内ニ於テ申立ヲ爲シタルトキ否ヤチ調査シ
此要件ノ一ヲ闕クトキハ其抗告ヲ棄却ス可シ

第三百條 抗告裁判所ニ於テ抗告ヲ理由アリトスルトキハ
原裁判ヲ取消シ自ラ更ニ裁判ヲ爲シ又抗告ヲ理由ナシト
スルトキハ之ヲ棄却ス可シ

第六編 再審

第三百一條 再審ノ訴ハ左ノ得合ニ於テ重罪輕罪ノ刑ノ言
渡ニ對シ被告人ノ利益ノ爲メ之ヲ爲スコトヲ得但判決確
定ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第一ノ人ヲ殺シタル罪ニ付キ刑ノ言渡アリタルモ其殺サレ
タリト認メラレシ者犯罪後生存シ又ハ犯罪前既ニ死去
シタル確證アリタルトキ

第二同一ノ事件ニ付キ共犯ニ非スシテ別ニ刑ノ言渡ヲ受
ケタル者アリタルトキ

第三犯罪アル以前ニ作リタル公正證書ヲ以テ當時其場所
ニ在ラサルコトヲ證明シタルトキ

第四被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者
アリタルトキ

第五公正證書ヲ以テ訴訟記録ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ
證明シタルトキ

第六判決ノ證據ト爲リタル民事上ノ判決他ノ確定ト爲リ
タル判決ヲ以テ廢棄若クハ破毀セラレタルトキ

第三百二條 再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者左ノ如シ
第一刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事
第二刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ管轄スル控訴裁判所ノ
檢事

第三刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ管轄スル上告裁判所ノ
檢事但司法大臣ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其訴ヲ爲ス
可シ

第四百條 再審ノ訴ハ刑ノ消滅シタルニ拘ハラズ何時ニ
テモ之ヲ爲スコトヲ得

第三百三條 再審ノ訴ハ刑ノ消滅シタルニ拘ハラズ何時ニ
テモ之ヲ爲スコトヲ得

第三百四條 再審ノ訴ヲ爲サントスル者ハ其趣旨書ニ原判
決ノ謬本及ヒ證據書類ヲ添ヘ之ヲ原裁判所ニ差出ス可
シ

原裁判所ノ檢事ハ其書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ上告裁判所
ノ檢事ニ差出ス可シ

原裁判所ノ檢事及ヒ控訴裁判所ノ檢事自ラ再審ノ訴ヲ爲
サントスルトキハ前項ノ手續ニ從ヒ其書類ヲ差出ス可
シ

第三百五條 上告裁判所ニ於テハ檢事ノ請求ニ因リ速ニ受
命判事一名ヲシテ其取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシム可シ

第三百六條 上告裁判所ニ於テハ受命判事ノ報告及ヒ檢事
ノ意見書聽キ判決ヲ爲スコトヲ得

第三百七條 上告裁判所ニ於テ再審ノ理由アルコトヲ認メ
タルトキハ原判決ヲ破毀シ公訴及ヒ私訴ニ付キ再審ヲ爲
スコトヲ得

第三百八條 死者ノ親屬ヨリ再審ノ訴ヲ爲シタル場合ニ於
テ上告裁判所ニテ再審ノ理由アルコトヲ認メタルトキハ
其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スコトヲク原判決ヲ破毀ス可シ

若シ特別裁判所 權限ニ關スルモノト認メスルトキハ決
定ヲ以テ管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得
又第三百六十五條ニ記載シタル場合ニ於テハ決定ヲ以テ免
許ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第三百九條 再審ノ判決ニ因リ無罪ノ言渡アリタルトキ又
ハ前條ノ場合ニ於テ破毀ノ言渡アリタルトキハ其者ノ名
譽ヲ復スル爲メ其判決ヲ揭示ス可シ

第七編 大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續

第三百十條 裁判所構成法第五十條第二號ニ記載シタル大
審院ノ特別權限ニ關スル犯罪ニ付テハ檢事總長ヲ爲スコ
トヲ得

地方裁判所區裁判所ノ檢事及ヒ司法警察官モ亦其犯罪ニ
付キ捜査ヲ爲シ檢事總長ニ報告ス可シ

第三百十一條 前條ニ記載シタル犯罪ノ現行犯アル場合ニ
於テ急速ヲ要スルトキハ地方裁判所、區裁判所ノ檢事及
ヒ司法警察官ハ第四百四十四條及ヒ第四百四十七條第一項ノ
規定ニ從ヒ豫審處分ヲ爲スコトヲ得但豫審判事ニ通知ス
ルコトヲ要セス

第三百十二條 前條ノ場合ニ於テハ地方裁判所檢事ヨリ證
憑書類ニ意見書ヲ添ヘ速ニ之ヲ檢事總長ニ送致ス可シ

第三百十三條 檢事總長ハ何レノ場合ニ於テモ其事件大審
院ノ特別權限ニ屬シ且起訴ス可キモノト認メタルトキハ
豫審判事ヲ命ス可キコトヲ大審院長ニ請求ス可シ

第三百十四條 大審院長ヨリ命ヲ受ケタル豫審判事ハ豫審
ヲ爲シタル上ニテ他ニ取調ヲ要スルコトナシト思料シタ
ルトキハ訴訟記録ニ意見書ヲ付シ大審院ニ差出ス可シ

第三百十五條 大審院ニ於テハ檢事總長ノ意見ヲ聽キ先ツ
其事件ヲ公判ニ付スコトヲ決定ス可シ

其事件地方裁判所又ハ區裁判所ノ權限ニ關スルモノト決
定シタルトキハ管轄裁判所ヲ指定シ其事件ヲ送致ス可シ

第三百十七條 刑ノ執行ハ判決確定ノ後ニ非サレハ之ヲ爲
スコトヲ得ス

第三百十八條 死刑ノ言渡確定シタルトキハ檢事ヨリ速ニ
訴訟記録ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

司法大臣ヨリ死刑ヲ執行ス可キ命令アリタルトキハ三日
内ニ其執行ヲ爲スコトヲ得

第三百十九條 死刑ヲ除クノ外刑ノ言渡確定シタルトキハ
直子ニ之ヲ執行ス可シ

體刑ノ言渡ヲ受ケ其執行ヲ遅レタル者ニ對シ檢事ノ發シ
タル逮捕狀ハ拘留狀ト同一ノ效力ヲ有ス其圍席判決ニ係ル
場合ニ於テ發シタル者亦同シ

第三百二十條 刑ノ執行ハ其刑ヲ言渡シタル裁判所ノ檢事
又ハ上告裁判所ヨリ命ヲ受ケタル裁判所ノ檢事ノ指揮ニ
因リ之ヲ爲スコトヲ得

刑金、科料、訴訟費用及ヒ沒收物品、追徴金ハ檢事ノ命令
ニ依リ之ヲ徵收ス可シ

破壞又ハ廢棄ス可キ沒收物品ハ檢事之ヲ處分ス可シ

第三百二十一條 死刑ノ執行ニ付テハ裁判所書記其始末書

ヲ作リ刑ノ執行規則ニ從ヒ立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印ス可シ

第三百二十二條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者其言渡ニ付キ疑義ノ申立又ハ其執行ニ付キ異議ノ申立ヲ爲シタルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ於テ之ヲ決定ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百二十三條 賠償及ヒ訴訟關係人ニ辨濟ス可キ訴訟費用ニ付キ其判決ノ執行ハ民事訴訟法ノ規定ニ從フ

第二章 復権

第三百二十四條 復権ノ願ハ刑法第六十三條ニ定メタル期間經過シタル後刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヨリ司法大臣ニ之ヲ爲ス可シ

復権ノ願書ハ現ニ住スル地ノ地方裁判所檢事ニ之ヲ差出ス可シ

第三百二十五條 復権ノ願書ニハ左ノ書類ヲ添フ可シ

第一判決正本

第二主刑ノ滿期、特赦ト爲リ又ハ時効ノ成就シタルコトヲ證明スル書類

第三假出獄及ヒ假ニ監視ヲ免セラレタル證書

第四賠償及ヒ訴訟費用ヲ辨濟シ又ハ其義務ヲ免カレタル證書

證書

第五過去、現在ノ住所及ヒ生計ヲ記載スル書類

第三百二十六條 檢事ハ願人ノ品行其他必要ノ取調ヲ爲シ前條ノ書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ檢事長ニ差出ス可シ

第三百二十七條 檢事長ハ更ニ必要ノ取調ヲ爲シ復権ノ願ニ關スル書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

第三百二十八條 司法大臣ハ復権ノ願ニ關スル書類ヲ檢閱シ之ニ意見書ヲ添ヘ速ニ上奏ス可シ

第三百二十九條 勅裁ニ因リ復権ノ願ヲ却下シタルトキハ司法大臣ヨリ其旨ヲ檢事長ニ通知シ檢事長ヨリ願書ヲ差出シタル地方裁判所檢事ニ通知ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ刑法第六十三條ニ定メタル期間ノ半ヲ經過スルニ非サレハ更ニ其願ヲ爲スコトヲ得ス

更ニ復権ノ願ヲ爲スニ付テモ亦前數條ノ規定ニ從フ

第三百三十條 復権ノ裁可アリタルトキハ司法大臣ヨリ其裁可狀ヲ檢事長ニ送致シ檢事長ヨリ願書ヲ差出シタル地方裁判所檢事ニ送致ス可シ

檢事ハ裁可狀ノ謄本ヲ願人ニ下付ス可シ

又刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ裁可狀ノ謄本ヲ送致シ其裁判所ニ於テハ之ヲ判決ノ原本ニ記入ス可シ

第三章 特赦

第三百三十一條 特赦ハ刑ノ言渡確定シタル後何時ニテモ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ判事又ハ監獄署長ヨリ犯人ノ情狀ヲ具シ司法大臣ニ申立ルコトヲ得

監獄署長ヨリ特赦ノ申立ヲ爲ストキハ檢事ヲ經由ス可シ但檢事ハ意見書ヲ添フ可シ特赦ノ申立アリタルトキハ司法大臣ヨリ其書類ニ意見書ヲ添ヘ上奏ス可シ

第三百三十二條 司法大臣ハ刑ノ言渡確定シタル後何時ニテモ特赦ノ申立ヲ爲スコトヲ得

死刑ヲ除ク外特赦ノ申立アリト雖モ刑ノ執行ヲ停止セス

第三百三十三條 特赦ノ申立却下アリタルトキハ司法大臣ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ニ其旨ヲ通知ス可シ

第三百三十四條 特赦ノ裁可アリタルトキハ司法大臣ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ニ特赦狀ヲ送致ス可シ

此場合ニ於テハ第三百三十條ノ規定ニ從フ

附則

第一條 此法律施行前ニ受理シタル豫審ノ故障及ヒ其故障ノ判決ニ對スル上告ハ之ヲ受理シタル地方裁判所又ハ大審院ニ於テ抗告トシテ之ヲ裁判ス可シ

第二條 大審院ニ於テ既ニ受理シタル哀訴、裁判管轄ヲ定ムルノ訴及ヒ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ治罪法ノ手續ニ依リ大審院ニ之ヲ裁判ス可シ

第三條 既ニ發シタル拘留狀收監狀ハ此法律ニ定メタル拘留狀ノ效ヲ有ス

第四條 此法律ノ規定ニ依リ市町村長ノ爲ス可キ職務ハ市町村長ヲ置カサル地ニ在テハ其職務ヲ行フ吏員ニ屬ス

第五條 此法律ハ明治二十三年十一月一日施行シ其日ヨリ治罪法ヲ廢ス

明治四十年五月五日印刷
明治四十年五月八日發行

不許
複製

著作者 宮本 歸一

發行者 石塚 猪男 藏

大阪市東區安土町四丁目三十番屋敷
大阪市西區阿波座貳番町壹番地

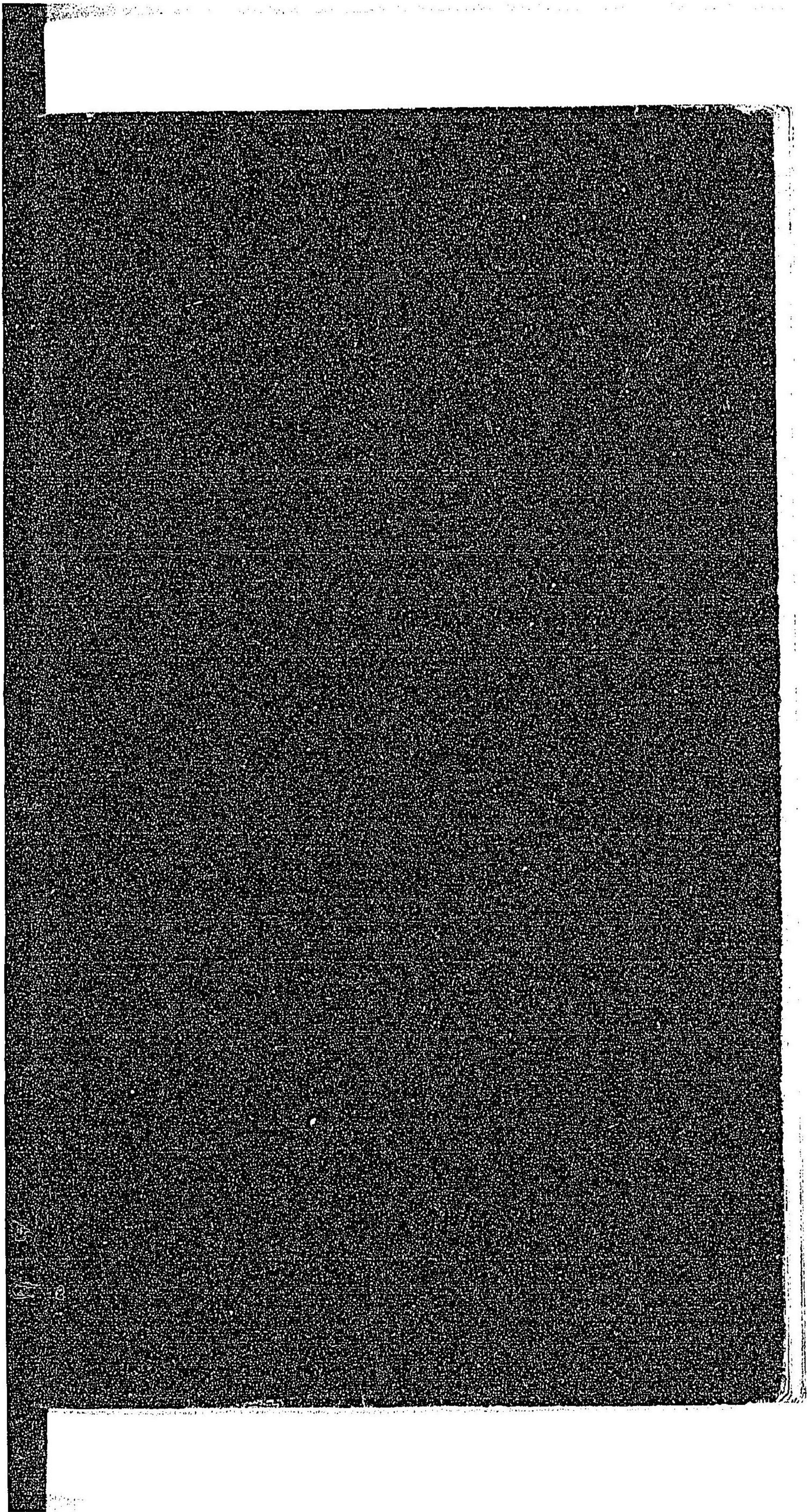
印刷者 堀 越 幸

大阪市東區心齋橋筋安土町東二入

發賣所 石塚 書 舖

(電話東二〇二四番)

252
887



新

刑

新刑法註釈
宮本 帰一 著

新

252
887

036052-000-1

特14-203

新刑法註釈

宮本 帰一 / 著

M40

BBP-0680

